

令和元年度青森学術文化振興財団助成事業

SDGs 時代の地方創生における
高等教育機関の役割に関する調査研究

成果報告書

青森大学附属総合研究所

SDGs 研究センター

2020年3月

本報告書について

本書は、青森学術文化振興財団の令和元年度助成事業「SDGs時代の地方創生における高等教育機関の役割に関する調査研究」の成果報告書である。

2015年9月に国連で採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」ならびに持続可能な開発目標（SDGs）は、人間活動の拡大に伴い引き起こされる諸問題の解決を世界共通の課題として認識し、17と169の具体的な達成目標を掲げるものである。

教育分野のSDGs推進については、目標4「質の高い教育をみんなに」を中心に進められているが、2015年にユネスコ主催の「世界教育フォーラム」が韓国仁川で教育分野における各国代表、国際機関など約160カ国、1500名の参加のもと開催され、「仁川(インチョン)宣言：2030年に向けた教育：包括的かつ公平な質の高い教育及び万人のための生涯学習に向けて」が採択された。これにより、SDGs推進における教育分野のコミットメント、とくに持続可能な開発のための教育（ESD）の重要性が一層高まり、2020年度から小学校で実施される新学習指導要領「2030年の社会と子供たちの未来」で主体的な社会参画、地域貢献活動を促す社会に開かれた教育課程が盛り込まれた。高等教育の分野においては、昨今の大学教育の質的転換の流れを受けて、アクティブラーニングや文理融合、国際化、地域貢献など、学びの仕組みに他者や他分野、地域社会とのつながりや関わりを導入し、知識の量より、習熟と社会参画を目指す学習機会の提供が求められている。

本調査研究は、上記の教育改革を明示的に捉えたもので、地域課題の解決に資する学習機会と、学生の普及啓発イベント実施・参加支援の2つの分野で様々な機会提供を行い、その結果をもとに学習発達度の調査と尺度の整理を行った。なかでも、台湾の協定大学と行った国際協働型の集中ゼミでは、青森大学と海外の学生を対象に、地域活性化の事例とSDGsの相関について英語で学び合い、その内容に対する改善策を英語で立案し、競い合わせる仕掛けを実施した結果、非常に高い学習効果を得ることができた。また、学生の正課外活動実施および参加支援においては、参加学生を対象にルーブリック（学習到達度を示す評価基準を観点と尺度からなる表）を活用して、個々の習熟度について具体的な掌握に努めた。これらのプロジェクトの結果を踏まえて、地域の高等教育機関が今後SDGsを教育プログラムに導入する上での評価と指標運用の課題について、最新動向を踏まえながら整理した。

最後になったが、本調査研究を遂行にあたり、多忙の中、協力支援して下さった青森大学教職員、青森学術文化振興財団の皆様、そして地域の多数の関係者の皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げたい。今回の結果が、SDGsの推進に取り組む地域の高等教育機関の関係者にとって、参考になることを願っている。

2020年3月

青森大学附属総合研究所
SDGs研究センター長 藤 公晴

目次

1. 本調査研究の概要	5
2. 背景と調査の方向性	6
3. 各事業の実施内容と結果	10
4. 学習発達度の調査と尺度の整理	21
5. 考察と提言	30
6. 参考文献	32

資料編

1. グローバル英語参加者募集 チラシ (1枚)
2. Hult Prize 青森大学説明会 チラシ (1枚)
3. 地域循環共生圏とSDGs、人づくり チラシ (1枚)
4. House of Joy なぜ、私は海外で働くのか? チラシ (1枚)
5. 青森大学 SDGs に関する学生アンケート (29枚)
6. 実践大学との共同ゼミとSDGsに関する学生アンケート (19枚)
7. 青森大学ルーブリック (1枚)

1. 本調査研究の概要

ニーズ

本調査の申請を行った2018年11月の時点において、青森県内におけるSDGs推進の動向については単発の普及啓発イベント程度で、SDGsの体系的な普及や調査研究は行われていない。この状況は2019年度においても変わっていない。例えば、青森県内の地域社会の活性化に資するさまざまな事例（例、平内ハクチョウのまち再生事業、幸畑地域のまちづくり、文化遺産との関連性、観光と地域活性化、バイオマス普及など）の発展をSDGsの文脈に関連づけた調査研究は皆無である。特に、2030年に向けたSDGsの目標達成を踏まえると、SDGsという国際共通言語の導入による個人レベルや組織レベル、地域社会の変容、さらには地方の高等教育機関の役割に関する体系的な調査研究が求められている。そうした中、青森大学は「SDGs研究センター」を総合研究所の中に設立し、教育研究活動をSDGsという国際的な共通目標に即して捉え直しながら、人的交流を図りつつ、研究機能と社会貢献活動を加速化させた。しかしながら、特に自然資源の豊かさという資産がある反面、人口流出や少子高齢化による地域社会の疲弊と、上述した次世代の人材育成を踏まえると、単なるSDGsのPR活動を超越し、地域の課題改善と人材育成を見据えた実証的な調査研究の展開とネットワーク基盤形成が急務である。第2章でSDGs推進の意義と文脈について説明するが、地域の高等教育機関によるSDGs運用とは、単なる流行でなく、地域社会の再生と大学教育の質的転換に直結するものでもある。

本調査研究のねらいと目的、アプローチ

本事業は、青森大学SDGs研究センターを主体とするSDGsの普及啓発と国際交流、地域活性化の三つのテーマ軸をもつ、中長期的な研究プロジェクトの初年度分に当たる萌芽的研究調査である。とくにSDGsと関連づけた普及啓発ならびに学習機会の提供を主軸にしながら、現在青森大学と協定を結ぶ台湾実践大学による共同ゼミなど、青森大学の学生と海外の学生を対象に、地域活性化の事例とSDGsの相関についてのフィールドワーク系の学習機会を核にしながら、①地域課題の解決に資する学習機会の提供②学習発達度の調査③そうした取り組みを高等教育機関が推進する可能性と課題の整理を主目的とする調査研究である。

このような人材育成を調査研究に直結させることは、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」とくにSDGsにかかる教養や資質の向上に関連する4.7「持続可能な開発のための教育(ESD)、グローバル・シチズンシップ教育、開発教育、異文化理解教育等」の推進につながる。この詳細は事業報告とともに後述するが、予算や人員という内的な制約条件と、少子高齢化と人口流出、進学者数の確保といった外的な制約条件を抱える地域の中小規模の大学にとって、SDGsの運用による国際的かつ異文化理解の視点を含む教育機会(人材育成)の提供は、教育の質的転換を進める上で意義深い。本調査研究は、そうした地方の高等教育機関の教育の質的転換を進める上での留意点などの課題について整理することをねらいに掲げている。その実現に向けて、本事業は、これまで青森大学が育んだ地域のステークホルダー(青森県国際交流協会や幸畑団地地区まちづくり協議会など)との協力連携を活かしながら、高

等教育機関のSDGs 運用の効果について実証的に調査研究するものである。

各事業の分野とリスト

以上を踏まえて本調査研究で実施した事業は下記の表の通りである。

事業分野と各タイトル	日程	関連ページ/資料
1. 地域課題の解決に資する学習機会の提供		
① 講義やゼミ		
a. 廃棄物と文化財の相関	4月	10ページ
b. 実践大学共同ゼミ	11/11-15	10ページ/資料1
② 学外関係者の普及啓発の実施		
a. Hult Prize 審査員参加、勉強会実施	4/28, 10/28	13ページ/資料2
b. SDGs と地域循環共生圏勉強会	9/19	16ページ/資料3
c. 大学～幸畑 防災協働	11/13	16ページ
d. House of Joy 勉強会	10/23	17ページ/資料4
③ 文理融合の県産ものづくり実験	4月から	18ページ
④ 正課外活動実施および参加支援 学生の普及啓発イベント実施と参加支援	4/20 など	20ページ
2. 学習発達度の調査と尺度の整理（アンケート、ヒアリング）		
① 青森大学 SDGs に関する学生アンケート	7-12月	21ページ/資料5
② 青森大学 実践大学との共同ゼミとSDGsに関する 学生アンケート	11/20-22	23ページ/資料6
③ 正課外活動の支援を受けた学生ヒアリング	1/8	25ページ/資料7
④ 尺度の整理		26ページ
3. 地域の高等教育機関の役割と諸課題に関する整理	まとめ	30ページ

2. 背景と調査の方向性

本章では、本調査研究の意義と論考の方向性について、昨今のSDGs 推進の政策動向と人材育成、高等教育の質的転換の潮流を踏まえながらより具体的に整理する。

2015年9月に国連で採択した「持続可能な開発のための2030アジェンダ」ならびに持続可能な開発目標（SDGs）は、人間活動の拡大に伴い引き起こされる諸問題の解決を世界共通の課題として認識し、2030年に向けた17と169の具体的な達成目標を掲げるものである。日本では「まち・ひと・しごと創生基本方針2017 地方公共団体における持続可能な開発目標（SDGs）の推進」を打ち出し、地域の環境保全など、他の課題群に有機的に結びつける試みを推進している。そして、高等教育機関のSDGs 推進については、2017年9月に日本学術会議が「自らの専門分野における常識や慣習に囚われ過ぎるのではなく、問題が起こっている現場の状況をよりよく知る「市民」と協働する」姿勢や、社会イノベーション創出に向けた分野横断研究の展開を日本の高等教育機関に求めている（p13-14）。

例えば、地球温暖化や海洋プラスチックなど発生源と被害の因果関係が、複雑で越境性を伴う環境保全の分野における人材育成を挙げてみる。地域の高等教育機関が環境保全の諸活

動に参画する学習機会を提供することは、個人レベルの消費行動といった対処のみならず、新たな人間関係や価値観を育み、環境保全型のイノベーションや雇用の創出など、未然防止を超えた、諸課題の解決や地域文化の活性化に向けた関心や能力をも培う可能性を孕んでいる。今から約10年前、第1次安倍内閣で閣議決定した21世紀環境立国戦略（平成19年6月）のアジア環境人材育成イニシアティブでは、若者の育成を展開する上で、指導者の不足、インターンなどの受入体制の整備、大学と外部組織との連携体制の3つの分野の課題を指摘している。

大学教育の改革の流れにおいては、中央教育審議会（2012）が平成24年に「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」を答申した。同答申は、学生の「知識・理解」「汎用的技能」「態度・志向性」「統合的な学習経験と創造的思考力」等を育み「学士力」を向上させるため、教員主体の講義型学習から学生主体のアクティブ・ラーニングへの転換の必要性を掲げており「ディスカッションやディベートといった双方向の講義、演習、実験、実習や実技等を中心とした授業への転換によって、学生の主体的な学修を促す質の高い学士課程教育を進めること」（9ページ）の必要性を強調している。

そうした教育の質的転換を踏まえて、平成30年の同審議会の「2040年の高等教育のグランドデザイン」では、SDGsとの関係に明示的に踏まえながら、その「はじめに」で次の三つの方向性を示している（3ページ）。

1. 高等教育機関がその多様なミッションに基づき、学修者が「何を学び、身に付けることができるのか」を明確にし、学修の成果を学修者が実感できる教育を行っていること。このための多様な柔軟な教育研究体制が各高等教育機関に準備され、このような教育が行われていることを確認できる質の保証の在り方へ転換されていくこと。
2. 18歳人口は、2040年には、88万人に減少し、現在の7割程度の規模となる推計が出されていることを前提に、各機関における教育の質の維持向上という観点からの規模の適正化を図った上で、社会人及び留学生の受入れ拡大が図られていくこと。
3. 地域の高等教育の規模を考える上でも、地域における高等教育のグランドデザインが議論される場が常時あり、各地域における高等教育が、地域のニーズに応えるという観点からも充実し、それぞれの高等教育機関の強みや特色を活かした連携や統合が行われていくこと。

上記を踏まえつつ、特に地方創生を進める上で高等教育機関には次のような機能的な位置づけを同グランドデザインで示している（14ページ）。

高等教育機関、特に大学の自発的研究機能は、教育機能とともに、地方創生にとって極めて重要な役割を担っている。それぞれの地域の社会、経済、文化の活性化のリソースや、特色・誇りの源泉であるとともに、地元産業や新規の企業立地における好条件ともなり、さらには地域における国際交流の推進、国際化への対応への直接的な拠点となる。

上記の高等教育の再生とSDGs推進の文脈を踏まえると、様々な可能性が考えられるが、SDGs

と関連づけた普及啓発ならびに学習機会の提供（人材育成）を主軸にしながら、a. 内なる国際化の推進と b. 正課外活動参画の支援、c. 文理融合の推進、d. 明示的に SDGs を運用しない取組の整理、の 4 点を踏まえた取り組みが重要だと考える。

a. 内なる国際化の推進

第 1 章の本調査研究のねらいと目的、アプローチで触れたが、地域課題の解決について SDGs に依拠しつつ、地域のステークホルダーとの協力のもと異文化理解やコミュニケーションなど、国際的視野と能力を育む学習機会の提供（人材育成の機会提供）は、時代の要請に沿ったものと考えられる。本研究では、そのような学習機会の効果と諸課題の整理を調査研究するものである。地域課題の解決について、異なる国の若者と共同で学び合い、討議する機会を文脈に置くことで、単なる語学の習得を超えた、問題解決の意識や連帯意識、国際性の醸成につながる（佐藤ら 2011; 和泉ら 2015; 水松 2017）。とりわけ、教育の国際化に対する従来の考え方は、海外留学（短期と長期）を勧め、交換留学や語学研修などを主軸にするものであったが、そうした派遣型の国際化は手間と費用がかさむ上、受益者が限られていることから、近年、外国人教員の受入や海外協定校からの留学生の受入、ダブルディグリー、国際交流の仕掛けづくりなどの「内なる国際化」への注目が集まっている（水松 2018; 太田 2011）。こうした動向を踏まえても、SDGs と地域課題を連動させた国際交流、異文化コミュニケーションの機会提供は先駆的試みだと考える。

b. 正課外活動参画の支援

正課外活動は、通常の課程教育と異なり、学生自らの関心と意思決定、様々な他者との集団行動が伴う機会であり、目標に向かって頑張る力、他の人とうまく関わる力、感情をコントロールする力など、活字による知識習得とは異なる、非認知能力ないしは社会情動的スキルを育む機会として、近年注目が増している（佐藤 2007; 中山ら 2015）。近年の文部科学省の大学教育改革の流れにおいても「学生の成長にとっては正課の教育活動に匹敵する重要性を有する」という認識のもと「正課教育を補完するものとして考えられがちであった正課外活動の意義を積極的に捉え直し、各大学がそれぞれの理念や教育目標を踏まえ、適切にその支援等に取り組んでいくこと」を推奨している（中央教育審議会大学分科会教学マネジメント特別委員会 2019）。教育理論の観点に基づくと、教育機会とは、幼児の言語や身体能力などの獲得のように、経験は次への経験の質に必然的に影響するため（J. デューイの経験の連続性原理）、一過性でなく連続性や応用性を踏まえた学習機会の提供が不可欠である。本稿冒頭で触れた通り、現場の状況をよりよく知る「市民」との協働や外部組織との連携を重視する SDGs 時代においては、学生の自発性やキャリア観など、通常の講義等ではカバーしきれない非認知能力ないしは社会情動的スキルの育成を鑑み、正課外活動を介した学習機会の提供が今まで以上に重要になる。

c. 文理融合の推進

上述の 2040 年の高等教育のグランドデザインの「多様で柔軟な教育プログラム」では「各大学等が多様な教育プログラムの提供を実現するため、時代の変化に応じ、従来の学部・研

究科等の組織の枠を越えて、迅速かつ柔軟なプログラム編成ができるようにすることが必要」としている（同 21 ページ）。また、本書前半でふれた日本学術会議による社会イノベーション創出に向けた分野横断研究の展開の要請も踏まえつつ、現在、青森大学でも理系の薬学部とソフトウェア情報学部と、文系の総合経営学部と社会学部で文理融合や副専攻、連携課程の整備を進めている。とくに地方には高等教育機関の数も限られていることから、SDGs と関連づけながら、地域の新産業、雇用創出を目指した文理横断的なカリキュラムや試みが重要である。

d. 明示的に SDGs を運用しない取組の整理

コミュニケーション学や政治学の知見から概念的特徴を述べると、SDGs は地球温暖化や生物多様性、持続可能な開発などと同様、ローカルからグローバル、個人から政府機関や企業など、広範かつ多様な賛同と参画を目指す概念ツールである (Myerson & Rydin 1996; Dryzek 1997)。しかしながら、これらの用語は新しく包括的であるため、それまで地球温暖化の削減を明示的に目指してこなかった取り組み（例、省エネや公共交通機関の利用など）も含めてしまう機能を有している。また、多様な利害関係者を包括するため、主となる考え方や立脚点が曖昧にさせてしまう負の機能もある。SDGs も同様、新しく、地球規模の諸課題を 17 分野、169 のターゲットの分類方法を用いた概念ツールであり、地域活性化やまちづくり、子育て支援などだけでなく、企業活動など環境、社会、経済の課題の解決に向けた取り組みが SDGs 達成に寄与する取り組みとして位置づけられる。しかしながら、青森県内の地域社会の活性化に資する多岐にわたる事例の中、国際的な文脈との関連づけよりも地域コミュニティでの支援を重視する実践者にとって、SDGs とは高圧的な雑音やあやしい PR 活動と捉えられ、ややもすれば不必要や無関係と解釈されてしまう。

以上のような解釈の妥当性は一定の有効性を孕むが、次の 2 点において注意すべきである。1 点目は、ミレニアル世代の若者たちは「SDGs ネイティブ」として、義務教育の段階から SDGs を学んでいることから、SDGs は企業や自治体にとって過小評価すべきでない¹。むしろ、若者にとって SDGs とは社会的諸課題に対する関心を深め、ローカルな関心とグローバルな取り組みを結びつける役割を有しており、今後の消費トレンドだけでなく、社会におけるイノベーションの創出を考えると、重要な学習ツールであり、自己開花ツールでもある。

第 2 点目は、SDGs のスローガン「誰一人取り残さない」を踏まえて、地域活性化に資する多岐にわたる取り組みと SDGs との暗示的な関係について、SDGs を推進する側が自覚することの重要性である。推進する側が明示的ならびに暗示的な関係性を十分踏まえた上で、各種事業に取り組むことで、乖離より連携や連帯感の醸成につながる。こうしたことから、ステークホルダー間の認識のギャップを明示的に踏まえた SDGs の普及推進のあり方、事例に関する論点整理が今後一層必要となる。

¹ 例えば、経済産業省は 2019 年 5 月発行の「SDGs 経営ガイド」の中で、ミレニアル世代の社会課題やベンチャー企業への関心を含む価値観が、企業や事業体の生き残りに大きく影響するとしている。
<https://www.meti.go.jp/press/2019/05/20190531003/20190531003-1.pdf>

3. 各事業の実施内容と結果

1. 地域課題の解決に資する学習機会の提供

① 講義やゼミ

a. 三内丸山遺跡における廃棄物管理

このアクティビティは、社会学部の専門選択科目（教職科目）の環境社会学前期4月24日3限目を実施したもので、その目的は次の二つである。一つ目は、若者への質の高い教育機会の提供することである。廃棄物について広く、実践的に学ぶ本講義において、縄文時代の人々の廃棄物の扱いの様相について三内丸山遺跡（北盛土、南盛土、西盛土）に訪問し見学することで、人類が廃棄物と密接な関係にある点と、大量消費・廃棄の時代の社会構造や価値観について、文明論的な視点で捉える姿勢を育むことである。二つ目は、このような青森の文化歴史遺産の見学を、高等教育機関のカリキュラムの一環としてSDGsの相関を踏まえて実施することの効果と諸課題について検討するためである。



b. 青森大学と台湾協定大学、実践大学の共同ゼミ

11月11日から15日まで、台湾の協定大学、実践大学のグローバル・スタディズの受講生10名（+教職員3名）を青森に迎えて、本学「グローバル英語（4単位 担当：鹿内 史講師、藤 公晴教授）」の受講生10名と計20名で、英語を主言語とする共同ゼミを実施

した。この共同ゼミは、高等教育機関の「内なる国際化」の取り組みにSDGsをと国際共通言語の導入を通して、参加学生と地域のステークホルダーへの効果と諸課題について整理すること目的に、これからの地方の高等教育機関の役割に関する体系的な調査研究の中核事業として着手したものである。

今回の共同ゼミでは、国内最大量を誇る青森のりんごの生産、流通、販売における課題をテーマに、後継者不足の解消を目指す担い手の育成、女性の役割、新商品の開発、社会的地位の向上、外国人労働者を含む新たな労働力の受け入れなど



の最新の取り組みと諸課題について、りんご生産者や中間支援組織、農協、県庁の関係者から話をうかがった。農林水産業の後継者ならびに就労者不足は青森のりんご産業に限るものでなく、台湾でも同様の問題を抱えている。そうした地域の共通課題とSDGsとの関係性を共有した上で、両大学の学生らは3～4名のチームごとに問題解決、解消にかかる事業企画を練り、11月14日に英語によるプレゼンテーション大会を実施した（下記予定表参照）。

11/11	9:00	自己紹介 & アイスブレイカー 場所：青森大学
	10:00	青森のことを知ろう！：青森についてのプレゼンテーション（Q&Aも含む）
	11:00	SDGsを知ろう 17 SDGsを知る
	12:30	昼食@大学レストラン
	14:00	ゲストスピーカー講義@アスパム ● 青森県農林水産部りんご果樹課 企画管理グループマネージャー齋藤氏、サブマネージャー中田氏より「青森県のりんご産業の現状と諸課題について」
	16:00	ディスカッションセッションとアスパム周辺探索
	18:00	夕食
	20:00	マエダアリーナ合宿所へ戻る
11/12	9:00	バス内でオリエンテーション（チームビルディングも兼ねて）
	10:30	ゲストスピーカー講義@弘前りんご公園研修室 ● Next Commons Lab 弘前 森田氏、永井氏、「りんご農家の後継者問題について」 ● JA 相馬農業振興課長 蛭名氏、(株)ロウインズ 営業企画部長の成田氏より「外国人実習生の受け入れについて」
	13:00	昼食と弘前市内のりんごに関係する場所を探索（りんごや加工品の販売状況を知る）
	18:00	夕食
	19:00	国立台北教育大学 Tony Kuo 教授よりレクチャー
	20:00	ゲストスピーカーの話や弘前探索のまとめやディスカッション
11/13	9:00	りんご園訪問（青森観光りんご園）川村氏レクチャー
	11:00	ゲストスピーカー講義@青森大学 ● Yamagata Goodies 結城氏より「日本の農業女性に力を与えるために」 ● 東北農政局 経営・事業支援部 女性活躍推進係長 鈴木氏より「農業女子プロジェクト 成果品展示」
	13:00	昼食
	14:00	青森県産業技術センター（りんご研究所）訪問
	16:00	マエダアリーナ合宿所に戻る
	17:00	実践大学 Hsu-Cheng Chu 教授よりレクチャー、ワークショップ
	18:00	夕食
	19:00	最終日のプレゼンテーション準備
11/14	10:00	共同プレゼンテーション発表会@青森大学
	12:00	昼食
	14:00	浪岡訪問（樽沢里地里山を考える会 出町氏「りんご栽培とフクロウについて」）
	16:00	マエダアリーナ合宿所に戻る
	18:00	夕食
	19:00	集中講義修了式

こうした地域の産業や環境の問題、第一次産業の後継者問題などの諸課題の改善、解決をテーマに異なる国の若者と共同で学び合い、討議する機会を文脈に置くことで、単なる語学の習得を超えた、問題解決の意識や連帯意識、国際性の醸成につながる（佐藤ら 2011; 和泉ら 2015; 水松 2017）。とりわけ、教育の国際化に対する従来の考え方は、海外留学（短期と長期）を勧め、交換留学や語学研修などを主軸にするものであったが、そうした派遣型の国際

化は手間と費用がかさむ上、受益者が限られていることから、近年、外国人教員の受入や海外協定校からの留学生



の受入、ダブルディグリー、国際交流の仕掛けづくりなどの「内なる国際化」への注目が集まっている（水松 2018; 太田 2011）。こうした動向を踏まえても、SDGs と地域課題を連動させた国際交流、異文化コミュニケーションの機会提供は先駆的試みといえる。また、この共同ゼミの「学生チームによる企画案のコンテスト形式」の企画は、次に詳しく紹介する世界最大規模の学生起業コンテスト Hult Prize の仕組みを参考にしたことをここで述べておく。



本学において、海外協定校との英語による合同

ゼミの実施は初の試みなので、教授法や運営、実施体制などロジスティック面の反省点、改善点があった。しかし、事故や怪我もなく、プログラム後実施したアンケートの結果（設問数 13、資料 6）によると、本プログラムに対する学生らの評価は非常に高く、多岐にわたる学習意欲の向上にもつながった（23～24 ページ）。以下はそのアンケートの自由記述の抜粋である。

Q10 SDGs の理解と異文化理解との相関についての自由記述（抜粋）

世界の共通目標・合言葉としての機能を、異文化理解の観点からアクティブラーニングを行うことによって実感できた。そのため、SDGs の関心、理解を高める上で国際交流体験は重要であると考える。

色々な異なる文化の人たちに関心を抱き、理解することは、個々の世界観が広がり知識の幅も増え、色々な方向から物事を考える方によって SDGs についてより深く考えることができるという相乗効

果があると思う。

お互いの文化を尊重しつつ共通の目標である SDGs の達成に近づくことができる。

日本で報じられる問題だけが全てじゃないと思えるきっかけになると思う。日本よりも他国の方が深刻な問題を抱えていると思うので、それを目の当たりにして初めて心動かされる人もいると思う。

違う国の文化や言葉に触れることで、広い視野で物事を見ることができるようになり、SDGs を違う角度からも考えられるようになっていった。

Q13 今回のグローバル英語の感想や、自己の変容や展望などに関する自由記述（抜粋）

今回のグローバル英語を受講する前は、そもそものプログラムの効用や全容をうまく把握できていなかったが、実際に体験してみて非常に高度な学習であることがわかった。台湾の学生と自分自身との間に存在する積み上げてきたものの差を痛感しながら、それでも関わっていこうという主体性の萌芽を自己の変容として持ち帰ることができた。今後はこの経験を地域課題に関する論文やワークショップでアウトプットできるように大切にしていきたい。

おもっていたよりむずかしかった。ただただ自分の英語の能力の低さを感じた。

今回のグローバル英語で自分の可能性を見出した機会だと感じた。また、環境が変わるだけでも自分の考え方が変わるのかとつくづく感じた。そして、違う言語同士の人々が第二言語で話して、コミュニケーションを取るという魅力にも気づくことができた。しかし、今の自分の実力では自分の考えをそのまま言葉で表すことができない。言葉が通じないというのはこんなにも苦痛だということに初めて気がついた。せっかく大学に入ったのだからいろんなことに挑戦してみたいと強く思った体験でもあった。このグローバル英語を通して少しは英語力が向上したが、それはほんのすこしだと思う。これは初期段階に過ぎず、これからもっとレベルアップを図りたいと思った。

考えることが多い充実した5日間だった。言語の壁がありながらも、異文化理解の大切さを学ぶことが出来た。ゲストスピーカーの方々やSDGsが結び付いたことで、より『これから』を考えるきっかけを学んだ。

今まで全く関することの無かった台湾人との交流をもてた訳だが、文化の違いや言葉が同じでも意味が違ったことなどに驚いた。言葉が通じれば楽しいし、外国語にも興味をもてる

② 学外関係者の普及啓発の実施

a. Hult Prize 審査員参加、勉強会実施

今回の調査研究の一環で、Hult Prize という、世界各地の大学生がSDGs達成を目標に掲げる社会的企業コンテストの東京大会にSDGs研究センター長の藤がその審査員の一人として参画し（4/28）、青森大学を会場に勉強会を開催した（10/28）。

Hult Prize とは、若手社会起業家の育成を目的に、2009 年に世界最大級の語学学校 EF Education First の創始者 Bertil Hult 氏と、Hult International Business School の Ahmad Ashkar 氏が設立した世界最大級の学生ビジネスコンテストである。最大級という評価の背景には、200 万人を超える累積参加者数、年間約 2 万人の運営ボランティア数、毎年 10 万ほど創出される起業アイデア、2009 年以来 1500 を超える大学の参加、世界 25 を超える都市で開催される Regional Summit の仕組み、そして優勝チームに授与される 1 億円 (100 万米ドル) の起業資金などがある。コンテストは概ね 1 年をかけて世界各地で行われ、それ自体が大きな特徴といえる。

毎年 9 月中旬、その年の地球的規模の社会的課題の解決、特に持続可能な開発目標 (SDGs)



の達成に資する文書が同財団本部によって公表される。その文書には、全ての応募チームが検討すべき SDGs に関する特定問題とその要因構造、ソーシャルビジネスの必要性、類似例、企画に求める要件などが記載されている。そのテーマに対して、3-4 名からなる学生チームがそれぞれ創意工夫でソーシャルビジネスの

企画を立案し、地域予選 (Regional) と準決勝 (Accelerator)、決勝の 3 段階を通して競い合う。世界 29 都市の地域予選で優勝したチームは約 6 週間の合宿形式のスキルアップ・プログラム (Accelerator Program) を受け、そこで再び競い合い、最終的に 6 チームが国連本部で行われる決勝に進む。そして、優勝チームには起業資金として 100 万ドルが授与される。

今回の東京地域予選は、2019 年度の Hult Prize JAPAN の設立に先駆けて実施されたものである。



Hult Prize には、1 チームの選出と他の全てのチームの落選という自明の仕組みがある。そうした競争的な仕組みもあり、学生版ノーベル賞という表現を用いた紹介もある。しかしあらためて、グローバル化時代に



身を置く大学生にとっての体験と学習効果、人格形成を考慮すると、次の共創的な側面を持つことから、参加する学生らにとって秀逸な学習機会といえる。

まず、多様な社会状況や文化背景、専門分野、信仰を持つ学生らがチームとして、SDGs という国際共通言語と共通テーマのもと、それぞれ独自の課題解決を目指す事業計画を練り、参加チ

ームがプレゼンテーションを通して相互に学び合う機会が埋め込まれている。プレゼンテーションという形式は、五輪などのスポーツ競技と異なり、互いに傾聴し結果を待つ機会が伴うことから、国境や専門分野を超えた、イシューベースの理解と連帯感を育む異文化理解の機会でもある。このようなダイナミックな異文化理解の機会は、現行の高等教育機関の枠組みと制約条件を踏まえると、大学単独の提供はほぼ不可能といえる。また、海に囲まれた国土に生まれ育った日本の学生の能力向上を考えると、極めて稀有な機会である。さらに、こうした国際性の濃いイベントの運営を支える学生ボランティアにとっては、学生チームと運営者、審査員をつなぐ役割を担うがゆえ、単なる英語コミュニケーション能力の向上を超えた学習機会であることは言うまでもない。現在、日本では東京大学や慶應義塾大学、京都大学、北海道大学など約 70 校が Hult Prize のキャンパスプログラムの導入を通して参画し始めており、今後本格的な普及が見込まれる。このような国際性と問題解決能力を育むビジネスコンテストと交流促進の仕組みそのものは、「学びの仕組みを開く」という観点で非常に有効で、とくに外国人との交流の機会が都会と比較して少ない地方の高等教育機関にとっては、意義深いと考える。

10月28日にはHult Prize 2018の優勝チームがHult Prize JAPANの代表 Hiro SANO 氏と青森に来訪し、その公開勉強会を青森大学で実施し、学生と教職員がHult Prize の仕組みと考え方、青森など地方の高等教育機関における導入の展開の可能性と課題について意見を交わした(資料2)。

b. 勉強会「地域循環共生圏の創造とSDGs、人づくり」実施（9月19日）

地域循環共生圏とは、少子高齢化、人口減少等に起因する地域の諸課題の改善解決を、美しい自然景観や文化など多様な資源を活かす取り組みをより明示的に展開することで、自立・分散型の地域社会の形成と、都市と周辺地域、源流域と下流域の相互補完の仕組みの構築を目指す考え方である。こうした地域の特性に着目する考え方や取り組みは真新しいものでな



いが、日本政府の総合的な環境施策「第五次環境基本計画」（2018年4月閣議決定）で明確に打ち出された。こうした国レベルの最新動向を踏まえて、SDGs との関係について広く学ぶ勉強会を青森スタートアップセンターで実施した（資料3）。今回の勉強会は、今後の地方自治体の政策や市民活動、活性化の取り組みに少なからず影響を与えるだろうという問題意識のもと、日々現場で「取り組み」を展開する当事者の話にも耳を傾ける機会を設けて、考え方と実践の相関、接点を探った。内容と評価は抜粋記事の通りであるが、当日は青森大学の学生を含めて、地元の林業従事者、県と市の自治体スタッフ、議員、財務省スタッフなど多様な参加者35名を迎えて盛況だった。

c. 青森大学～幸畑 防災協働（担当：櫛引素夫教授）

2019年度の櫛引研究室としての活動は、「SDGs時代の地方創生における高等教育機関の役割に関する調査研究」への参画を踏まえて、地域コミュニティにおける高等教育機関の役割を鑑みたより実践的な取り組みにシフトした。幸畑団地地区まちづくり協議会との協働をベースとして、「住民・学生・教職員の防災意識と連携をどのように再構築するか」の基礎固めの年となった。

・青森大学は2014年、幸畑団地地区まちづくり協議会の一員として発足に参画し、活動の一翼を担ってきた。特に防災の分野は、専門性を持った住民が少ない事情もあり、防災士の資格を持つ教職員と学生が活動に大きな役割を占めてきた。同協議会が設けた「防災ワーキンググループ」のリーダーは、筆者・櫛引（NPO法人青森県防災士会理事）が務めている。

・これまでの具体的な活動としては、2013年から2014年にかけて、住民の参画も得て実施した「防災授業」がある。青森市危機管理課から講師を招き、社会学演習の授業を活用して、防災に関する実践的な知識や対策の検討法を学んだ。2017年からは青森大学を会場に、大学と同協議会共催の「合同防災訓練」を実施してきた。心肺蘇生法や避難所運営ゲームの体験が主な内容だった。

・上記の経緯を踏まえつつも、今年度から「SDGs時代の地方創生における高等教育機関の役割に関する調査研究」への参画を踏まえて、地域コミュニティにおける高等教育機関の役

割を鑑みたより実践的な取り組みにシフトさせた。それまでの取り組みが、参加者の増加や防災知識・スキルの向上といった高等教育機関の社会的な機能のさらなる発現に必ずしもつながってこなかったという反省に立ち、大学の施設、教育的効果の観点を踏まえて、「合同防災訓練」の形態から見直すことにした。

・青森大学は2016年度、青森市の避難所に指定されていたが、実際に避難所として稼働する際の手順、マニュアル、連絡網などが未整備の状態だった。そこで、2019年11月13日に実施した本年度の合同防災訓練は、実際に避難所となる「正徳館」（第二体育館）を視察



するとともに、まず、要検討課題についての洗い出しを行った。その結果、避難所の運営体制の想定に加え、想定され得る具体的な災害ごとの対応の確認、住民への避難所開設の周知方法などがポイントとして浮上した。

・当日は、櫛引研究室所属の学生防災士2人が検討と

議論に参加するとともに、1人が卒業論文の資料集めを兼ねて、筆者監修の元、防災意識アンケートを実施した。この結果を年度内に分析し、より実効性の高い防災への取り組みを検討する予定である。

・住民の間では、SDGs そのものの知名度が低いことに加え、防災とSDGs のつながりにもほとんど意識されない状態にあることから、さまざまな場面・手法で、総合的な防災・SDGs に関する啓発活動を展開していく必要がある。

・その一環として2019年11月1日、本学で2018年度に発足したSDGs 自然サークルが開催している「焚き火の語り場」への地域コミュニティの参加者に、SDGs・防災アンケートを実施した。参加者、回収数とも決して多くはなかったが、SDGs と防災の接点について検討する貴重な資料が得られた。

・このほか、社会学部コース必修科目「メディア論」では毎年、「防災とメディア」に関する内容を取り上げており、このテーマに対する学生たちの関心は高い。年内をめどに、この授業においてSDGs と防災、メディア（社会・人々の意識）に関するアンケートを実施して、現状分析の参考にするとともに、このアンケート実施自体を、啓発活動の一環と位置づけて取り組みを進めていく。

d. 「海外の児童養護施設の現場から」House of Joy 勉強会（10/23）

フィリピン ミンダナオ島南東部で、日本人が運営する孤児院 “House of Joy” で副院長兼事務局長を務める澤村 信哉氏を迎えて、約40名の学生、教職員、一般市民が同孤児院の取り組みについて学び知る機会を青森県青年海外協力協会の協力のもと得た（資料4）。青森



大学には社会学部の中に社会福祉コースがあり、社会福祉士と精神保健福祉士の資格取得を目指す学生にとって、国際協力や教育支援の現場を学ぶ機会はキャリア開拓や関連分野の知見を得る上で非常に有益である。今回は同施設の紹介に加えて、大学生のインターンシップ受入などについて、SDGs との関連性を踏まえながら、興味深く話を伺った。

また、今回の勉強会実施にあたり、SDGs サークルの学生らが司会進行を行ない、同施設の取り組みとSDGsの相関に関するディスカッションのファシリテーターを務めた。

③文理融合による県産ものづくり

本プロジェクトでは、青森大学の薬学部（三浦 裕也学部長、大越絵実加准教授）を中心に、地域の自然資源（湧水、白樺、山椒）を活用した、青森県産ものづくりアイデア（白樺樹液 トニックウォーターwith 山椒未成熟果実 / 白樺樹液シードル など）の試作品を学生と地域の関係機関の協力を得ながら制作するもので、2019年度春から実験に取り組んだ。また、SDGs の目標に明示的に関連づけたアウトリーチ活動も実施した。実験過程については、4月上旬から白樺樹液を採集し減菌処理などを行い、7月から山椒の未成熟果実の採集、凍結乾燥させた。その上で、大学周辺の湧水2カ所で試作品用の水を複数回採集し、トニックウォーターの開発に取り組んだ。

本試作品のアウトリーチ活動については、青森大学附属総合研究所の観光文化研究センター主催（佐々木 豊志教授）の体験型観光商品開発セミナーで取り組みの紹介を学生と地域の観光関係者に行った。

[甘さの立証] 樹液にたかるアリ



[青森大学内学生による樹液採集]



[樹液採集による幹の破損と1年後の修復]



[自然的な白樺幹の破損]カッコウによる穴



加熱処理の10倍濃縮白樺樹液を0.45umフィルターろ過し、試作品添加用に冷凍保存する。

[白樺樹液トニックウォーター用の青森の水プロジェクト調査採水場所]

- ・水量豊富、飲用、採水が容易、所在が青森県。
- ・由緒、来歴、云われがある。

採水場所	住所	日時/採水量	由緒/来歴
合子沢清水 (Concept : 八甲田)	青森市 合子沢字山崎	052519/ 4L 060119 /4L 060819/10L 070719/ 20L 112419/ 24L	八甲田山麓 皇太子ご夫妻 1997年(平成9)の全国育樹 祭
十和田霊泉 (Concept : 青森名水)	青森市浪岡大字 吉野田字荷越沢	060119/ 8L 070719/ 20L	昭和60年度青森県「私たちの 名水」認定。水神の龍神がい るといふ信仰

[白樺について]

白樺とは、カバノキ科カバノキ属の落葉高木の一つで、白い樹皮と三角形に近い形の葉を持つ木本植物である。北・中央ヨーロッパや北アメリカなどにも広く生育し、暖かい地方では病害虫の発生が多いため、育ちにくく、寒い地方では生長が早いという特徴を持つ。樹液には、糖質やアミノ酸、リンゴ酸、ミネラル類などが豊富に含まれ、便秘や痛風の改善効果、健胃・整腸効果で知られている。また、最近ではストレスをやわらげる効果もあると考えられている。白樺は甘味料であるキシリトールの原料としても有名である。そのため、白樺の樹液は古くから世界各国で健康飲料として愛されている。白樺の樹液は、幹に小さな穴を空けるだけで簡単に採取することができる。樹液は、水のように透過し、ほんのりとした甘みを持つ。古くから北欧、ロシア、アイヌの北国の先人達はこの樹液水を春の自然の恵みとして飲む習慣があった。白樺は海外では「パイオニアツリー」(先駆樹種)、「ナース・ログ」(森の看護婦)、マザーツリー(母なる樹)などと呼ばれ、神聖で神秘に満ちあふれた樹として祀られてきた。春、芽吹く頃の白樺の幹に傷を付けると、大量の樹液が吹き出す。樹液は人工甘味料キシリトールの原料になる。樹液に含まれる成分にヒトの表皮の保湿を促進する効果があることから化粧品にも利用される。

[山椒の効能・効果]

ミカン科サンショウ属の落葉低木。山椒の実には、内蔵機能を高めたり、胃腸を健康にしたりする働きが報告されている。また、発汗や代謝を促したり、中枢神経を刺激したりして、身体や脳の各機能を活発化させる効果も知られる。

胸苦しきの緩和、食欲増進、冷え性の改善、便秘解消、心臓病や動脈硬化など、生活習慣病の予防、抗うつ効果

成分：サンショオール、ゲラニオール、リモネン

サンショウ未成熟果実の青森県産ミネラル水加熱3倍濃縮抽出液に独特の「しびれ感」があることを発見した（成熟サンショウには見られない）。



④正課外活動実施および参加支援

普及啓発イベントの実施と参加支援

上述の通り、本調査事業では正規の教育課程の対象にある、課外活動や学外の関連行事への参画を通じた普及啓発や能力向上の機会を青森大学の学生サークルのメンバーを中心に設けた。こうした行事は夕方や週末など、所定の講義やゼミの時間外で、学生らの創意工夫、言い換えると自主性や主体性、他者とのコミュニケーションを集団的な活動の中で育むことができる。また、学外で行われる普及啓発の機会に参加することで、各分野の専門家や実践者との親交を築くことで、キャリア開拓にもつながる。こうした偶発的な出会いや発見が学生の学習意欲の向上にも資する上、本事業の地方創生における高等教育機関の役割の整理という趣旨にも合致していることから、以下の機会提供を行った。

特に下記 1. の焚き火を通じたバイオマスに関する普及啓発活動は、学生の発案で大学敷地内の中庭で毎月定期的にも実施するもので、5月～1月まで合計9回実施し、のべ80名程の学生、教職員、地域住民、バイオマス関係者（材木、薪ストーブ販売、地域防災士、農家など）が参加した。各回、防災や教育などのテーマについて参加者が話し合い、普及啓発と交流・ネットワーク形成の二つの側面において効果があった。

1. SDGs サークル 焚き火によるバイオマス啓発活動支援（6月以降毎月1回）実施支援
2. 三沢アースデーにおけるバイオマス利活用の普及啓発活動
3. SDGs と地域循環共生圏 勉強会（9月）企画運営
4. ねぶた祭りの山車の廃材の利活用に関する見学、関係者ヒアリング（7月）
5. 第6回みちのく薪びと祭り in 青森おおわに（10/26-27）学生参加支援
6. SDGs に関する勉強会（10/23）企画運営（②-a, ②-b, ②-d）
7. 清里ミーティング運営ボランティア（11/11-18）参加交通費支援

4. 学習発達度の調査と尺度の整理（アンケート、ヒアリング）

本調査では、地方の高等教育機関がSDGsをより明示的に学習機会に組み込むことを想定し、下記3つの調査を学生対象に実施した。SDGsに関連する講義に出た学生らと、海外協定大学との共同ゼミに参加した学生らに対しては、オンラインアンケートを実施し、正課外活動として学内外の啓発イベントに参画した学生らには、グループインタビューを実施した。なお、アンケート実施には回答収集の利便性と集計の効率化を踏まえて、オンラインアンケートのSurveyMonkeyを活用した。

調査名	実施日	設問数	回答者数	備考
① 2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート	7-12月	8	198	資料5
② 実践大学との共同ゼミとSDGsに関する学生アンケート	11月	13	10	資料6
③ 課外活動等に参加した学生ヒアリング	12月	N/A	5	資料7

その中でも顕著な結果について以下に整理した。各データやコメントの詳細については巻末の各資料の当該アンケート結果を参照のこと。

また、本章の最後に調査研究の結果を踏まえて、SDGsの指標に関する動向を整理した上で、今年度の調査研究で得た知見を総括する。

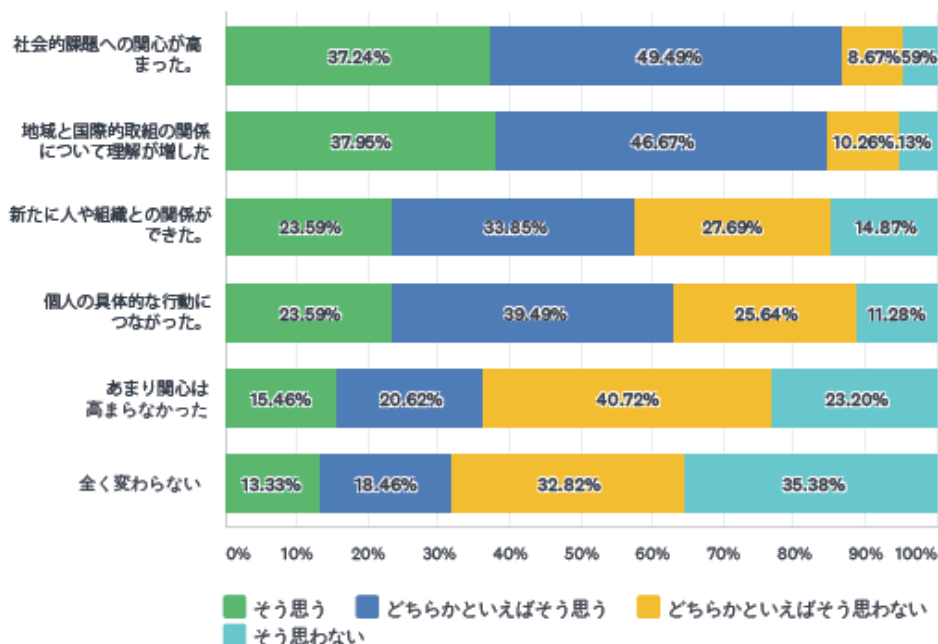
① 2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

2019年度時点において、青森大学ではSDGsをカリキュラムの中に体系的に組み込んでいないが、一般教養科目の環境論や一部の専門科目など、各担当教員の裁量でSDGsを扱っている。こうした状況を踏まえて、このアンケートではSDGsの扱いの様相、度合い、学生の認知度、効果等を調べた（参加者数198）。ただし、全学的な実施ではないためあくまでも目安である（資料5）。まず設問1では、全般的な認知度を尋ねた結果（複数回答可）、約半数がSDGsの存在を知っており、その中で17のゴールと169のターゲットであることについては、1割強の学生が理解していた。また、設問3でSDGsに関係している講義の有無について尋ねた結果、多数の講義がSDGsを扱っていることが示された。設問4でSDGsの効果について尋ねた結果（次ページのグラフ）、SDGsを知ることで「社会的課題への関心が高まった」や「地域と国際的取り組みの関係について理解が増した」の項目で、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を選んだ割合が合わせて、8割を超えていることから、SDGsを知ることによる教育的効果の高さが示された。

SDGsに関する学生アンケート回答者内訳
年齢：18歳(51), 19歳(66), 20歳(49), 21歳(21), 22歳以上(11)
男女比：男性79.8% 女性20.2%
学部：総合経営学部33%, 社会学部49%, ソフトウェア情報学部18%

設問4「SDGsの効果について、当てはまるものをそれぞれ一つ選んでください。」

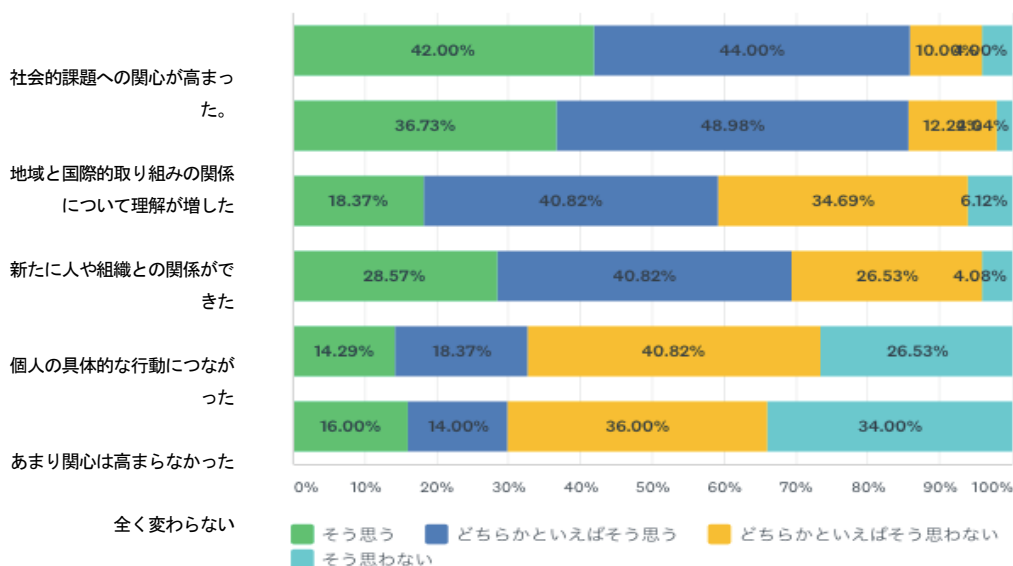
回答者数:196 未回答者数:2



また、この同設問の回答傾向について、比較的SDGsの知識が低いと思われる18歳(50名)に限定したところ、類似の傾向が示されたことから、初年度において、SDGsは社会的課題への関心や地域と国際的取り組みの関係の理解を高める上で、有効な学習ツールであると考えられる。

設問4「SDGsの効果について、当てはまるものをそれぞれ一つ選んでください。」

回答者数:50名(18歳のみ)



ただし、新たな人間関係の構築や具体的な行動の創出への効果に対するポジティブな回答は、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて5割を超える程度あることから、普及啓発を超えた具体的な行動に誘うための学習機会の提供の必要性が示唆された。

設問5で、世界各地で進むSDGs関連の取り組みに対する関心度を尋ねたところ、約半数が関心を持っており、残りが「あまり関心がない」や「わからない」であった(資料5)。また、設問7において、講義以外でSDGsについて自ら調べたり、行事に参加する学生の1割強であった(資料5)。より詳細な分析が必要であるが、設問4におけるSDGsの普及啓発の効果を踏まえると、学生らの興味や関心を着実に継続、発展させるカリキュラムの体系化が求められていることが示された。このようなカリキュラムの体系化への期待については、設問8の自由記述の中にも多く含まれていた(資料5)。

② 青森大学 実践大学との共同ゼミとSDGsに関する学生アンケート

前述したが、11月11日から15日まで、台湾の協定大学、実践大学のグローバル・スタディーズの受講生10名(+教職員3名)を青森に迎えて、本学「グローバル英語(4単位)」の受講生10名と計20名で、英語を主言語とする共同ゼミを実施した。青森のりんごの生産、流通、販売における課題をテーマに、後継者不足の解消を目指す担い手の育成、女性の役割、新商品の開発、社会的地位の向上、外国人労働者を含む新たな労働力の受け入れなどの最新の取り組みと諸課題について、りんご生産者や中間支援組織、農協、県庁の関係者の話をうかがい、SDGsとの関係を踏まえながら、3~4名のチームごとに問題解決、解消にかかる事業企画を練り、最終日に英語によるプレゼンテーション大会を実施した。プログラム後のアンケートの結果(設問数13、資料6)によると、本プログラムに対する学生らの評価は非常に高く、学習意欲の向上にもつながった。

まず、受講生は全員、ある程度のSDGsに関する知識を持っており、大学の講義でその知識を得た可能性が高い(設問1&2)。また、半数の受講生がSDGsについて自ら調べたり、行事に参加した経験を持っている。ほぼ全員が4泊5日のこのゼミで英語力が増したと評価している(設問5)。後述するが、語学力に加えて、地域の課題の改善解決など、多様な学習効果があったと評価している。

グローバル英語 受講生の内訳

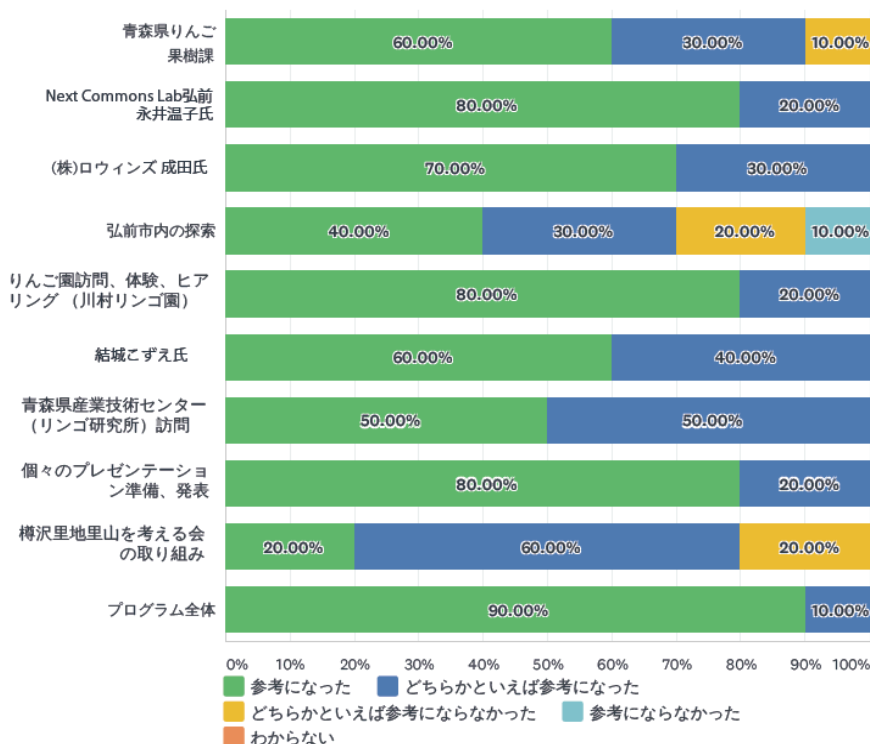
男女比: 男7 女3

年齢: 18歳(3)、19歳(2)、20歳(2)、
21歳(1)、24歳(1)、25歳以上(1)

学部: 総合経営学部6名、社会学部3名、
科目等履修生1名

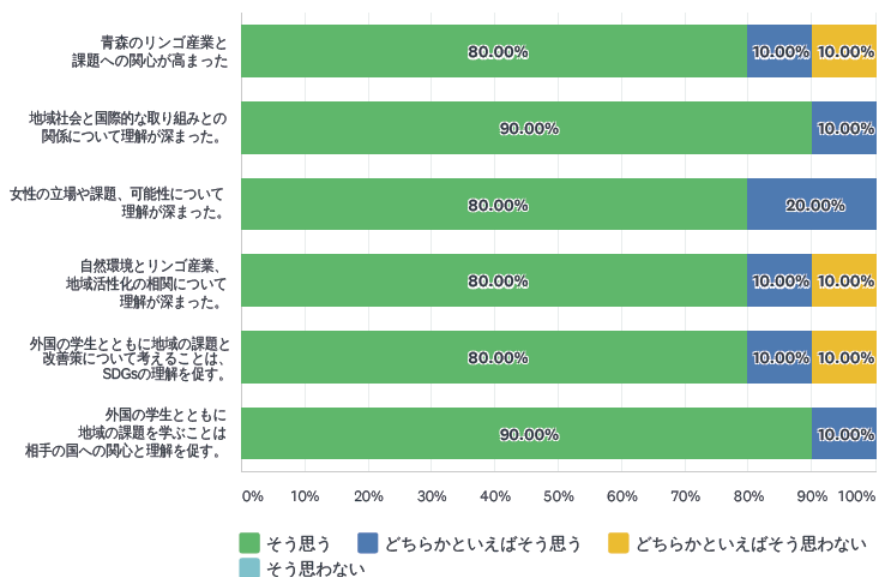
期間中実施した各プログラムに対する具体的な評価は、次ページのグラフのとおりである。講義形式のワークショップへの評価もさることながら、毎晩深夜にかけて取り組んだグループ毎のディスカッションやプレゼンテーションの準備に対する評価が非常に高かった。

設問 7 「各プログラムにおける貴方の学びの度合いについて、最も適当なものを一つ選んでください。」

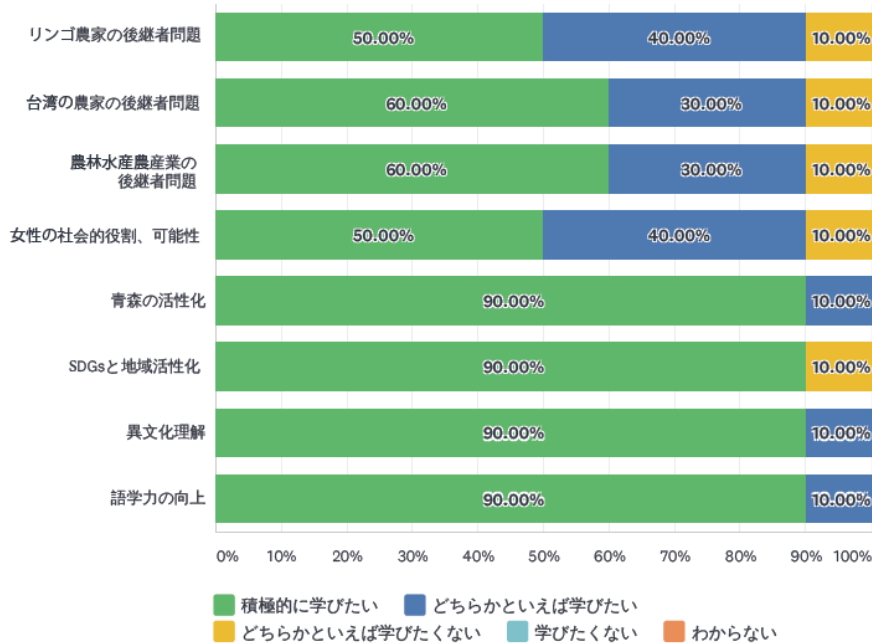


また、以下の二つのグラフは、分野ごとの学習成果（設問 9）と今後の学習意欲（設問 12）の結果で、語学力だけでなく、地域の課題解決や異文化理解、ジェンダー、相手国への関心など、SDGs を軸に構成したプログラムの効果の高さがわかる。

設問 9 「今回のプログラムにかかる以下の学習成果について、それぞれ当てはまるものを一つ選んでください」



設問 12「今回のプログラムで得た下記の知見やスキルについて、今後どのように向上させたいでしょうか？各項に最も当てはまるものを一つ選んでください。」



上記の結果から、今回のプログラムの効果の高さとその複合性が示され、こうしたプログラムを継続する根拠になったと言える。また、こうした内なる国際化のプログラムは、単なる語学の習得を超えた、問題解決の意識や連帯意識、国際性の醸成につながるという、佐藤ら（2011）や和泉ら（2015）で示された先行研究と同調するものであった。しかし、今回初めての試みかつ参加者数が10名で調査としてのサンプルが少なかったため、本アンケートは2020年度事業に向けた予備調査として捉えており、学習効果の掌握にかかる尺度を含む設問設計に改善を加える予定である。

③ 正課外活動の支援を受けた学生ヒアリング

本調査では、正規の教育課程の対象にある、課外活動や学外の関連行事への参画を通じた普及啓発や能力向上の機会を青森大学の学生サークルのメンバーを中心に設けた。こうした行事は夕方や週末など、所定の講義やゼミの時間外で、学生らの創意工夫、言い換えると自主性や主体性、他者とのコミュニケーションを集団的な活動の中で育むことができる。このヒアリングでは、青森大学が全学的に教育の質向上を目的に作成した「ルーブリック（学習到達度を観点と尺度の二つの側面で示す評価表）」（資料7）を用いて、課外活動等に参加した学生らが、同ルーブリックの各項目に照らし合わせながら、具体的項目の能力向上につながったかについて、1月8日に青森大学附属総合研究所の会議室において、グループディスカッション形式で行った。このルーブリックについては、各大学によって項目等が異なるが、

青森大学の場合、4つの力に分類されたもので、個々の説明は下記表の通りである。

4つの力	説明
1. 生涯をかけて学び続ける力	社会の発展や自身の成長に応じて、広い関心と知的好奇心を持って、新たな価値創造や学習経験等の必要性に気づき、専門分野に限定せずに広い視野で、他者と協働しながら自らの学修を主体的・継続的に進めることができる。
2. 人とつながる力	将来の地域社会を担う主体となることの自覚を持って、自分の考えを効果的に表現するとともに、他者に共感し、敬意を払って対話でき、社会の人々と新たな信頼関係を築きながら、協働することができる。
3. 自分自身を見据え、確かめる力	将来を展望しつつ、自らの学修活動を計画し、その実践を多面的に振り返り、社会において自ら果たすべき責任を自覚し、自身の能力・資質の成長を確認するとともに、新たな課題を発見し、改善策を見出す活動ができる。
4. 専門的知識・技術を活用する力	各学位プログラムの基礎と応用に関する知識・技能を修得し、それらを活用して、課題解決等の実践的活動を計画し、倫理的規範を守って行動することができる。

今回学生らが参画した課外活動にも、学生らの創意工夫と自己決定の側面が強いものと、一定の運営方式やスケジュール、達成すべき事柄がより明確なイベント（全国規模の環境教育実践者らが集まる宿泊型ミーティングの運営ボランティア）があり、各機会によって、学生たちが向上させる能力も異なる。例えば、今回のグループヒアリングでは「人とつながる力」や「自分自身を見据え、確かめる力」、「専門的知識・技術を活用する力」の向上について、学生らのコメントが多かった。より具体的には「コミュニケーション力の向上」や「自己観察をより頻繁に行うようになった」、「まとめる力」、「自らを表現する力」の向上につながったという反応があり、目標に向かって頑張る力、他の人とうまく関わる力、感情をコントロールする力など、読み書きそろばんで習得する認知能力とは異なる、非認知能力ないしは社会情動的スキルを育む機会につながったと考えられる。

ただし、今回のヒアリング調査では、次年度以降の調査に向けて、ディスカッション形式で行ったが、ループリックを用いたアンケートやテストの導入、アンケート調査内容との連動を通して、調査そのものの体系化、結果の可視化に繋げたい。

④ 尺度の整理

ここでは、SDGsの指標に関する動向を整理した上で、今年度の調査研究で得た知見を総括する。

グローバルとローカルレベルの指標

まず、SDGsの達成の進捗を見定める指標は、国連統計委員会を中心に構成された「SDGs指標に関する機関間および専門家グループ（IAEG-SDGs）」が策定を担っており、最新版の和訳は総務省のウェブサイトに掲載されている（https://www.soumu.go.jp/main_content/000562264.pdf）。ただし、これらは十全な状態でなく、次の三つに分類して検討作業が継続中である。Tier I（第1類）：指標の概念が明

確で、国際的に確立された方法論が普及しているため利用可能である。指標が関連する各地域において、少なくとも 50%以上の国、あるいは人口を対象として、データが定期的に集められている。Tier II（第2類）：指標の概念は明確であり、国際的に確立された方法論と標準が利用可能である。だが、データが定期的に集められている国は限られている。Tier III（第3類）：指標に関して、国際的に確立された方法論や基準がない。方法論や基準は現在開発中である。また、IAEG-SDGs の指標はあくまでもグローバルレベルの標準を示したものであり、各国には、それぞれの文脈に適した指標へとローカライズする作業が求められている。

こうした指標のローカル化に関連して、2019年8月、日本政府はSDGsの各指標に関する達成状況のデータを公表した。2019年11月時点で公開しているのは、グローバル指標の全指標から定義や算出方法が国際的に定まっていない第3類の指標等を除いた、125指標である。また同時期に、内閣府の自治体SDGs推進評価・調査検討会が地方創生SDGsローカル指標リストを公表した。

第3類の指標

Tier IIIの指標には、例えば、下記で触れる持続可能な開発のための教育（指標4.7）や持続可能な観光の展開（指標8.9）、文化財や自然遺産の保全（指標11.4）、自然共生社会の実現に向けた情報提供（指標12.8）、生物多様性保全と地域活性化（指標15.1, 2, 4, & 9）、十全的なパートナーシップによる取り組み（指標17.17）など、青森のような地域社会の活性化と密接な関係にある指標も含まれている。とくに高等教育機関におけるSDGsの目標達成に資する人材育成の使命を踏まえると、SDGsの目標4「質の高い教育をみんなに」の中の4.7に該当する（下記参照）。



2030年までに、持続可能な開発のための教育及び持続可能なライフスタイル、人権、男女の平等、平和及び非暴力的文化の推進、グローバル・シチズンシップ、文化多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通して、全ての学習者が、持続可能な開発を促進するために、必要な知識とスキルを習得できるようにする。

上記の当該アイコンは、教育がSDGs達成の中心に位置づけられていることを示している。本報告書冒頭で触れた、日本学術会議の大学の「自らの専門分野における常識や慣習に囚われ過ぎるのではなく、問題が起こっている現場の状況をよりよく知る市民と協働する姿勢や、社会イノベーション創出に向けた分野横断研究の展開」というSDGs時代における教育研究の方向性を踏まえると、前のページで触れた青森大学のループリック（学習到達度を観点と尺度の二つの側面で示す評価表）が一つの目安になる。例えば、下記表は青森大学の教育が目指す4つの力の3番目「自分自身を見据え、確かめる力」にかかる学習到達度で、前項2

の「人とつながる力」と共に市民との協働を通じた課題解決力を示している（詳細は資料7を参照）。ただし、このルーブリックについては、現在の高等教育の質的転換の潮流を受けて各大学で開発と導入が進んでいることから、青森大学のそれが唯一の尺度ではないことを述べておく。

3. 自分自身を見据え、確かめる力	将来を展望しつつ、自らの学修活動を多面的に振り返り、社会において自ら果たすべき責任を自覚し、自身の能力・資質の成長を確認するとともに、新たな課題を発見し、改善策を見出す活動ができる。	3F 課題を発見する力	3F1	3F2	3F3	3F4
			集めた情報を客観的に整理しようと努めることができる。	情報を集め、一つの仮説を立てることができる。	集めた情報を組み合わせ、複数の仮説を立てることができる。	複数の仮説の優先順位を考へて、現実の課題解決につなげることができる。
		3G 計画を策定する力	3G1	3G2	3G3	3G4
		目標と計画をおおまかに立て、取り組むことができる。	条件が示されれば、成果や発生する問題を予測できる。	過去の経験に照らして、新たな計画を立てることができる。	困難な事態を予想するなど、現実的で妥当な計画を立てることができる。	
	3H 目標に向けて成し遂げる力	3H1	3H2	3H3	3H4	
		自分なりに工夫しながら、前向きに取り組むことができる。	目標を意識して、初めてのことに楽しんで取り組むことができる。	予想外の事態でも、目標を見失わず、対策を考へて行動することができる。	目標達成のため進捗状況を確認し、失敗からも学んで、行動を修正することができる。	

こうした大学におけるルーブリックの活用は、これまで中央教育審議会などで言及されてきており、例えば、平成20年12月の中央教育審議会答申「学士課程教育の構築に向けて」の中で「各専攻分野を通じて培う学士力～学士課程共通の学習成果に関する参考指針～」として次の4分野を挙げている：(1) 知識・理解、(2) 汎用的技能、(3) 態度・志向性、(4) 統合的な学習経験と創造的思考力。

また現在、大学だけでなく高等学校においても積極的に進められている。なかでも OECD 日本イノベーション教育ネットワークでは、SDGs の達成を明示的に位置づけて、国際協働型プロジェクト学習「地方創生イノベーションスクール」を2017年から8カ国の海外の高等学校と共同で実践しており、ルーブリックを用いて、知識を活用し、汎用的なスキルにすること、さらに学びに向かう態度等、生徒たちの様々なコンピテンシーの向上を評価している（小村 2017）。ここで特筆すべきは、アドホック的な国際協働型プロジェクトでルーブリックを運用している点である。本調査研究の海外協定大学との共同ゼミで行った地域課題の解決に資する企画書作成のコンペは、「地方創生イノベーションスクール」の国際協働型プロジェクト学習と非常に似たもので、2020年度と同プロジェクトでルーブリックを活用する妥当性と実現可能性が示された。

高等教育機関における SDGs 達成に向けた取り組みの指標

以上は受益者（学生）の学習発達度の尺度に関する論考であるが、今後は高等教育機関における SDGs の達成に資する取り組み状況に関する指標について、関係機関の議論が進む見通しで、その論考については、2020年度の本調査研究で詳しく扱う予定である。大学における SDGs 達成に向けた取り組みは、人口減少時代における大学ランキングや学生数の確保、

補助金・研究助成金、寄付金の獲得など、大学の生き残りに直結した課題群と連動させる展開が不可欠であるが、ルーブリックの運用度や正課外活動の支援、学生の学修成果の地域還元、表彰制度の拡充、事業体としての SDGs 目標への貢献など、地域の高等教育機関として身近な取り組みから充実させることが肝要である。

5. 考察と提言：地域の高等教育機関の役割と諸課題に関する整理

本章では、今回の調査結果を踏まえて、地域の高等教育機関の役割と諸課題の整理を行った。

a. SDGs の積極的導入

SDGs を大学のカリキュラムに盛り込む重要性について触れたが、大学での SDGs カリキュラムの体系化は、学習意欲の向上という観点だけでなく、地域の各関係機関と協働プロジェクトを実施するという観点でも、極めて有効なインセンティブである点が今回の調査を通してわかった。SDGs にかかるアンケート結果では、初年度の学生らにとっても SDGs は学習意欲を高める上で効果的なツールであることも示唆された（21～22 ページ）。とりわけ、地域の諸課題の解決を SDGs の運用を踏まえた上で、国際的かつ異文化理解の視点を含む教育機会の提供は、教育の質的転換を進める上で非常に高い効果が示された（24～26 ページ）。また、SDGs は今回の青森学術文化振興財団の研究助成の採択を含めて、大学と多様な関係機関との連携のもと地域の諸課題の解決を目指したプロジェクトを立案しやすく、その実施に向けた助成金の獲得の可能性も高まる。

令和元年度、本調査研究以外でも様々な SDGs の普及啓発に関するイベントが開催され、青森大学 SDGs 研究センター、関係教職員が適宜参画する機会を得た。とくに 2019 年に策定された青森県基本計画『「選ばれる青森」への挑戦』に SDGs の理念を明示的に踏まえた計画推進が示され、2020 年度からはじまる第 6 次青森県環境計画にも SDGs と各施策の関係を明示された。これらの他、青森県内の教育関係者を対象とした「第 1 回青森県 ESD・SDGs 勉強会」（主催：青森県環境パートナーシップセンター、東北地方 ESD 活動支援センター）が開催され、SDGs 推進にかかる青森県内の関係者のネットワーク基盤形成の第 1 歩となった。しかしながら、前述した通り、SDGs をキーワードとして明示的に運用せず、ハクチョウやアマモ等の生きものや、八甲田や奥入瀬溪流、種差海岸などの特定地域を主軸に環境保全の取り組みを展開するグループや個人も多いことを踏まえて、キーワードとしての SDGs の紹介、導入を思慮深く行う必要がある。

b. 内なる国際化の推進

今回の調査研究で着手した海外協定大学との 4 泊 5 日共同ゼミでは、単なる語学の習得を超えた、地域課題解決の意識や連帯意識、国際性の醸成など、多分野における学習効果の高さが示された（23～24 ページ）。とくに課題解決にかかる企画をチームワークで限られた時間内に立案し、チーム同士競い合う仕組みは、参加学生らにとって知識と語学力、コミュニケーション力、調査能力などを発揮させる機会になるため、学生の達成感も大きくなる傾向がアンケートで示された。こうした結果は先行研究と同調するものである上、通常の英語の講義を集中形式で実施できたため、他大学における汎用の可能性も示された。また、このような国際協働型のプログラム実施の効果について、ルーブリックを運用する可能性が示された。ただし、実現にあたり、関係機関との折衝や機関内の準備を含めた労力と予算、さらにはプログラム期間中の衣食住、移動にかかる通訳等の手配や、外国人受け入れにかかるリスク管

理も必要となる。

c. 課外活動および学外活動参画の支援スキーム

SDGs の多分野横断系の指向と地域社会の課題解決に向けた幅広い参画を踏まえると、高等教育機関の正課活動だけでなく、正課外活動における学習および社会参画の機会提供は不可欠といえる。ルーブリックを用いたヒアリング調査では、目標に向かって頑張る力、他の人とうまく関わる力、感情をコントロールする力など、読み書きそろばんなどで習得する認知能力とは異なる、非認知能力ないしは社会情動的スキルを育む機会につながったと言える。こうしたカリキュラム外の学習機会を提供する意義について、大学側そして関係機関がより広い理解と支援を得るためには、大学がまず正課外活動の意義と具体的な内容を積極的に外部に発信する姿勢が重要であろう。また、カリキュラムとバランスのとれた質の高い教育機会を設けるために、大学側はキャリア教育との連動する形で、計画的に難易度や応用度を高めるカリキュラム設計が望ましい。

d. ルーブリックの利活用

今年度の調査研究を通して、ルーブリック（学習到達度を観点と尺度の二つの側面で示す評価表）の運用が、大学における SDGs の普及推進、とくに学生の習熟度を可視化する上で、正課活動にも正課外活動にも有効である可能性が示された。ルーブリックとは、学生が育む能力とその発達段階について普遍的な言語表現を用いて分類したものであり、学生らには振り返りと省察を促すことで、より客観的で精緻な自己分析を促し、指導を担う教員においてもより客観的で精緻な学生分析を促す働きを有する。ルーブリック導入を通じた教育現場の変化とは、単に教え手から学び手への知識伝達型から、能力向上という人間開発型の教育ならびに教授法への移行と考えられる。青森大学でも組織的な運用を進めており、2020 年度からルーブリックを用いた学生指導ならびに学修成果の可視化をより具体的に推進する計画である。次年度の本調査研究においては、他大学の事例を調査しつつ、アンケート調査内容との連動などを図ることで、今後の大学における人材育成の体系的な評価方法と尺度の整理を図る予定である。

まとめ

高等教育機関は SDGs の達成に向けて、人材育成と知の拠点、学生と教職員、多様な人々が関わる事業体という、三つの分野における可能性と同時に責務を負っている。それら三つの中でも、昨今の高等教育の質向上の潮流と背景を踏まえると、体系的な SDGs の導入と文理融合の推進、正課外活動の支援、ルーブリックを用いた学生の習熟度の掌握と指導など、人材育成の取り組みは最も重要であろう。とくに人口減少で第一次産業をはじめとする産業の衰退が顕著な地方圏にとって、人材育成は地域活性化の要と考えられる。2019 年度は助成初年度であるが、様々な学習機会の提供と学生らのアンケート・ヒアリング調査を通して、創造的な学習機会を提供する効果を実証的に示したといえる。2020 年度は本調査研究の結果を礎に、知見の一般化可能性を向上させるべく、各プログラムの遂行そして成果の還元に積極的に取り組みたい。

6. 参考文献

- 和泉元千春, & 岩坂泰子. (2015). 教員養成大学における留学生と日本人学生の協働を通じた異文化間能力の育成. 次世代教員養成センター研究紀要, 1, 135-143.
- 太田浩. (2011). 大学国際化の動向及び日本の現状と課題: 東アジアとの比較から. メディア教育研究, 8(1), S1-S12.
- 小村俊平. (2017). OECD Education2030 と地方創生イノベーションスクールの実践. 工学教育, 65(4), 4_22-4_28.
- 佐藤勢紀子, 末松和子, 桐原健真, 曾根原理, 上原聡, 福島悦子, & 押谷祐子. (2011). 共通教育課程における「国際共修ゼミ」の開設—留学生クラスとの合同による多文化理解教育の試み—. 東北大学高等教育開発推進センター紀要, (6), 143-156.
- 佐藤龍子. (2007). 学生の自発性を促すキャリア教育と正課外活動. 京都大学高等教育研究. (13) 25-34.
- 自治体 SDGs 推進評価・調査検討会 (2019) 地方創生 SDGs ローカル指標リスト
www.kantei.go.jp/jp/singi/tiiki/kankyo/kaigi/h30lwg2/sdgs_shihyou1.pdf
- 中央教育審議会 (2019) 2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン (答申). 文部科学省
www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2018/12/20/1411360_1_1_1.pdf
- 中央教育審議会 (2008) 学士課程教育の構築に向けて (答申). 文部科学省
www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1217067.htm
- 恒吉僚子. (2005). 国際化と教育「内なる国際化の視点と日本の教育」『季刊家計経済研究』, (67).
- 中島祥子 (2014). 多文化間プロジェクト型協働学習における留学生の学び. 鹿児島大学教育学部研究紀要 人文・社会科学編, 65, 133-148.
- 中山芳一, & 吉岡一志. (2015). キャリア教育としての正課外活動支援に関する実践 (2) 学生企画チームにおける能力形成の成果に焦点を当てて. 大学教育研究紀要= *Bulletin of higher education, Okayama University*. (11) 151-162.
- 水松巳奈. (2018). 「内なる国際化」によるグローバル市民育成に関する事例研究. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要= (4), 135-147.
- 水松巳奈. (2017). プロジェクト型「国際共修」が学生の自己効力に与える影響—Kolb の経験学習モデルを用いてデザインした授業に関する一考察—. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要= *Bulletin of the Institute for Excellence in Higher Education, Tohoku University*, (3), 115-129.
- 渡部留美, & 島崎薫. (2019). プレ国際共修授業における国内学生の意識変容と学び—基礎ゼミでの試み—. 東北大学高度教養教育・学生支援機構紀要 (5), 225-236.

日本学術会議 環境学委員会 (2017) 持続可能な開発目標(SDGs)の達成に向けて日本の学術界が果たすべき役割 報告

Burford, G., Tamas, P., & Harder, M. K. (2016). Can we improve indicator design for complex sustainable development goals? A comparison of a values-based and conventional approach. *Sustainability*, 8(9), 861

Dryzek, J. S. (2013). *The politics of the earth: Environmental discourses*. Oxford university press.

Marron, R. K., Naughton, D., & Oaks, S. (2019). Monitoring Progress Towards SDG Target 4.7 in Europe- Proposed Framework and Tools.

Myerson, G., & Rydin, Y. (2014). *The language of environment: A new rhetoric*. Routledge.

Tan, D. T., Siri, J. G., Gong, Y., Ong, B., Lim, S. C., MacGillivray, B. H., & Marsden, T. (2019). Systems approaches for localising the SDGs- co-production of place-based case studies. *Globalization and Health*, 15(1), 85.

青森の未来を英語で考えよう！

資料1



講義コード
00001601

グローバル英語

取得単位
4単位

台湾の実践大学の学生と共に宿泊形式の集中講義を通してリンゴ産業の現状と課題について農園などを実際に見学しながら学んでいきます。

この講義ではリンゴというテーマを通して、以下のことを身につけることが出来ます。

- ・ 英語でコミュニケーションを積極的に取り、失敗を恐れない姿勢を養う。
- ・ 台湾の学生と交流することで異文化コミュニケーションの重要性を知る。
- ・ SDGsの理解を深め、グローバルな視点で社会的課題に繋げることが出来る。

事前
講義

木曜5限 16:20～ 5105教室
事前授業は隔週4回

費用

5000円程度

集中
講義

11/11 (月) ~11/15 (金)
* 宿泊を伴いますが、他の講義
等の調整はこちらで行います。

定員

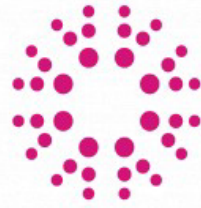
先着15名

講師

藤 公晴 (社会学部教授)
鹿内 史 (ソフトウェア情報学部講師)

【お問い合わせ・お申込み先】 鹿内研究室 (724) f.shikanai@aomori-u.ac.jp

この集中ゼミは 2019年度青森学術文化振興財団 助成
「SDGs時代の地方創生における高等教育機関の役割に関する調査研究」の一環で行います



HULT PRIZE

JAPAN

HULT PRIZE 説明会

2019
10.28 MON
12:30 ~

622 教室

対象：本学学生、教職員、一般

SDGs をテーマとした世界最大級の学生社会起業家コンテスト

「Hult Prize (ハルト・プライズ)」とは？

学生の社会起業を支援する Hult 財団の日本支社の代表 Hiro SANO さんと 2018 年 Hult Prize 優勝チーム Rice Inc. の共同代表 Mr.Kisum Chan, Lincoln Lee 氏を迎えて、学生版ノーベル賞と称される世界最大級の学生社会起業家コンテスト「Hult Prize (ハルト・プライズ)」について紹介させていただきます。

※ Rice Inc (廃棄されるコメの有効活用に関するベンチャービジネス会社)



勉 強 会

「地域循環共生圏の創造とSDGs 持続可能な開発目標、人づくり」

日時

9/19 木

会場

AOMORI
STARTUP
CENTER

参加
無料

17:00~19:30 (開場 16:30)

青森駅前 青森商工会議所 1F

日本政府の総合的な環境施策の大綱等を定めた「第五次環境基本計画」(2018年4月閣議決定)では、「地域循環共生圏」の考え方のもと、環境の切り口で地域資源を活かした自立・分散型の地域社会の形成と、地域の特性に応じた相互補完の仕組みの構築を目指しつつ、持続可能な地域づくりの担い手の育成を推進している。

本勉強会では、SDGs(持続可能な開発目標)の普及啓発が急速に進む動向を踏まえつつ、地域循環共生圏の考え方との親和性、人材育成のあり方について、「地域循環共生圏」政策推進のキーパーソン、岡野 隆宏氏と、地元青森で県産材や薪ストーブの魅力を発信し活躍する石村 真弓氏を迎えて広く話し合います。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
17 GOALS TO TRANSFORM OUR WORLD



ゲスト講師

環境省 自然環境局
自然環境計画課 保全再生調整官

岡野 隆宏 氏



話題提供

薪ストーブと木の雑貨 Woodrack 石村 真弓 氏

モデレーター

青森大学 SDGs 研究センター 副センター長 兼

観光文化研究センターセンター長 佐々木 豊志 氏

後援：青森市

本勉強会は、2019年度青森学術文化振興財団助成 SDGs時代の地方創生における高等教育機関の役割に関する調査研究の一環として実施するものです。

お問い合わせ
青森大学 SDGs 研究センター 藤 公晴

青森市幸畑二丁目 3 番 1 号

TEL 017-738-2001 FAX 017-738-0143

なぜ、私は海外で働くのか？

～ 今その場所で、私がやりたいこと、すべきこと ～



日時

10月23日（水）16:20～17:30

場所

340教室 青森大学 3号館

講師：澤村 信哉 氏



フィリピン児童養護施設 House of Joy 運営責任者

1976年 北海道生まれ 千葉育ち 横浜国立大学教育学部
卒 フィリピン ミンダナオ島 ダバオオリエンタル州在住
専門は年少者向けの日本語教育。
特技は20種類以上の楽器演奏と似顔絵描き。

House of Joyとは？

フィリピン・ミンダナオ島にある、日本人が運営する児童養護施設。親がいない、虐待に苦しむ子供たちを保護し、貧しさから抜け出せるように18歳まで育て上げることをミッションとしている。
日本人大学生のインターンシップにも対応しています。

お問い合わせ

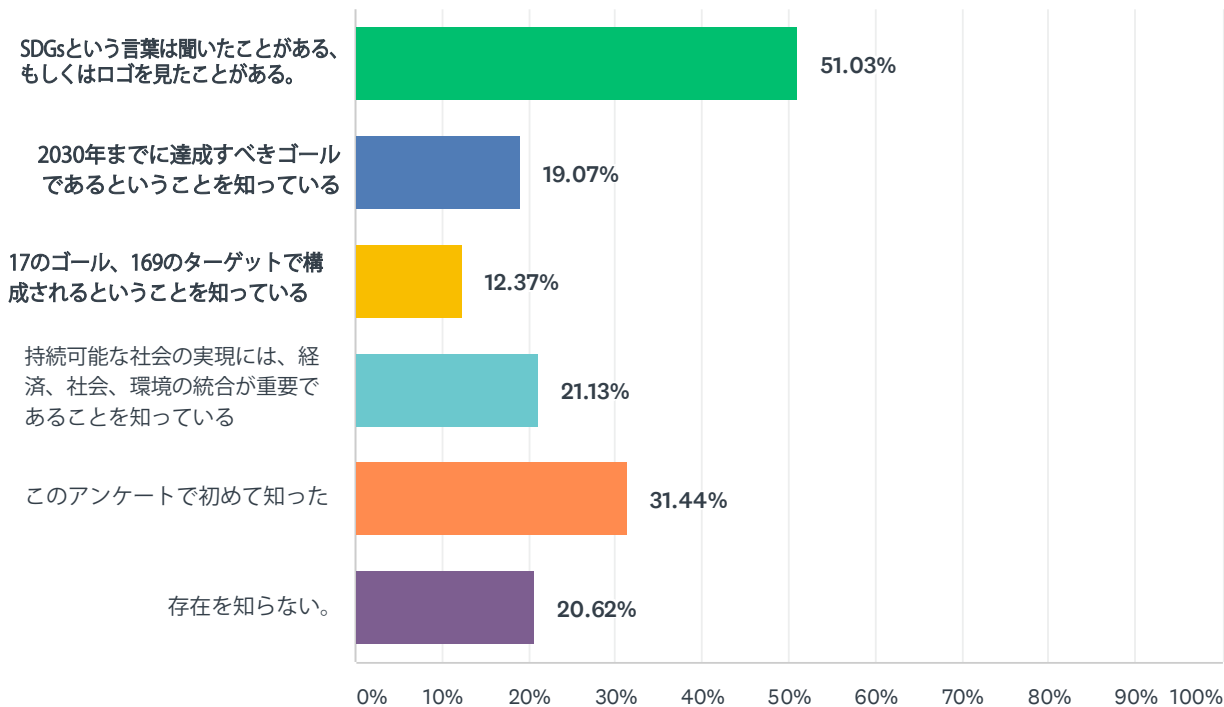
青森大学国際交流センター

TEL: 017-738-2001 内線: 320

参加無料
予約不要です

Q1 あなたのSDGsの認知度について、以下の選択肢の中から当てはまるものを全て選んでください。

Answered: 194 Skipped: 4



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
SDGsという言葉は聞いたことがある、もしくはロゴを見たことがある。(1)	51.03%	99
2030年までに達成すべきゴールであるということを知っている。(2)	19.07%	37
17のゴール、169のターゲットで構成されるということを知っている。(3)	12.37%	24
持続可能な社会を目指す上で、経済、社会、環境の統合が重要であることを知っている。(4)	21.13%	41
このアンケートで初めて知った。(5)	31.44%	61
存在を知らない。(6)	20.62%	40
Total Respondents: 194		

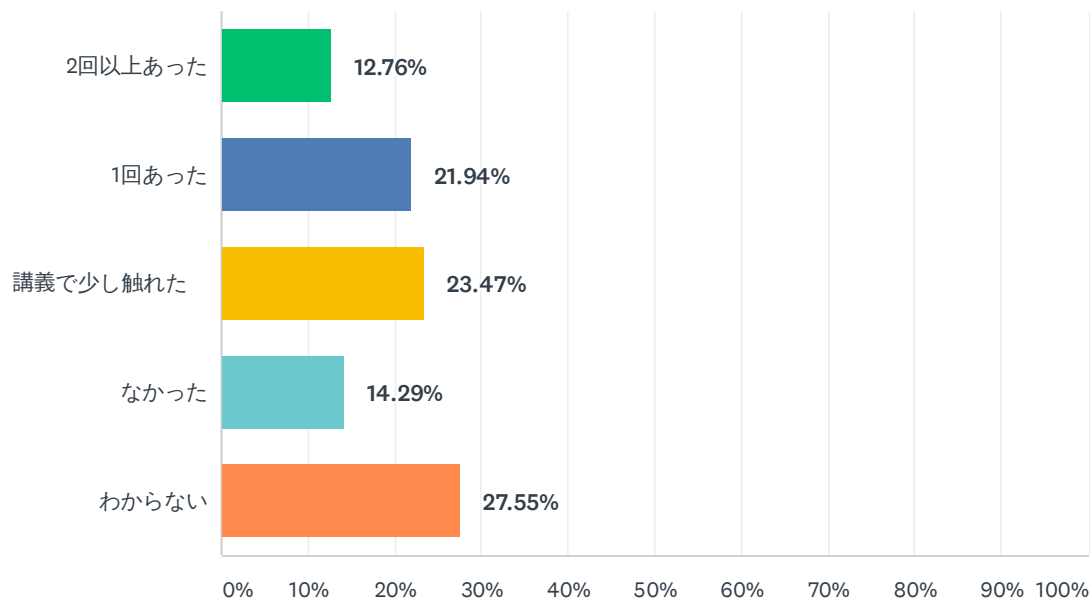
BASIC STATISTICS				
Minimum	Maximum	Median	Mean	Standard Deviation
1.00	6.00	3.00	3.16	1.88

2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

#	上記選択肢について、以下の欄に適宜補足してください。	DATE
1	授業で聞いたことがあった	10/10/2019 9:17 AM
2	これから学んでいきたい	10/10/2019 9:07 AM
3	カッコいい名前	10/10/2019 9:07 AM
4	名前は聞いたことあるがあまりわからない	10/10/2019 9:07 AM
5	ロゴを何かで見たが言葉は初めて知った。	10/10/2019 12:03 AM
6	サークルやゼミで習った	10/9/2019 11:53 PM
7	聞いたことがない	10/9/2019 11:14 PM
8	2001年に国連で策定。発展途上国向けの開発目標として、2015年を期限とする8つの目標を設定	10/9/2019 6:49 PM
9	他の授業で聞いた事があった。	10/9/2019 4:38 PM
10	サークル名で聞いたことがある程度	10/8/2019 7:13 PM
11	何個かロゴは見たことがあり、名前などは知らなかった。	10/8/2019 10:55 AM
12	資料に目を通して知りました。	10/6/2019 5:07 PM
13	授業で習いました	10/4/2019 10:36 AM
14	授業で習いました	10/4/2019 9:08 AM
15	他の講義で何度か話されていたので、全く知らないということにはなかった。大体のことは覚えていたが事細かい部分は忘れていたところもあった	10/3/2019 10:04 PM
16	この授業で初めて知りました。	10/3/2019 3:03 PM
17	中学生の時に社会で習った	10/3/2019 2:14 PM
18	聞いたことないので初めて知ったの欄にチェックを付けました。	10/3/2019 2:13 PM
19	全く存じ上げない	10/3/2019 11:22 AM
20	ゼミで知った	10/3/2019 10:39 AM
21	環境論にて聞いた。	7/24/2019 2:09 PM
22	佐々木先生のグローバリゼーション論で勉強しました	7/23/2019 1:19 PM
23	前の授業で習った。	7/17/2019 1:25 PM
24	グローバリゼーション論で学んだ	7/17/2019 1:21 PM
25	知らなかった	7/17/2019 1:20 PM

Q2 今学期、SDGsに関する講義の有無について、以下の中から最も適当なものを一つ選んでください。

Answered: 196 Skipped: 2



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
2回以上あった (1)	12.76%	25
1回あった (2)	21.94%	43
講義の中で少し触れた (3)	23.47%	46
なかった (4)	14.29%	28
わからない (5)	27.55%	54
TOTAL		196

BASIC STATISTICS				
Minimum	Maximum	Median	Mean	Standard Deviation
1.00	5.00	3.00	3.22	1.39

#	上記選択について、差し障りのない範囲で補足していただければ幸いです。	DATE
1	講義を濃密に行った。	10/10/2019 10:16 AM
2	本当に知りません	10/3/2019 11:22 AM
3	ゼミで授業を行った	10/3/2019 10:39 AM
4	社会学演習で触れた。	7/23/2019 1:15 PM
5	就活でもその話を頻繁に聞いた	7/23/2019 1:13 PM
6	講義中よく耳にする	7/23/2019 1:06 PM

Q3 あなたの履修科目の中で、SDGsに関係している講義を三つ選び、以下の欄に講義名を記入してください。

Answered: 143 Skipped: 55

ANSWER CHOICES	RESPONSES	
1)	100.00%	143
2)	49.65%	71
3)	37.76%	54

2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

#	1)	DATE
1	環境論	12/5/2020 9:41 PM
2	英語	12/5/2019 1:03 PM
3	環境論	11/28/2019 12:43 PM
4	環境論	10/17/2019 9:14 AM
5	環境論	10/10/2019 10:16 AM
6	環境論	10/10/2019 9:31 AM
7	環境論	10/10/2019 9:17 AM
8	環境社会学	10/10/2019 9:10 AM
9	環境論	10/10/2019 9:08 AM
10	環境論	10/10/2019 9:07 AM
11	環境論	10/10/2019 9:07 AM
12	環境論	10/10/2019 9:07 AM
13	環境論	10/10/2019 9:07 AM
14	社会学基礎演習	10/10/2019 9:07 AM
15	環境論	10/10/2019 9:04 AM
16	環境論	10/10/2019 9:04 AM
17	社会学基礎演習	10/10/2019 9:03 AM
18	環境論	10/10/2019 9:02 AM
19	環境論	10/10/2019 8:56 AM
20	環境論	10/10/2019 8:34 AM
21	キャリア特別実習	10/10/2019 1:05 AM
22	環境経営論	10/10/2019 1:02 AM
23	環境論	10/10/2019 12:49 AM
24	環境論	10/10/2019 12:03 AM
25	環境学	10/9/2019 11:53 PM
26	環境論	10/9/2019 11:14 PM
27	環境論	10/9/2019 11:05 PM
28	環境論	10/9/2019 9:23 PM
29	環境論	10/9/2019 8:50 PM
30	社会調査論	10/9/2019 6:49 PM
31	環境論	10/9/2019 4:38 PM
32	環境論	10/9/2019 2:45 PM
33	環境論	10/9/2019 2:44 PM
34	社会調査論	10/9/2019 2:43 PM
35	社会調査論	10/9/2019 2:42 PM
36	環境論	10/9/2019 10:50 AM
37	環境論	10/9/2019 9:15 AM
38	環境論	10/8/2019 7:13 PM
39	環境論	10/8/2019 2:25 PM
40	環境論	10/8/2019 1:55 PM

2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

41	環境論	10/8/2019 1:47 PM
42	環境論	10/8/2019 10:55 AM
43	環境論	10/8/2019 8:37 AM
44	環境論	10/7/2019 11:00 AM
45	地域貢献基礎演習	10/6/2019 11:11 PM
46	環境論	10/6/2019 10:00 PM
47	環境論	10/6/2019 8:26 PM
48	環境論	10/6/2019 5:14 PM
49	環境論	10/6/2019 5:07 PM
50	地域貢献	10/4/2019 1:29 PM
51	環境論	10/4/2019 12:31 PM
52	地理学	10/4/2019 10:36 AM
53	環境経営論	10/4/2019 9:38 AM
54	環境論	10/4/2019 9:08 AM
55	環境論	10/4/2019 8:52 AM
56	経営基礎演習	10/3/2019 10:55 PM
57	環境論	10/3/2019 10:52 PM
58	環境経営論	10/3/2019 10:04 PM
59	環境論	10/3/2019 8:56 PM
60	環境論	10/3/2019 8:54 PM
61	環境論	10/3/2019 3:02 PM
62	環境論	10/3/2019 2:14 PM
63	地域貢献基礎演習	10/3/2019 2:13 PM
64	環境論	10/3/2019 1:11 PM
65	環境論	10/3/2019 1:09 PM
66	環境論	10/3/2019 1:06 PM
67	環境論	10/3/2019 1:04 PM
68	環境論	10/3/2019 12:36 PM
69	就職活動実践演習	10/3/2019 12:18 PM
70	環境論	10/3/2019 11:22 AM
71	環境論	10/3/2019 10:43 AM
72	環境論	10/3/2019 10:42 AM
73	環境論	10/3/2019 10:41 AM
74	経営学演習	10/3/2019 10:39 AM
75	経営学演習	10/3/2019 10:39 AM
76	経営学演習	10/3/2019 10:39 AM
77	地方掃除	10/3/2019 10:05 AM
78	経営基礎論	10/3/2019 9:30 AM
79	環境論	10/3/2019 9:24 AM
80	経営基礎演習	10/3/2019 9:18 AM
81	社会理論と社会システム	7/25/2019 1:15 PM

2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

82	キャリア特別実習	7/25/2019 10:03 AM
83	なし	7/25/2019 9:56 AM
84	キャリア特別実習	7/25/2019 9:54 AM
85	学問のすすめ	7/24/2019 2:27 PM
86	なし	7/24/2019 2:15 PM
87	なし	7/24/2019 2:09 PM
88	キャリア特別実習	7/24/2019 2:00 PM
89	キャリア特別実習	7/24/2019 1:04 PM
90	グローバリゼーション論I	7/23/2019 1:19 PM
91	グローバリゼーション論	7/23/2019 1:15 PM
92	社会学演習V	7/23/2019 1:15 PM
93	社会演習	7/23/2019 1:15 PM
94	環境社会学	7/23/2019 1:13 PM
95	グローバリゼーション論	7/23/2019 1:13 PM
96	グローバリゼーション論	7/23/2019 1:08 PM
97	なし	7/23/2019 1:07 PM
98	ゼミ	7/23/2019 1:07 PM
99	キャリア特別実習	7/23/2019 1:06 PM
100	社会学演習	7/23/2019 1:06 PM
101	なし	7/23/2019 1:06 PM
102	地域貢献演習	7/23/2019 1:05 PM
103	学問のすすめ	7/19/2019 9:54 AM
104	キャリア特別実習	7/19/2019 9:31 AM
105	心理学	7/19/2019 9:24 AM
106	社会システム	7/19/2019 9:11 AM
107	基礎演習	7/19/2019 9:10 AM
108	じょっぱり経済学	7/19/2019 9:09 AM
109	学問のすすめ	7/19/2019 9:09 AM
110	キャリア特別実習	7/19/2019 9:08 AM
111	基礎演習	7/19/2019 9:08 AM
112	人工知能と未来	7/19/2019 9:07 AM
113	経済学	7/19/2019 9:07 AM
114	基礎演習	7/19/2019 9:07 AM
115	社会入門学習	7/19/2019 9:06 AM
116	ボランティア活動	7/19/2019 9:05 AM
117	地域貢献基礎演習	7/19/2019 9:05 AM
118	環境社会学	7/17/2019 1:33 PM
119	環境社会学	7/17/2019 1:29 PM
120	環境社会学	7/17/2019 1:26 PM
121	環境社会学	7/17/2019 1:26 PM
122	グローバリゼーション	7/17/2019 1:25 PM

2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

123	地域社会学	7/17/2019 1:25 PM
124	環境社会学	7/17/2019 1:25 PM
125	教育社会学I	7/17/2019 1:25 PM
126	グローバリゼーション論	7/17/2019 1:24 PM
127	経済学	7/17/2019 1:24 PM
128	教育過程論	7/17/2019 1:24 PM
129	環境社会学	7/17/2019 1:24 PM
130	環境社会学	7/17/2019 1:24 PM
131	環境社会学	7/17/2019 1:23 PM
132	環境社会学	7/17/2019 1:23 PM
133	環境社会学	7/17/2019 1:23 PM
134	環境社会学	7/17/2019 1:23 PM
135	環境社会学	7/17/2019 1:23 PM
136	教育社会学	7/17/2019 1:22 PM
137	環境社会学	7/17/2019 1:22 PM
138	環境社会学	7/17/2019 1:22 PM
139	環境社会学	7/17/2019 1:21 PM
140	環境社会学	7/17/2019 1:21 PM
141	環境社会学	7/17/2019 1:21 PM
142	グローバリゼーション論	7/17/2019 1:21 PM
143	環境社会学	7/17/2019 1:21 PM

2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

#	2)	DATE
1	衛生学	12/4/2020 9:41 PM
2	英語	12/5/2019 1:03 PM
3	経営学総論	10/17/2019 9:14 AM
4	キャリア特別実習	10/10/2019 10:16 AM
5	社会理論と社会システム	10/10/2019 9:10 AM
6	コンピューター概論	10/10/2019 9:07 AM
7	地域貢献演習	10/10/2019 9:04 AM
8	地域貢献	10/10/2019 9:02 AM
9	地域貢献演習	10/10/2019 8:56 AM
10	環境論	10/10/2019 1:05 AM
11	企業論I	10/10/2019 1:02 AM
12	あおり学	10/9/2019 11:14 PM
13	地域貢献演習	10/9/2019 11:05 PM
14	現代社会	10/9/2019 6:49 PM
15	更生保護	10/9/2019 4:38 PM
16	英語IIB	10/9/2019 2:44 PM
17	社会理論と社会システム	10/9/2019 2:43 PM
18	社会理論と社会システム	10/9/2019 2:42 PM
19	地域貢献演習	10/8/2019 7:13 PM
20	社会学研究入門	10/8/2019 1:47 PM
21	経営基礎演習	10/8/2019 10:55 AM
22	地域貢献演習	10/6/2019 8:26 PM
23	現代社会と福祉	10/6/2019 5:07 PM
24	情報の集計	10/4/2019 1:29 PM
25	現代社会と福祉II	10/4/2019 12:31 PM
26	環境論	10/4/2019 10:36 AM
27	環境論	10/4/2019 9:38 AM
28	地理学	10/4/2019 9:08 AM
29	地理学	10/4/2019 8:52 AM
30	あおり学	10/3/2019 10:55 PM
31	経営基礎演習	10/3/2019 10:52 PM
32	ベンチャー経営論	10/3/2019 10:04 PM
33	社会学基礎演習	10/3/2019 8:54 PM
34	キャリア特別実習	10/3/2019 3:02 PM
35	地域貢献演習	10/3/2019 2:14 PM
36	スポーツマネジメント論	10/3/2019 2:13 PM
37	地域計画論	10/3/2019 11:22 AM
38	地球温暖化	10/3/2019 10:05 AM
39	あおり学	10/3/2019 9:30 AM
40	あおり学	10/3/2019 9:18 AM

2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

41	社会調査論	7/25/2019 1:15 PM
42	グローバリゼーション論II	7/23/2019 1:19 PM
43	地域社会学II	7/23/2019 1:15 PM
44	キャリア特別実習	7/23/2019 1:13 PM
45	環境社会学	7/23/2019 1:08 PM
46	家族社会学	7/23/2019 1:07 PM
47	経営学総論	7/19/2019 9:24 AM
48	学問のすすめ	7/19/2019 9:11 AM
49	英語	7/19/2019 9:10 AM
50	学問のすすめ	7/19/2019 9:09 AM
51	基礎演習	7/19/2019 9:09 AM
52	学問のすすめ	7/19/2019 9:08 AM
53	経営学総論	7/19/2019 9:07 AM
54	社会学演習	7/17/2019 1:33 PM
55	レクリエーション指導法	7/17/2019 1:29 PM
56	保健体育理論	7/17/2019 1:26 PM
57	社会学理論	7/17/2019 1:25 PM
58	ボランティア活動	7/17/2019 1:25 PM
59	環境社会学	7/17/2019 1:25 PM
60	環境社会学	7/17/2019 1:24 PM
61	地域観光学	7/17/2019 1:24 PM
62	グローバリゼーション論	7/17/2019 1:23 PM
63	地域社会学	7/17/2019 1:23 PM
64	異文化コミュニケーション	7/17/2019 1:23 PM
65	リラクゼーション論	7/17/2019 1:23 PM
66	グローバリーゼーション論	7/17/2019 1:23 PM
67	経済学	7/17/2019 1:22 PM
68	スポーツ社会学	7/17/2019 1:22 PM
69	グローバリゼーション論	7/17/2019 1:22 PM
70	グローバリゼーション論	7/17/2019 1:21 PM
71	社会調査論	7/17/2019 1:21 PM

2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

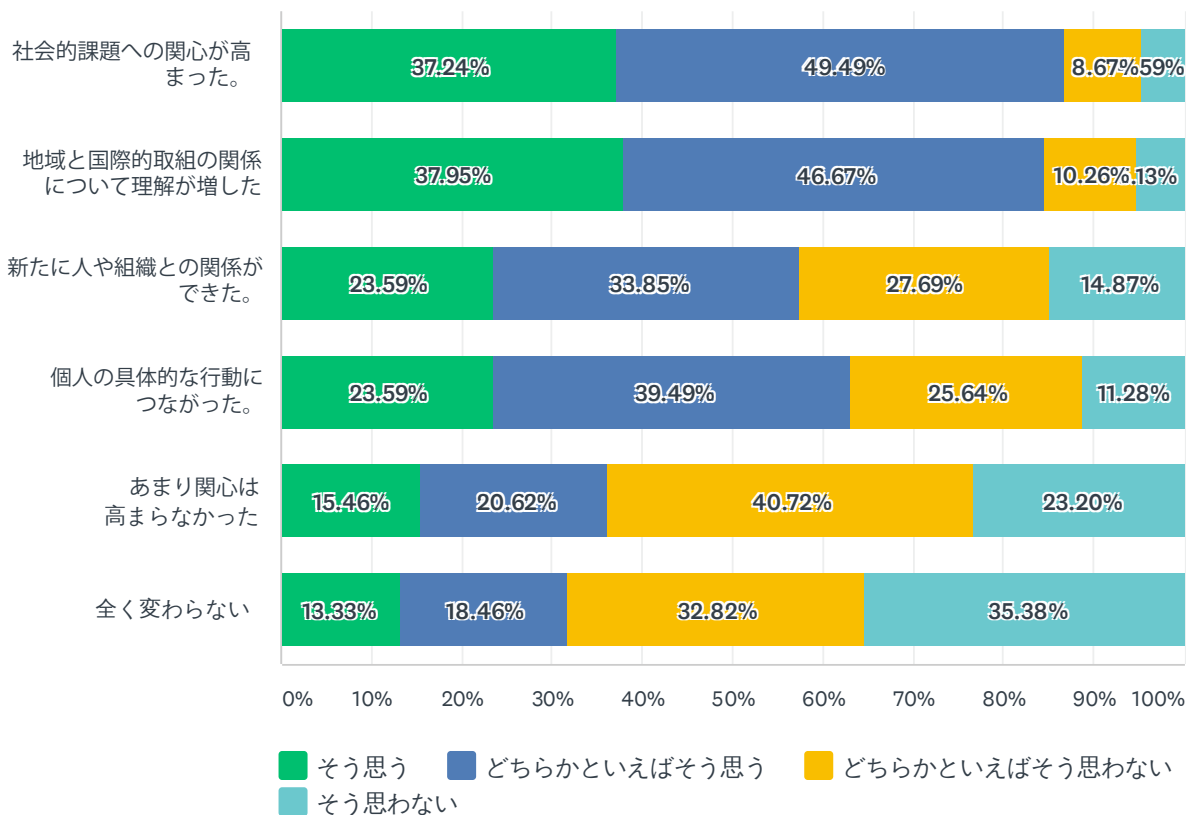
#	3)	DATE
1	生理学	12/4/2020 9:41 PM
2	環境論	12/5/2019 1:03 PM
3	経営基礎	10/17/2019 9:14 AM
4	地域貢献演習	10/10/2019 10:16 AM
5	社会調査論	10/10/2019 9:10 AM
6	ゼミ	10/10/2019 9:02 AM
7	経営組織論	10/10/2019 1:02 AM
8	経営基礎演習	10/9/2019 11:14 PM
9	社会学基礎演習	10/9/2019 11:05 PM
10	社会システム	10/9/2019 6:49 PM
11	就労支援サービス	10/9/2019 4:38 PM
12	環境論	10/9/2019 2:43 PM
13	環境論	10/9/2019 2:42 PM
14	地域計画論	10/8/2019 7:13 PM
15	地域貢献演習	10/8/2019 1:47 PM
16	地理学	10/8/2019 10:55 AM
17	社会調査論	10/6/2019 8:26 PM
18	社会理論と社会システム	10/6/2019 5:07 PM
19	あおもりがく	10/4/2019 1:29 PM
20	社会調査論II	10/4/2019 12:31 PM
21	地域貢献基礎演習	10/4/2019 10:36 AM
22	企業論	10/4/2019 9:38 AM
23	地域貢献基礎演習	10/4/2019 9:08 AM
24	社会調査論	10/4/2019 8:52 AM
25	環境論	10/3/2019 10:55 PM
26	あおもり学	10/3/2019 10:52 PM
27	企業論	10/3/2019 10:04 PM
28	地域貢献演習	10/3/2019 3:02 PM
29	スポーツマネジメント論	10/3/2019 2:14 PM
30	環境論	10/3/2019 2:13 PM
31	環境社会学	10/3/2019 11:22 AM
32	大気汚染	10/3/2019 10:05 AM
33	環境論	10/3/2019 9:30 AM
34	環境論	10/3/2019 9:18 AM
35	社会学演習I	7/23/2019 1:19 PM
36	地域社会学	7/23/2019 1:07 PM
37	会計学	7/19/2019 9:24 AM
38	高齢化社会	7/19/2019 9:11 AM
39	生物	7/19/2019 9:10 AM
40	基礎演習	7/19/2019 9:09 AM

2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

41	じよっぱり経済学	7/19/2019 9:08 AM
42	じよっぱり経済学	7/19/2019 9:07 AM
43	教育社会学	7/17/2019 1:33 PM
44	経済学	7/17/2019 1:26 PM
45	社会理論と社会システム	7/17/2019 1:25 PM
46	地域貢献演習	7/17/2019 1:25 PM
47	スポーツ社会学I	7/17/2019 1:25 PM
48	教育社会学	7/17/2019 1:24 PM
49	地域社会学	7/17/2019 1:24 PM
50	地域観光学	7/17/2019 1:23 PM
51	社会調査論	7/17/2019 1:23 PM
52	地域社会学	7/17/2019 1:23 PM
53	環境社会学	7/17/2019 1:22 PM
54	教育社会学	7/17/2019 1:22 PM

Q4 SDGsの効果について、当てはまるものをそれぞれ一つ選んでください。

Answered: 196 Skipped: 2



	そう思う (1)	どちらかといえばそう思う (2)	どちらかといえばそう思わない (3)	そう思わない (4)	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
社会的課題への関心が高まった。	37.24% 73	49.49% 97	8.67% 17	4.59% 9	196	1.81
地域と国際的取組の関係について理解が増した	37.95% 74	46.67% 91	10.26% 20	5.13% 10	195	1.83
新たに人や組織との関係ができた。	23.59% 46	33.85% 66	27.69% 54	14.87% 29	195	2.34
個人の具体的な行動につながった。	23.59% 46	39.49% 77	25.64% 50	11.28% 22	195	2.25
あまり関心は高まらなかった。	15.46% 30	20.62% 40	40.72% 79	23.20% 45	194	2.72
全く変わらない。	13.33% 26	18.46% 36	32.82% 64	35.38% 69	195	2.90

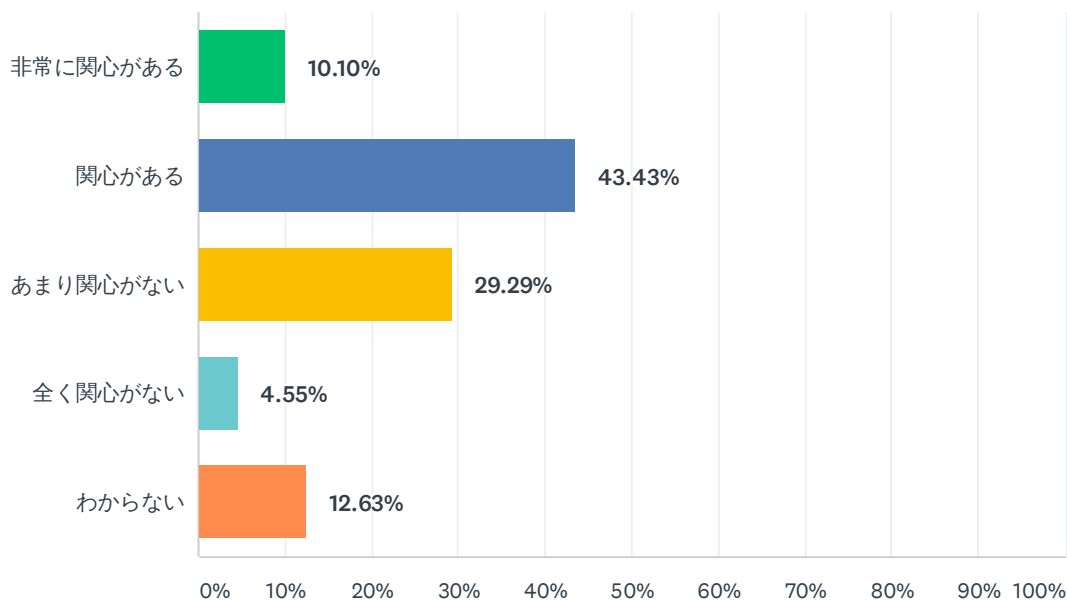
2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

BASIC STATISTICS					
	MINIMUM	MAXIMUM	MEDIAN	MEAN	STANDARD DEVIATION
社会的課題への関心が高まった。	1.00	4.00	2.00	1.81	0.78
地域と国際的取組の関係について理解が増した	1.00	4.00	2.00	1.83	0.81
新たに人や組織との関係ができた。	1.00	4.00	2.00	2.34	1.00
個人の具体的な行動につながった。	1.00	4.00	2.00	2.25	0.94
あまり関心は高まらなかった。	1.00	4.00	3.00	2.72	0.99
全く変わらない。	1.00	4.00	3.00	2.90	1.03

#	上記選択について可能な範囲で補足してください。	DATE
1	抗議を通して関心が高まりました。	10/10/2019 10:16 AM
2	社会について詳しく聞くことによって社会への関心が深まった	10/10/2019 9:17 AM
3	私はSDGsの項目の中で特に気候変動に関心がある	10/9/2019 6:49 PM
4	授業の後、ニュースなどで取り上げられている社会問題に少し関心を持つようになった。	10/9/2019 4:38 PM
5	個人で手軽にできることなら積極的に行動しようと思えるようになった。	10/3/2019 10:04 PM
6	まあ、徐々に関心興味を持っていけたらと思います	10/3/2019 11:22 AM
7	分かりません。	7/19/2019 9:07 AM

Q5 現在、日本だけでなく世界各国で様々なSDGsの取り組みが進んでいますが、あなたの関心について、以下の選択肢の中から最も適切なものを一つ選んでください。

Answered: 198 Skipped: 0



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
非常に興味がある (1)	10.10%	20
興味がある (2)	43.43%	86
あまり興味がない (3)	29.29%	58
全く興味がない (4)	4.55%	9
わからない (5)	12.63%	25
TOTAL		198

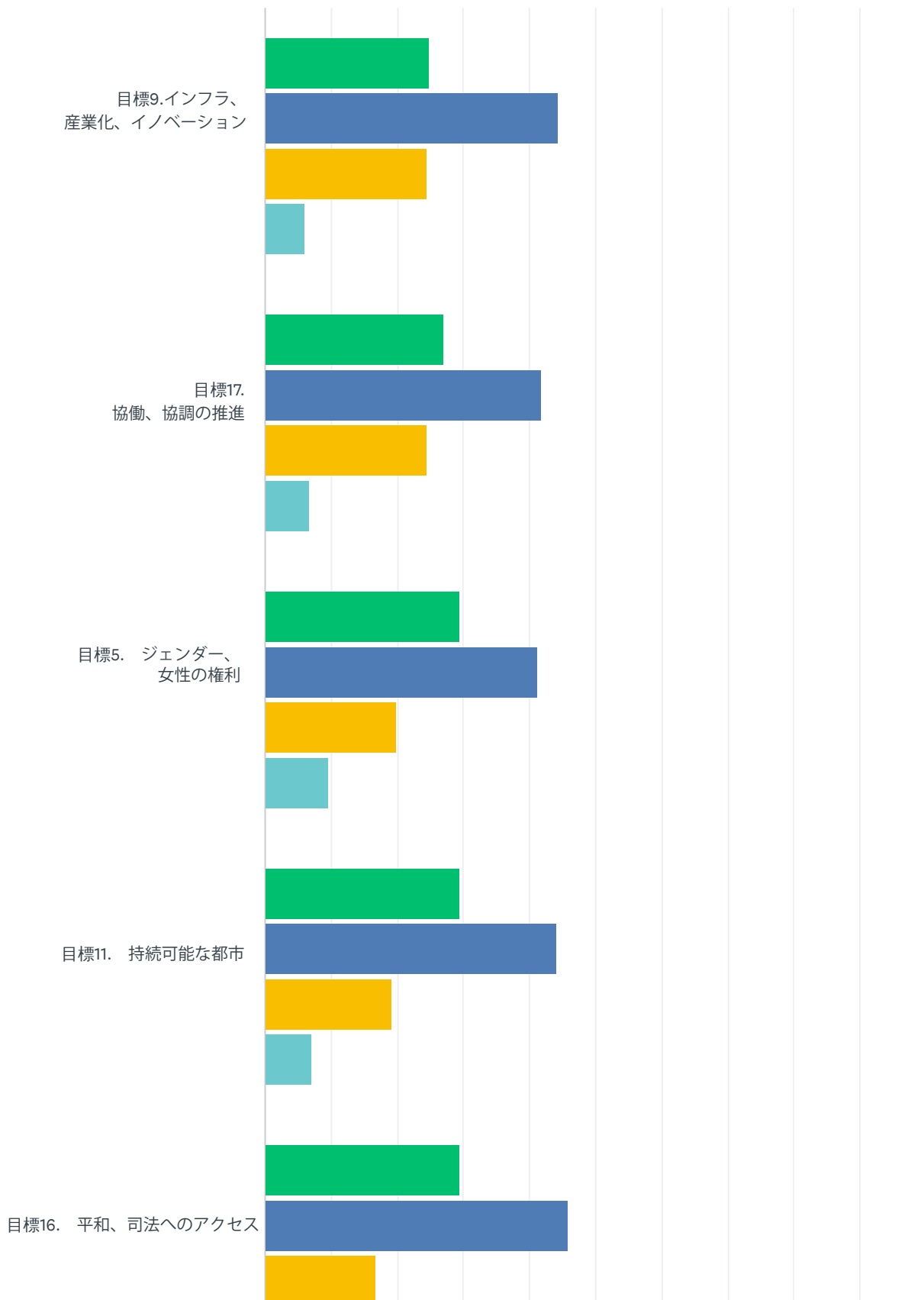
BASIC STATISTICS				
Minimum	Maximum	Median	Mean	Standard Deviation
1.00	5.00	2.00	2.66	1.13

2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

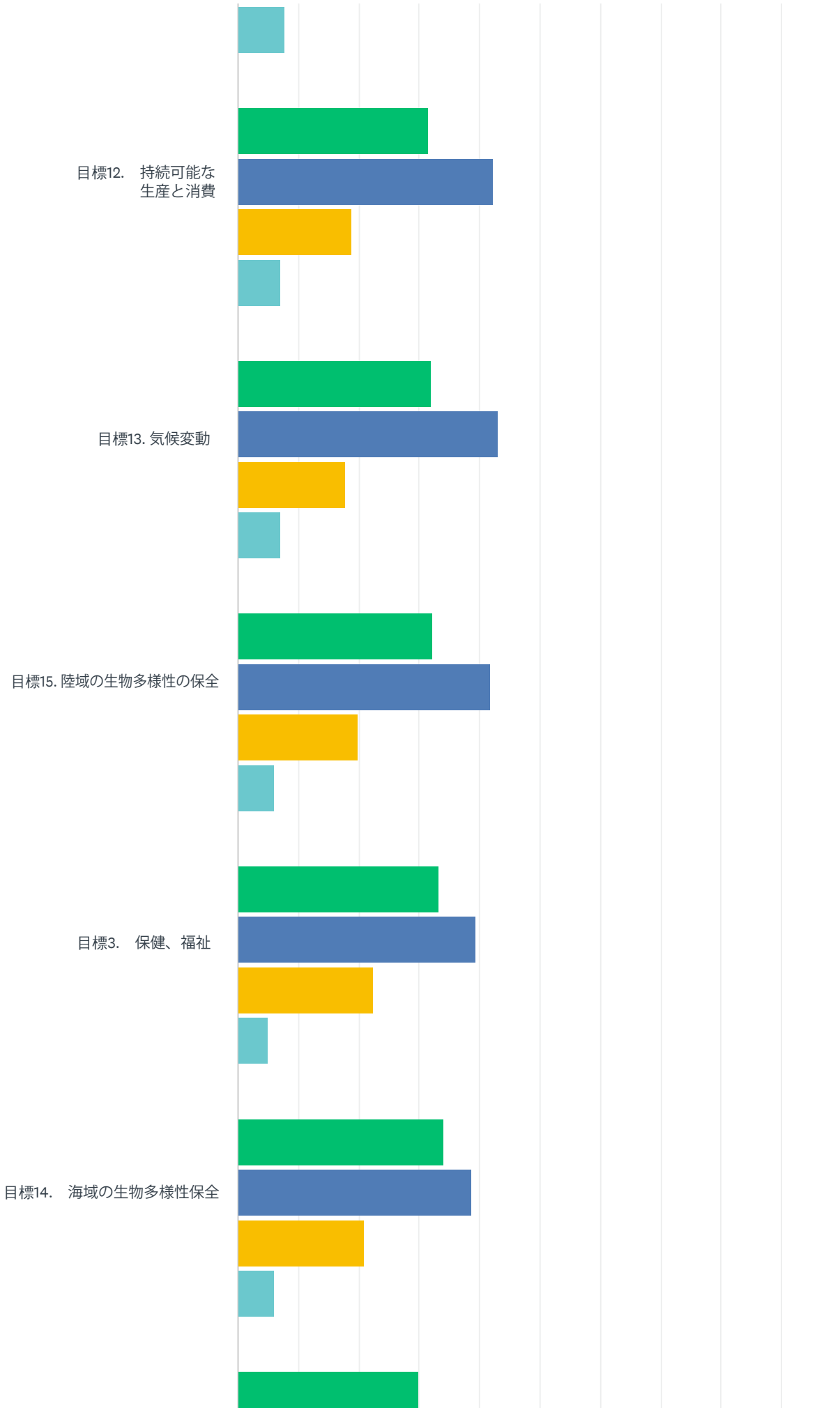
#	上記を選んだ理由について、可能な範囲で以下のスペースにご記入ください。	DATE
1	自分に何ができるか気になった	10/17/2019 9:14 AM
2	世界的にどのような活動が行われているか気になった為。	10/10/2019 10:16 AM
3	日本だけでなく世界のことが日本にも関わってくると思うから	10/10/2019 9:17 AM
4	これを達成しなければ生活が危ぶまれる	10/10/2019 9:07 AM
5	講義を聞いて少し興味が出た	10/10/2019 12:49 AM
6	世界全体で参加している活動だから	10/9/2019 11:53 PM
7	他人事ではないから	10/9/2019 11:14 PM
8	各国の貧困の状態によって資源や環境への意識と言うものに差がある中で日本がSDGsのどの項目に力を注いでいるか考えたいと思った。	10/9/2019 4:38 PM
9	具体的に何をしている活動かわからない	10/8/2019 7:13 PM
10	今現在、日本だけでも環境問題が深刻に取り上げられており、自分の地域ではどのような取り組みがなされているのかが気になったから。	10/7/2019 11:00 AM
11	世界で起こってることなので、今後どうなるのか気になるから	10/6/2019 8:26 PM
12	講義を受けて、視野を広げていきたいと考えてます。	10/6/2019 5:07 PM
13	経済、社会、環境をめぐる広範な課題に取り組んでいるため	10/4/2019 12:31 PM
14	簡単なことでできることがあるならやりたいと考えている。しかしそうでない物に積極的に参加はまだできない	10/3/2019 10:04 PM
15	先進国と発展途上国の差について	10/3/2019 12:18 PM
16	理解できるようになりたいです。	10/3/2019 11:22 AM
17	やや抽象的な問題だから	10/3/2019 10:43 AM
18	将来生きていく世界に関わるから	7/23/2019 1:19 PM
19	地球温暖化やプラスチックゴミの削減に繋がればと考える。	7/23/2019 1:15 PM
20	教育に関しては、もっとも興味関心を持ちました。	7/17/2019 1:24 PM

Q6 下記のSDGs17項目に対するあなたの関心の度合いについて、それぞれ最も適当な選択肢を選んでください。(各目標の外部リンク先には解説と動画があります)

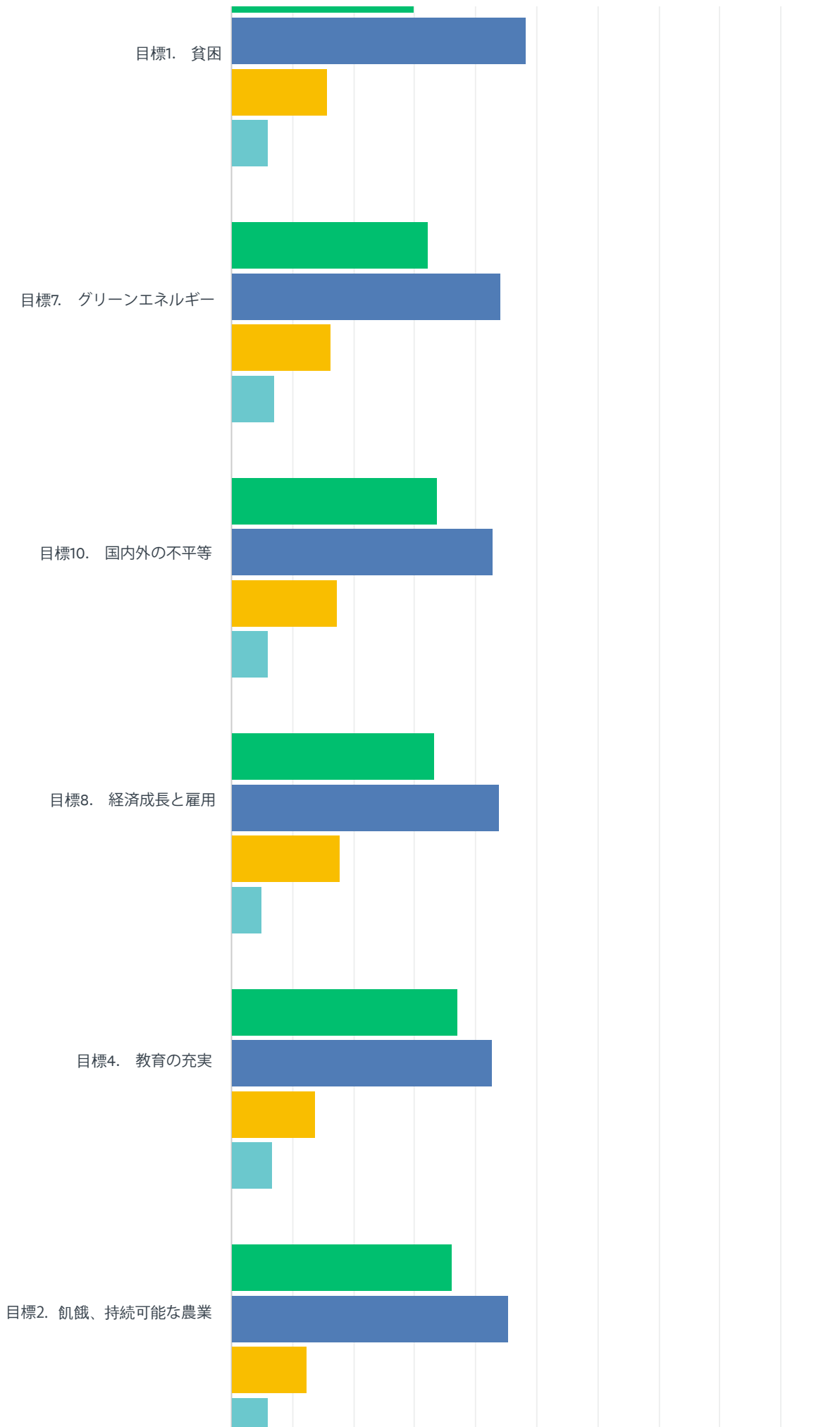
Answered: 198 Skipped: 0



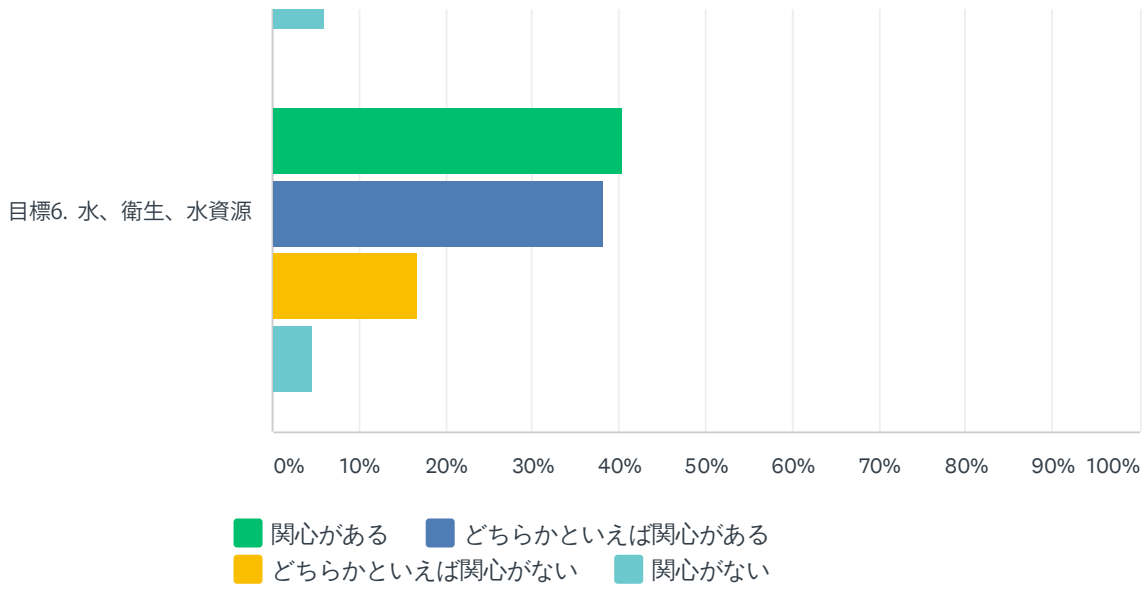
2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート



2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート



2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

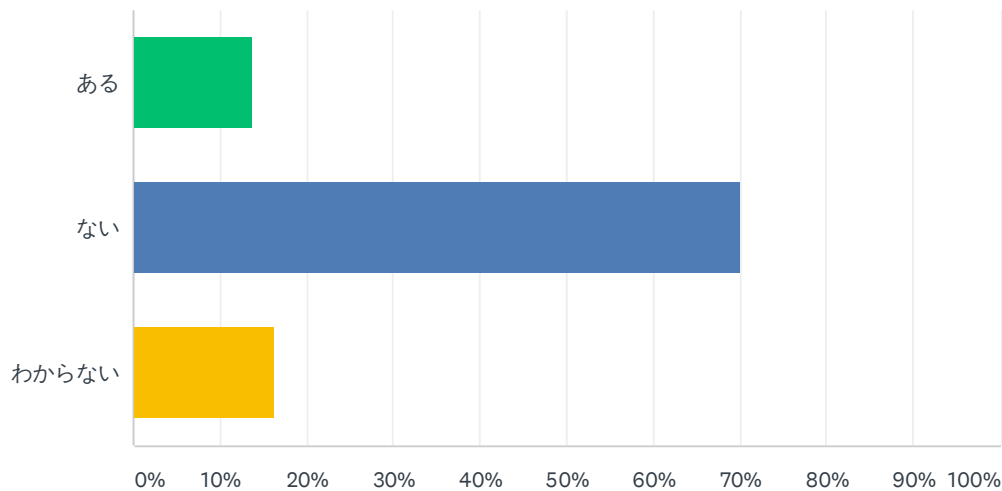


2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

	関心がある	どちらかといえば関心がある	どちらかといえば関心がない	関心がない	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
目標9. インフラ、産業化、イノベーション https://sdgs.tv/tg_mov/goal9	25.00% 49	44.39% 87	24.49% 48	6.12% 12	196	2.12
目標17. 協働、協調の推進 https://sdgs.tv/tg_mov/goal17	27.04% 53	41.84% 82	24.49% 48	6.63% 13	196	2.11
目標5. ジェンダー、女性の権利 https://sdgs.tv/tg_mov/goal5	29.44% 58	41.12% 81	19.80% 39	9.64% 19	197	2.10
目標11. 持続可能な都市 https://sdgs.tv/tg_mov/goal11	29.44% 58	44.16% 87	19.29% 38	7.11% 14	197	2.04
目標16. 平和、司法へのアクセス https://sdgs.tv/tg_mov/goal16	29.59% 58	45.92% 90	16.84% 33	7.65% 15	196	2.03
目標12. 持続可能な生産と消費 https://sdgs.tv/goal12	31.63% 62	42.35% 83	18.88% 37	7.14% 14	196	2.02
目標13. 気候変動 https://sdgs.tv/tg_mov/goal13	31.98% 63	43.15% 85	17.77% 35	7.11% 14	197	2.00
目標15. 陸域の生物多様性の保全 https://sdgs.tv/tg_mov/goal15	32.14% 63	41.84% 82	19.90% 39	6.12% 12	196	2.00
目標3. 保健、福祉 https://sdgs.tv/tg_mov/goal3	33.16% 65	39.29% 77	22.45% 44	5.10% 10	196	1.99
目標14. 海域の生物多様性保全 https://sdgs.tv/tg_mov/goal14	34.18% 67	38.78% 76	20.92% 41	6.12% 12	196	1.99
目標1. 貧困 https://sdgs.tv/tg_mov/goal1	29.95% 59	48.22% 95	15.74% 31	6.09% 12	197	1.98
目標7. グリーンエネルギー https://sdgs.tv/tg_mov/goal7	32.31% 63	44.10% 86	16.41% 32	7.18% 14	195	1.98
目標10. 国内外の不平等 https://sdgs.tv/tg_mov/goal10	33.67% 66	42.86% 84	17.35% 34	6.12% 12	196	1.96
目標8. 経済成長と雇用 https://sdgs.tv/tg_mov/goal8	33.16% 65	43.88% 86	17.86% 35	5.10% 10	196	1.95
目標4. 教育の充実 https://sdgs.tv/tg_mov/goal4	37.06% 73	42.64% 84	13.71% 27	6.60% 13	197	1.90
目標2. 飢餓、持続可能な農業 https://sdgs.tv/tg_mov/goal2	36.22% 71	45.41% 89	12.24% 24	6.12% 12	196	1.88
目標6. 水、衛生、水資源 https://sdgs.tv/tg_mov/goal6	40.31% 79	38.27% 75	16.84% 33	4.59% 9	196	1.86

Q7 これまで、講義以外でSDGsについて自ら調べたり、行事に参加したことがありますか？以下の選択肢の中から最も当てはまるものの一つを選んでください。

Answered: 197 Skipped: 1



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
ある	13.71%	27
ない	70.05%	138
わからない	16.24%	32
TOTAL		197

#	上記を選んだ理由等について適宜補足してください。	DATE
1	東日本大震災の時に家の近くの海のゴミ拾いボランティアをした。	12/4/2020 9:41 PM
2	何から手をつけたら良いかわからない為。	10/10/2019 10:16 AM
3	詳しくこれから調べたい	10/10/2019 9:07 AM
4	知らなかったから	10/9/2019 11:14 PM
5	講義外で自ら触れなかった	10/9/2019 6:49 PM
6	福祉を学んでいて、それが保健や貧困といった部分で繋がっていると思った。	10/9/2019 4:38 PM
7	知らなかったから	10/9/2019 9:15 AM
8	SDGsというものの自体を知らなかったから	10/8/2019 10:55 AM
9	さんまの漁獲量の問題	10/7/2019 11:00 AM
10	講義で知ったので、調べたりはまだしてないです	10/6/2019 8:26 PM
11	講義を受けるまでSDGsを知らなかったから。	10/6/2019 5:07 PM
12	むつ湾クリーンアッププロジェクトや、焚き火の語り場など	10/3/2019 8:56 PM
13	それに関するイベントをあまり耳にしない他、大人向けばかりであるから。	7/23/2019 1:15 PM
14	ガールスカウト	7/23/2019 1:07 PM
15	特にこれといったものはないが、ゴミ拾いを行ったり、した事はある。	7/17/2019 1:24 PM
16	ゴミ拾い	7/17/2019 1:23 PM

Q8 青森大学におけるSDGsの取り組みの推進について、あなたのご意見やご提案、ご要望などを以下のスペースに適宜記入してください。

Answered: 106 Skipped: 92

2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

#	RESPONSES	DATE
1	地域の方たちとゴミ拾い	12/4/2020 9:41 PM
2	具体的なものを明確にする	12/5/2019 1:03 PM
3	知らない人でも触れられるようにしてほしい	11/28/2019 12:43 PM
4	学生の発表で活動について宣伝していた	10/17/2019 9:14 AM
5	もう少し活動的でも良いと思います。	10/10/2019 10:16 AM
6	自然や貧困についてもっと教えてほしい	10/10/2019 9:17 AM
7	様々な環境問題のことをわかったのもっと色んなことを授業を通して調べていきたいと思いました	10/10/2019 9:10 AM
8	日本が色んなものを寄付すればいい	10/10/2019 9:08 AM
9	積極的に参加していきたい	10/10/2019 9:07 AM
10	大々的に張り出した方がいい	10/10/2019 9:07 AM
11	もっとわかりやすく講義して貰いたい。	10/10/2019 9:07 AM
12	SDGsというのはよく聞くので多く取り組んでいるとおもうので自分ももう少し興味を持つと思った	10/10/2019 9:07 AM
13	ない	10/10/2019 9:04 AM
14	良い取り組みを積極的に行なっていきたい。	10/10/2019 9:02 AM
15	いつどこで何をしているのかいまいよく分かってない	10/10/2019 8:56 AM
16	もっと関連授業を増やすべきだと思う。	10/10/2019 12:03 AM
17	特になし	10/9/2019 11:53 PM
18	一人一人の意識が足りない	10/9/2019 11:14 PM
19	地域貢献活動は今も、力を入れているが今後より力をいれて、地域の皆さんに寄り添っていききたい	10/9/2019 11:05 PM
20	青森新町のシャッター街の改善についての取り組みがあればいいと思う。	10/9/2019 9:23 PM
21	まず誰でもできるようなことから始めるべきだと思う。例えばゴミの削減や節電などはすぐに始められると思う。	10/9/2019 8:50 PM
22	サークルなどもありとても活発だと思う。もっと活動を広げて行ってほしい	10/9/2019 6:49 PM
23	SDGsの位置づけ方や普及啓発のあり方について学んでいきたい	10/9/2019 5:10 PM
24	授業を受けないとSDGsに触れる機会がない、知る機会がないと感じたため、もっと情報を知る機会を増やせば良いのではと考えた。	10/9/2019 4:38 PM
25	環境をよりよくするためにゴミのポイ捨てをしない	10/9/2019 2:45 PM
26	SDGsに、関わったイベントをやるのがいいと思う。	10/9/2019 2:44 PM
27	まだ深く理解をしていないので、勉強してくなかで知っていききたいです。	10/9/2019 2:43 PM
28	SDGsについてまだ理解をしておらず、人に説明をできるくらい理解を深めこれから学んでいきたいです	10/9/2019 2:42 PM
29	もう少し具体的な活動内容を知りたくなった	10/9/2019 9:15 AM
30	SDGsを知ってもらうための授業を開けばいいと思う。	10/8/2019 10:55 AM
31	環境論やSDGsサークルなど活発に取り組んでいるイメージがある。	10/7/2019 11:00 AM
32	目標を達成するために、具体的にどのような活動が行われているか興味湧いた。	10/6/2019 11:11 PM
33	SDGsのサークルがあるのは、素晴らしいと思います。	10/6/2019 10:00 PM
34	地域に貢献することを続けていきたい	10/6/2019 8:26 PM
35	色々な授業に絡めて取り組みを紹介してほしい	10/6/2019 5:14 PM
36	ジェンダーや不平等における平等とはどういう状態になることで平等となるのか考えたい。	10/6/2019 5:07 PM

2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

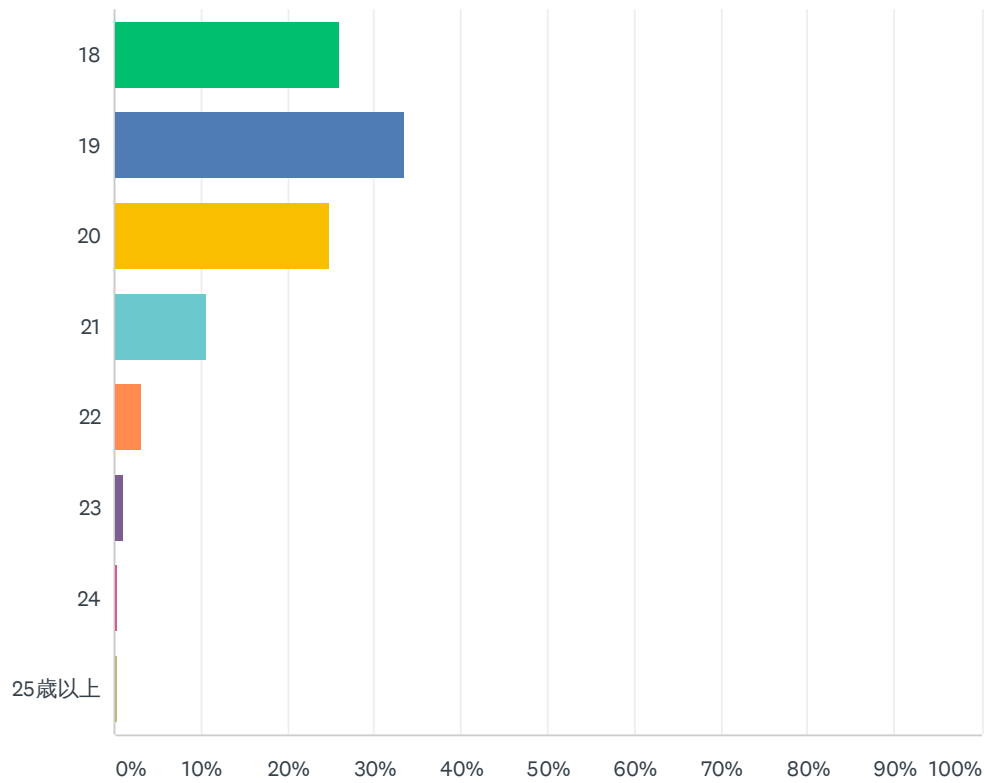
37	青森大学のLAWSONの前に地域貢献活動No.1という横断幕があった。それも、SDGsに関係していると思う。	10/4/2019 1:29 PM
38	青森大学では地域との関わりが深いと思うので健康と福祉の分野での取り組みを増やした方がいいと思います。	10/4/2019 12:31 PM
39	地域貢献などあると思うのでいいと思います	10/4/2019 10:36 AM
40	文化祭でもSDGsについて取り上げていたので、非常に大事な課題だと思いました。	10/4/2019 9:38 AM
41	貢献授業などがあるのでいいと思います	10/4/2019 9:08 AM
42	環境が整っていると思うので1部を利用して取り組みばいいと思う	10/4/2019 8:52 AM
43	無し	10/3/2019 10:55 PM
44	ないです	10/3/2019 10:52 PM
45	ペットボトルキャップなど簡単にできることをやっているともっと多くの人にアピールするべきだ	10/3/2019 10:04 PM
46	サークルがあり積極的に取り組んでいる。もう少し活動などが目に見える形になって身近になればいいかなと思う。	10/3/2019 8:56 PM
47	S D G s を子供達に分かりやすくなるように紙芝居をすれば良いと思います。	10/3/2019 8:54 PM
48	世界各地でこの活動をやっている所以活動の場をもっと広げて欲しいです	10/3/2019 3:02 PM
49	野球部や新体操部などは実績をしっかりと残し、活動場所を提供しているのに対し、剣道部などは活動場所を失くされ、その後建てないというのは不平等ではないかと思う。	10/3/2019 2:14 PM
50	授業内でもっと動画などを見せて、状況をわかりやすくすれば講義の質も上がると思います。	10/3/2019 2:13 PM
51	貧困など日本だけでなく世界にも視野を広げたい	10/3/2019 1:11 PM
52	私も地域における合浦公園のゴミの増加に関心があり、SDGsの取り組みには賛成かつ参加していきたい。	10/3/2019 12:36 PM
53	実際に講義内で調べてみる場を作って欲しい	10/3/2019 12:18 PM
54	徐々に学んでいきます	10/3/2019 11:22 AM
55	積極的にSDGsに取り組んでいけばいいと思います。	10/3/2019 10:41 AM
56	今回の授業でSDGsについて関心がもてた	10/3/2019 10:39 AM
57	まだまだ広まっていないので、どんどんSDGsに関わる授業をしていけば良いと思う。	10/3/2019 10:39 AM
58	青森大学の森林をもっと生かしたほうが良いと思う	10/3/2019 10:39 AM
59	ボランティア活動をいろいろにして欲しいです	10/3/2019 10:05 AM
60	たくさんの環境調査の活動参加したい。	10/3/2019 9:30 AM
61	特にありません	10/3/2019 9:24 AM
62	なし	10/3/2019 9:18 AM
63	よくわからない	7/25/2019 1:15 PM
64	もっと生徒がSDGsにふれる機会を増やせばいいと思う	7/24/2019 2:23 PM
65	積極的に行われていて興味が少しある。	7/24/2019 2:09 PM
66	なし	7/24/2019 2:09 PM
67	サークルなどで行われている活動は非常に貴重なものであると思う。若い世代からどんどん発信して欲しい。	7/23/2019 1:15 PM
68	学生一人一人が関われるイベントを作っていけば良いと思います。	7/23/2019 1:15 PM
69	昨年グローバルゼーション論などで多く出てきたので他の授業でも問題にあげて欲しい	7/23/2019 1:15 PM
70	どのような取り組みをしているのか、いまいち分からない。	7/23/2019 1:13 PM
71	頑張っって欲しい。	7/23/2019 1:10 PM
72	きらい君を始めとする自然環境サークルが、大学内で焚き火などしている	7/23/2019 1:08 PM

2019年度 青森大学 SDGsに関する学生アンケート

73	アクティビティ的な感じで、いろんな人を巻き込めればいい	7/23/2019 1:07 PM
74	もっと全面的にSDGsについての講義、何をしているのか、何が目的なのか、知らない生徒も多数いると思う。SDGsを知らなくてもその取り組みのなかには、個人レベルで興味を持てるものも多数あると思うので、大学がもっと力を入れて欲しい	7/23/2019 1:07 PM
75	サークルがとても活動的なのを、Facebookなどで確認しています。活動頑張ってください。	7/23/2019 1:06 PM
76	焚き火の活動は、とても良いと思います	7/23/2019 1:05 PM
77	このままでいいと思います	7/19/2019 9:24 AM
78	特になし	7/19/2019 9:11 AM
79	特に無し。	7/19/2019 9:10 AM
80	もっと頑張ってもらいたいです☺	7/19/2019 9:10 AM
81	SDGsがまだあまりわかりません	7/19/2019 9:09 AM
82	分からない。	7/19/2019 9:09 AM
83	研究を無理なくできる	7/19/2019 9:09 AM
84	これかほも取り組んでほしいです。	7/19/2019 9:08 AM
85	分かりません。	7/19/2019 9:07 AM
86	取り組んでいるのか全体に伝わってないと思う。わかりにくいところもあるし、わかりやすく広めて欲しい	7/19/2019 9:07 AM
87	まだあまりSDGsの方がわからないので学びたい	7/19/2019 9:07 AM
88	牧を使って焚き火をする	7/19/2019 9:06 AM
89	他の講義でも、SDGsについて紹介してほしい。	7/17/2019 1:33 PM
90	とくになし	7/17/2019 1:29 PM
91	今回環境社会学で夏泊へゴミ拾いに行き、他の場所にゴミ拾いをするのもいいと思った。	7/17/2019 1:26 PM
92	特になし	7/17/2019 1:26 PM
93	このままでいいと思うし前に進むべき	7/17/2019 1:25 PM
94	SDGsについて深く学ぶことができる授業があればいいと思う。	7/17/2019 1:25 PM
95	SDGsの取り組みはまだ全体的には足りないかもしれないが、徐々に増えてきてほしい。	7/17/2019 1:25 PM
96	まずは、大学内から、進めていく必要がある。そうすれば、進め方も変わってくると思うし、進み方も変わってきて、外から内と言うよりかは、内から外の方が、色々な方面から、対応しやすいと思う。	7/17/2019 1:24 PM
97	授業の中でSDGsの理解を深める取り組みを行う。環境社会学で言えば、課外授業を行うなど。	7/17/2019 1:24 PM
98	自分一人でだとなにをしたらいいかわからないし、心細い部分もあるので授業や大学が何かの取り組みの中で学生参加型の取り組みをして頂ければ、SDGsの取り組みがより広まるのではないかと考えます。	7/17/2019 1:24 PM
99	とくにないです	7/17/2019 1:23 PM
100	所得関係無しの授業料免除	7/17/2019 1:23 PM
101	よくわからない	7/17/2019 1:23 PM
102	ゴミ拾い	7/17/2019 1:22 PM
103	特になし	7/17/2019 1:22 PM
104	ゴミ拾いのボランティア	7/17/2019 1:22 PM
105	もっと積極的に色々な講義に取り入れてもいいと思う	7/17/2019 1:21 PM
106	今まで通りで良いと思う	7/17/2019 1:20 PM

Q10 貴方の年齢

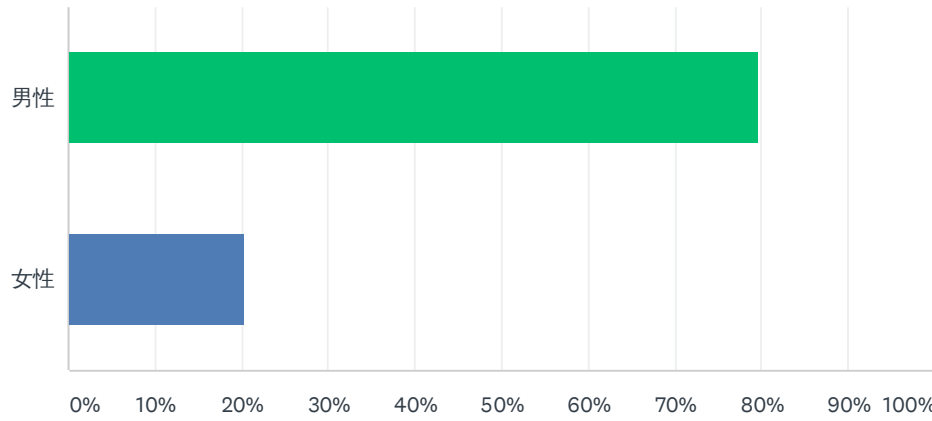
Answered: 197 Skipped: 1



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
18	25.89%	51
19	33.50%	66
20	24.87%	49
21	10.66%	21
22	3.05%	6
23	1.02%	2
24	0.51%	1
25歳以上	0.51%	1
TOTAL		197

Q11 性別

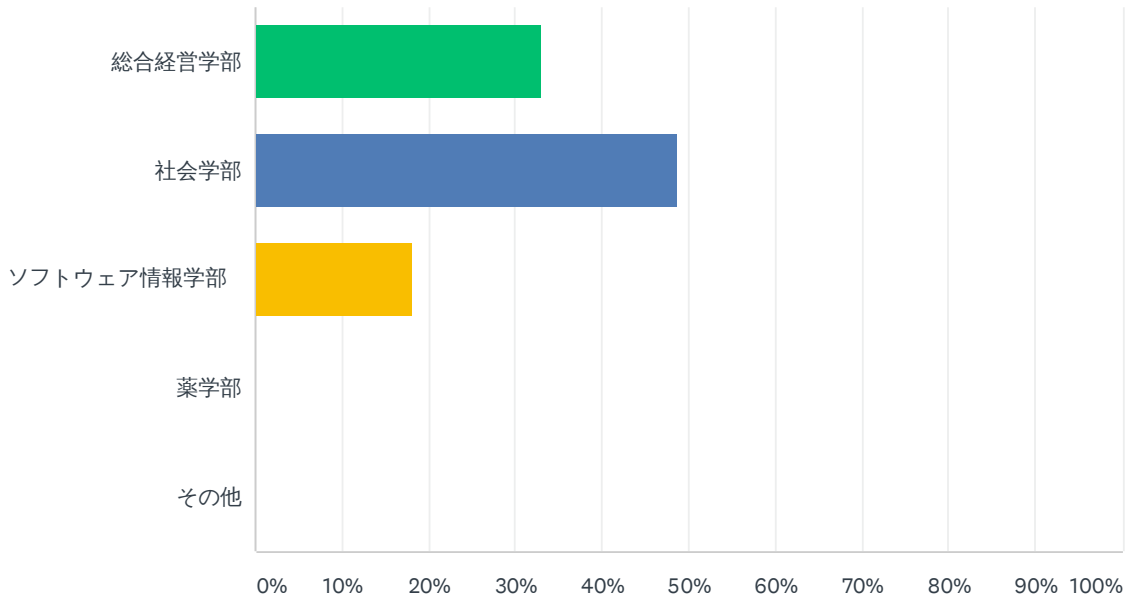
Answered: 198 Skipped: 0



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
男性	79.80%	158
女性	20.20%	40
TOTAL		198

Q12 貴方のご所属

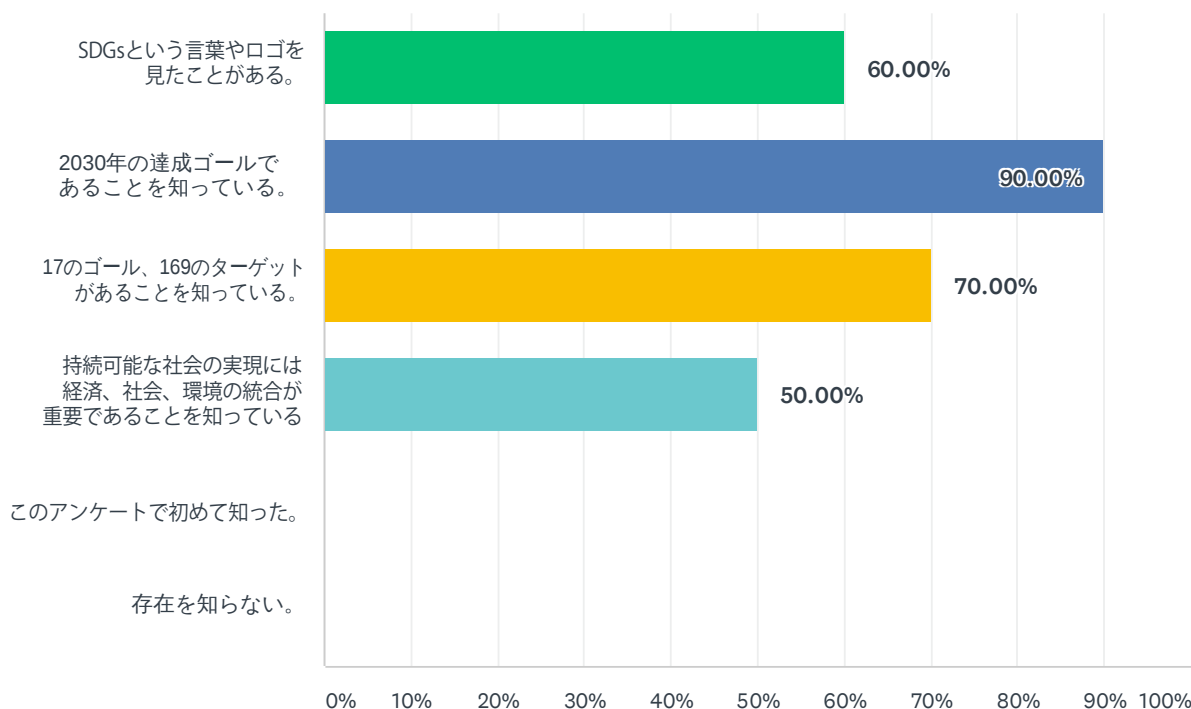
Answered: 197 Skipped: 1



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
総合経営学部	32.99%	65
社会学部	48.73%	96
ソフトウェア情報学部	18.27%	36
薬学部	0.00%	0
その他	0.00%	0
TOTAL		197

Q1 あなたのSDGsの認知度について、以下の選択肢の中から当てはまるものを全て選んでください。

Answered: 10 Skipped: 0

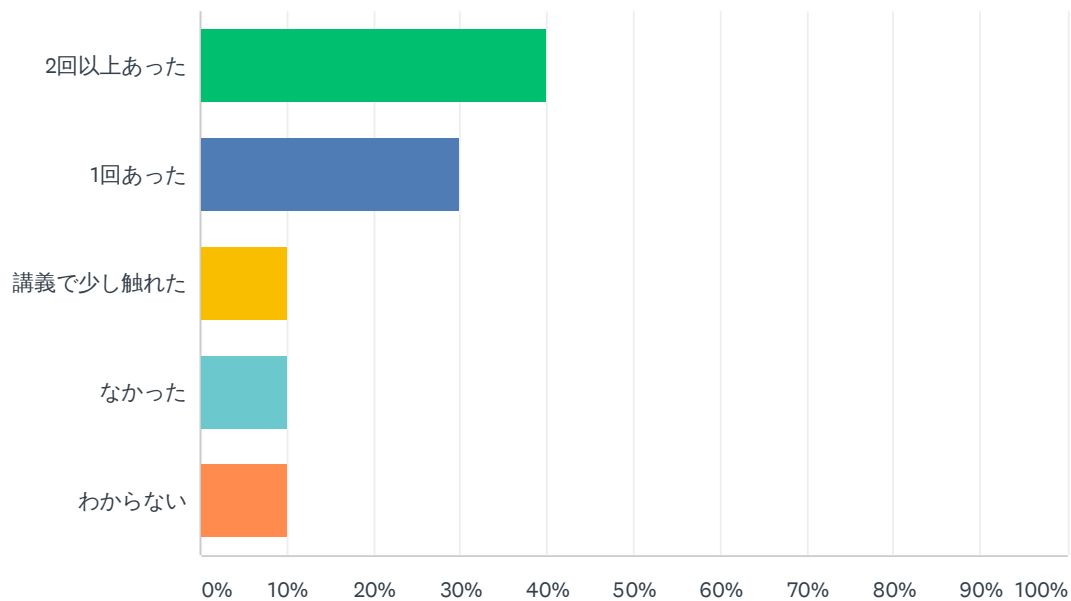


ANSWER CHOICES	RESPONSES	
SDGsという言葉やロゴを見たことがある。	60.00%	6
2030年の達成ゴールであることを知っている。	90.00%	9
17のゴール、169のターゲットがあることを知っている。	70.00%	7
持続可能な社会の実現には経済、社会、環境の統合が重要であることを知っている。	50.00%	5
このアンケートで初めて知った。	0.00%	0
存在を知らない。	0.00%	0
Total Respondents: 10		

#	上記選択肢について、以下の欄に適宜補足してください。	DATE
1	高校時代から関心があり、青森大学の講義で取り扱われていることに入学してから知ったが、非常に関心をもって学び続けている。	11/22/2019 2:59 PM
2	権利や平和などについて考えることが出来た。	11/20/2019 11:42 PM
3	大学の講義、サークル活動、SDGsイベントなどを通して知りました。サークル活動を通してSDGsを土台に様々活動もしています。	11/20/2019 11:25 AM

Q2 今回受講中の「グローバル英語」以外のSDGsに関する講義の有無について、以下の中から最も適当なものを一つ選んでください。

Answered: 10 Skipped: 0

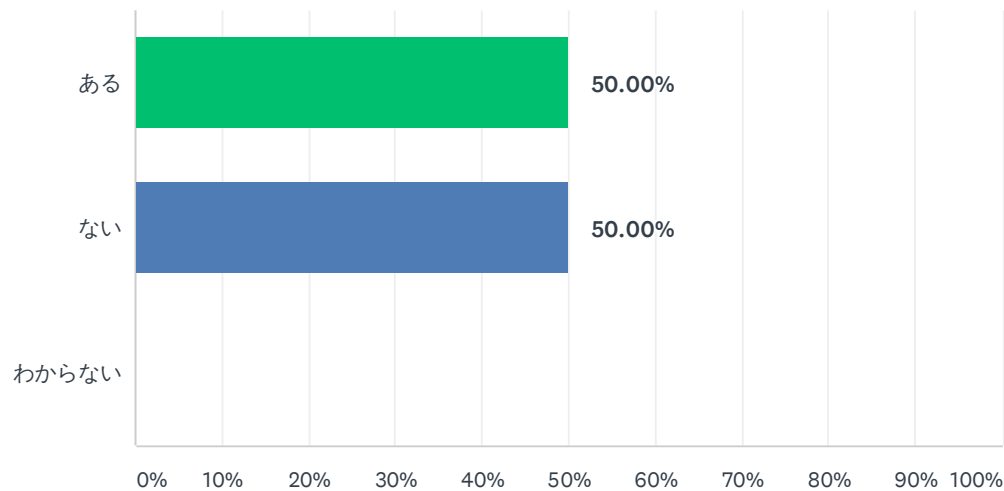


ANSWER CHOICES	RESPONSES
2回以上あった	40.00% 4
1回あった	30.00% 3
講義で少し触れた	10.00% 1
なかった	10.00% 1
わからない	10.00% 1
TOTAL	10

#	上記選択について、差し障りのない範囲で補足していただければ幸いです。	DATE
1	環境論・環社会学・グローバリゼーション論・キャリア特別実習	11/22/2019 2:59 PM

Q3 これまで、講義以外でSDGsについて自ら調べたり、行事に参加したことがありますか？以下の選択肢の中から最も当てはまるものの一つを選んでください。

Answered: 10 Skipped: 0

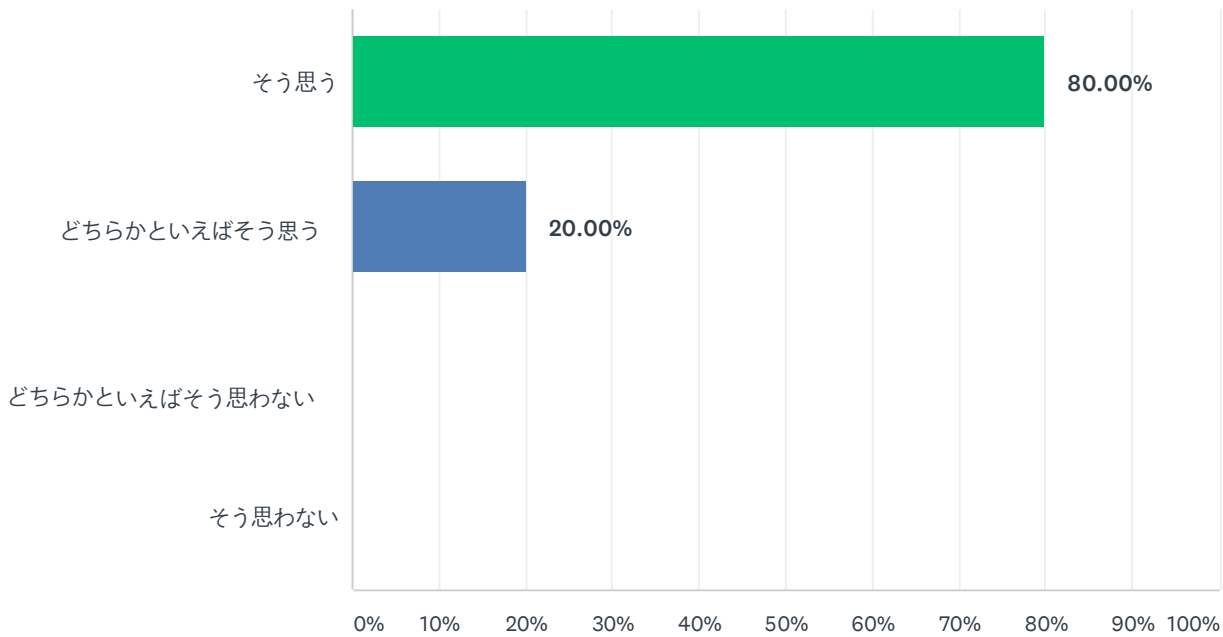


ANSWER CHOICES	RESPONSES
ある	50.00% 5
ない	50.00% 5
わからない	0.00% 0
TOTAL	10

#	上記を選んだ理由等について適宜補足してください。	DATE
1	サークル活動のテーマとして取り上げている。	11/22/2019 2:59 PM
2	青森大学でSDGsについて取り組んでいる学生の話や、県外の国際交流センターに置かれているパンフレットを見る機会があった。	11/20/2019 11:42 PM

Q4 今回の共同ゼミの参画について、積極的に関わったと自己評価しますか？

Answered: 10 Skipped: 0

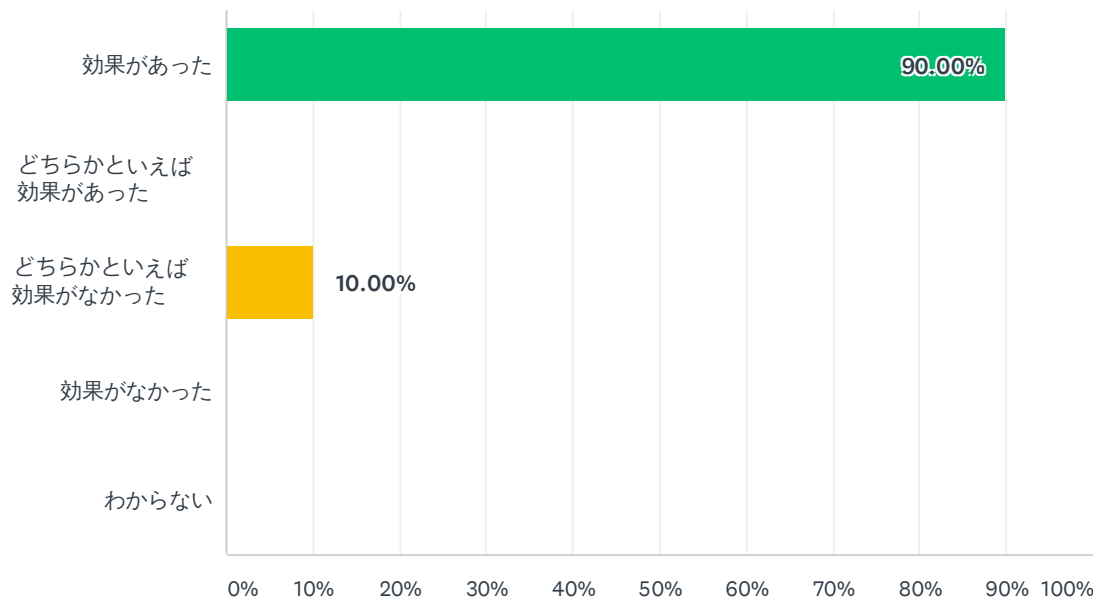


ANSWER CHOICES	RESPONSES	
そう思う	80.00%	8
どちらかといえばそう思う	20.00%	2
どちらかといえばそう思わない	0.00%	0
そう思わない	0.00%	0
TOTAL		10

#	上記を選んだ理由などを適宜補足してください。	DATE
1	最後までプログラムに向き合い、プレゼンテーションを達成することができたため。	11/22/2019 2:59 PM
2	5日間という短い時間を無駄にせず、学んだことを今後に活かしたかったから。	11/20/2019 11:42 PM

Q5 外国の方々との共同生活・作業を通じた英語学習の効果はどの程度でしたか？最も当てはまるものを以下の中から一つ選んでください。

Answered: 10 Skipped: 0

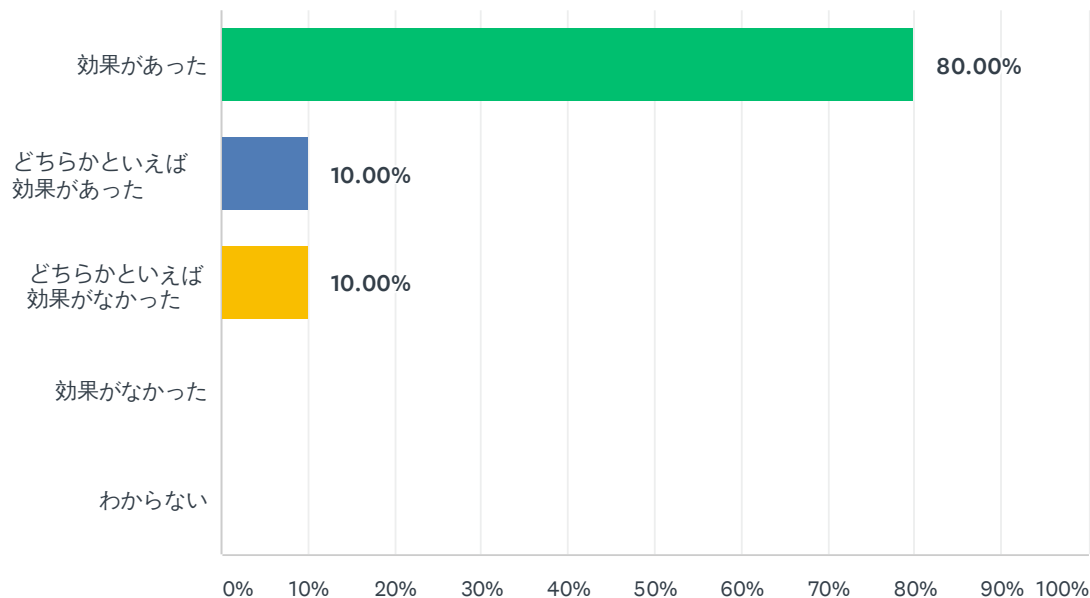


ANSWER CHOICES	RESPONSES	Count
効果があった	90.00%	9
どちらかといえば効果があった	0.00%	0
どちらかといえば効果がなかった	10.00%	1
効果がなかった	0.00%	0
わからない	0.00%	0
TOTAL		10

#	上記を選択した理由などを適宜補足してください。	DATE
1	今回のような常に英語が飛び交う環境での活動を通して、自分の英語学習への姿勢に変化を感じたから。	11/29/2019 10:51 AM
2	強烈な体験がプログラム後の英語学習のモチベーションを向上させたため。	11/22/2019 2:59 PM
3	文化の違いもある中で、「通じ合えない」よりも「伝えたい」という感情の方が強くなったと感じたから。	11/20/2019 11:42 PM
4	初日は全くと言っていいほど聞けず話せずだったが、最終日にはきちんと会話が成り立っていたように思える。会話に頻出する言葉を必要だから覚えられたと思う。	11/20/2019 11:11 AM

Q6 今回のプログラムでは、語学力の向上に加えて、外国の方々と共同作業を通して地域課題の改善について学びましたが、その学習効果について、以下の中で最も当てはまるものを一つ選んでください。

Answered: 10 Skipped: 0

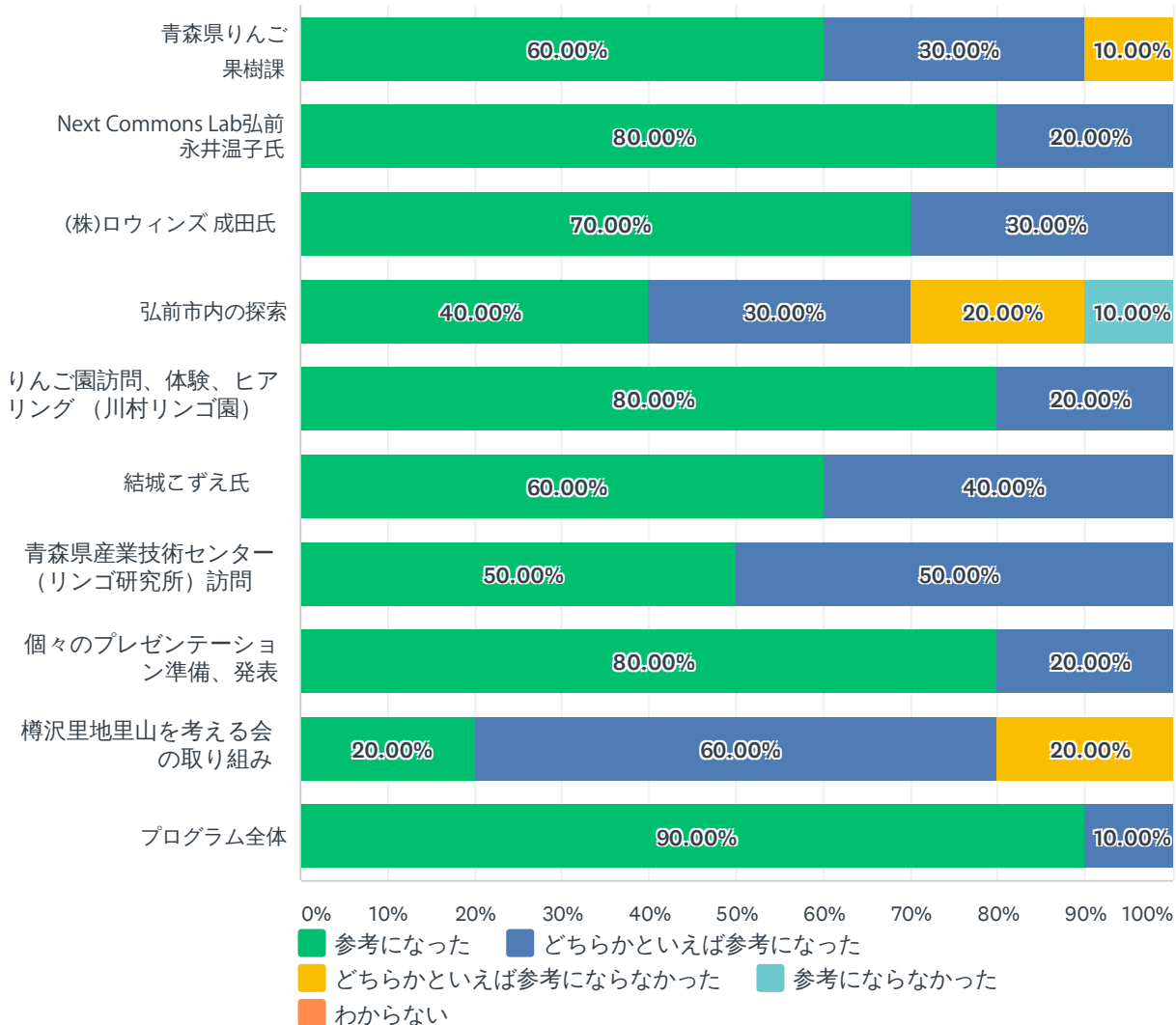


ANSWER CHOICES	RESPONSES	
効果があった	80.00%	8
どちらかといえば効果があった	10.00%	1
どちらかといえば効果がなかった	10.00%	1
効果がなかった	0.00%	0
わからない	0.00%	0
TOTAL		10

#	上記を選択した理由などを適宜補足してください。	DATE
1	英語学習と地域課題解決の両方を志す学生にとって、素晴らしい機会となったと思うから。	11/22/2019 2:59 PM
2	文化や考え方の違いが、よりよいアイデアがうまれるきっかけになった。	11/20/2019 11:42 PM
3	青森に住んでいてもりんご産業の課題になんて目を向ける機会は無かったので、初めて知ったことばかりだった。まず知れてよかった。	11/20/2019 11:11 AM

Q7 今回レクチャーや見学など様々なプログラムがありました。下記の各プログラムにおける貴方の学びの度合いについて、最も適当なものを一つ選んでください。

Answered: 10 Skipped: 0



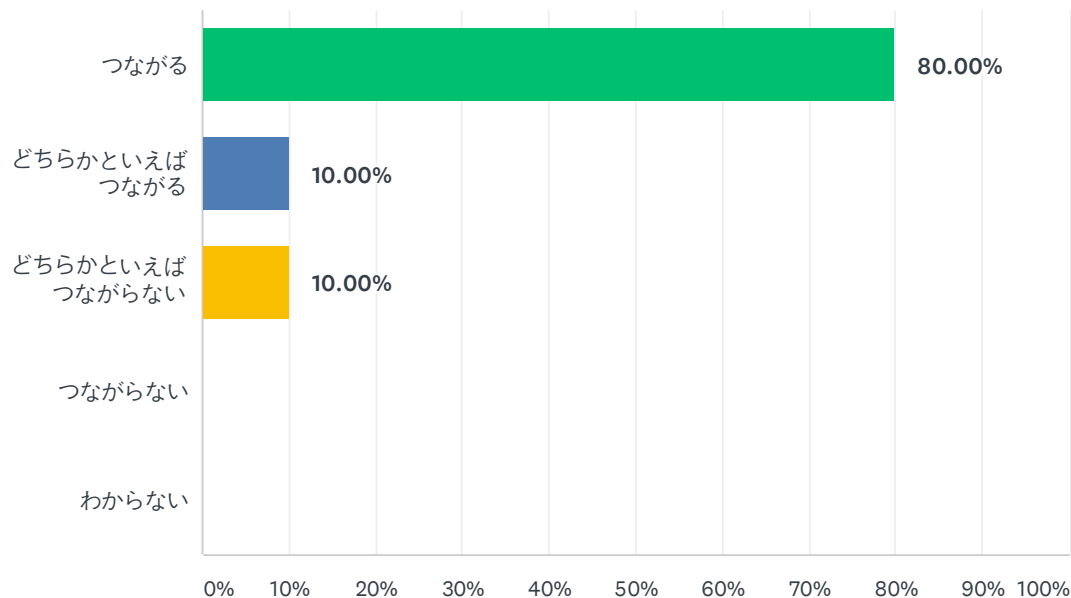
2019年度 青森大学 実践大学との共同ゼミとSDGsに関する学生アンケート

	参考になった	どちらかといえば参考になった	どちらかといえば参考にならなかった	参考にならなかった	わからない	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
ゲストスピーカー：青森県りんご果樹課	60.00% 6	30.00% 3	10.00% 1	0.00% 0	0.00% 0	10	1.50
ゲストスピーカー：Next Commons Lab弘前 永井温子氏	80.00% 8	20.00% 2	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	10	1.20
ゲストスピーカー：(株)ロウインズ 成田氏	70.00% 7	30.00% 3	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	10	1.30
弘前市内の探索	40.00% 4	30.00% 3	20.00% 2	10.00% 1	0.00% 0	10	2.00
りんご園訪問、体験、ヒアリング（川村りんご園）	80.00% 8	20.00% 2	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	10	1.20
ゲストスピーカー：結城こず氏	60.00% 6	40.00% 4	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	10	1.40
青森県産業技術センター（りんご研究所）訪問	50.00% 5	50.00% 5	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	10	1.50
個々のプレゼンテーション準備、発表	80.00% 8	20.00% 2	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	10	1.20
樽沢里地里山を考える会の取り組み	20.00% 2	60.00% 6	20.00% 2	0.00% 0	0.00% 0	10	2.00
プログラム全体	90.00% 9	10.00% 1	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	10	1.10

#	上記を選んだ理由について、可能な範囲で以下のスペースにご記入ください。	DATE
1	英語環境で地域課題を発見することができるスケジュールが整えられていたため、大変参考になった。	11/22/2019 2:59 PM
2	このプログラムに参加しないと知り得なかった情報ばかりで、様々な活動や取り組みを知ることが出来たから。	11/20/2019 11:42 PM
3	どのプログラムも知らなかったことを知れて楽しかったし、来年以降もゲストスピーカーとしてお願いするべきだと思うが、樽沢地区里地里山を考える会のお話だけはあまりよくわからなかった。あの話を聞くために浪岡まで行くべきなのかどうか。	11/20/2019 11:11 AM

Q8 地域の課題について異文化理解の視点を踏まえながら学ぶことは、貴方のSDGsの理解の向上につながるとお思いますか？最も当てはまるものを以下の中から一つ選んでください。

Answered: 10 Skipped: 0

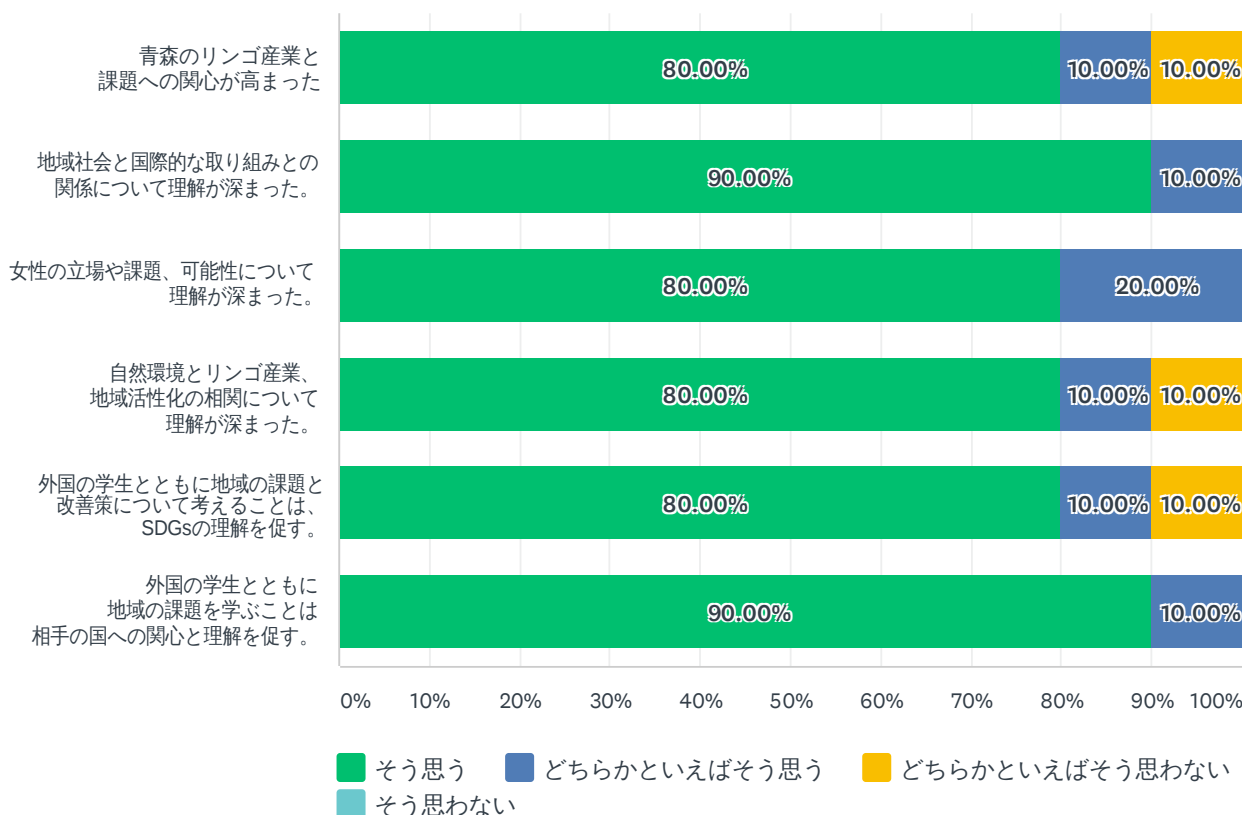


ANSWER CHOICES	RESPONSES	
つながる	80.00%	8
どちらかといえばつながる	10.00%	1
どちらかといえばつながらない	10.00%	1
つながらない	0.00%	0
わからない	0.00%	0
TOTAL		10

#	上記を選択した理由などを適宜補足してください。	DATE
1	台湾学生の発想の共有が、グローバル化による課題解決という点でSDGsの理解の向上につながると考えた。	11/22/2019 2:59 PM
2	家族でも100%わかり合うことは出来ない中で、他人や知らないことを理解しようとする姿勢が知識を増やす1つの方法だと感じるから。	11/20/2019 11:42 PM

Q9 今回のプログラムにかかる以下の学習成果について、それぞれ当 てはまるものを一つ選んでください。

Answered: 10 Skipped: 0



	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
青森のリンゴ産業と課題への関心が高まった。	80.00% 8	10.00% 1	10.00% 1	0.00% 0	10	1.30
地域社会と国際的な取り組みとの関係について理解が深まった。	90.00% 9	10.00% 1	0.00% 0	0.00% 0	10	1.10
女性の立場や課題、可能性について理解が深まった。	80.00% 8	20.00% 2	0.00% 0	0.00% 0	10	1.20
自然環境とリンゴ産業、地域活性化の相関について理解が深まった。	80.00% 8	10.00% 1	10.00% 1	0.00% 0	10	1.30
外国の学生とともに地域の課題と改善策について考えることは、SDGsの理解を促す。	80.00% 8	10.00% 1	10.00% 1	0.00% 0	10	1.30
外国の学生とともに地域の課題を学ぶことは相手の国への関心と理解を促す。	90.00% 9	10.00% 1	0.00% 0	0.00% 0	10	1.10

#	上記選択について可能な範囲で補足してください。	DATE
1	台湾の女学生が多かったことから、特に議論が女性の立場や課題に関する方向に進み理解が深まったと考える。	11/22/2019 2:59 PM
2	固定観念に縛られないことが大事だと改めて感じた。	11/20/2019 11:42 PM

Q10 異文化理解の観点は、SDGsへの関心、理解を高める上で、どのように関係していると考えますか？以下の欄に自由に記入してください。

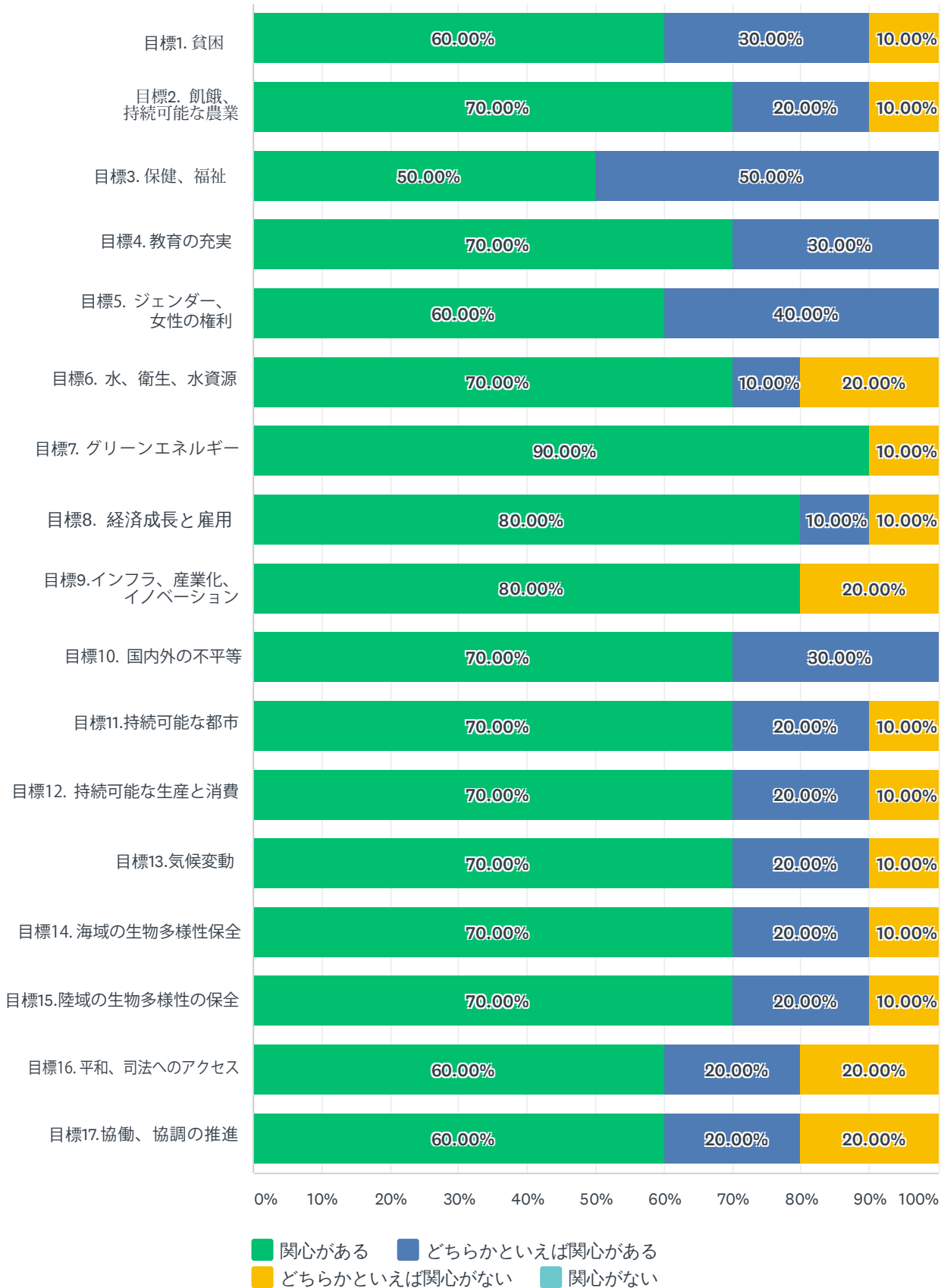
Answered: 10 Skipped: 0

#	RESPONSES	DATE
1	SDGsのどの項目について考えるにしても、異文化理解の観点は必ず関わってくるので、異文化理解の観点はSDGsへの関心、理解を高める上で必要不可欠なものだと思う	11/29/2019 10:51 AM
2	世界の共通目標・合言葉としての機能を、異文化理解の観点からアクティブラーニングを行うことによって実感できた。そのため、SDGsの関心、理解を高める上で国際交流体験は重要であると考ええる。	11/22/2019 2:59 PM
3	よく分からない	11/22/2019 9:14 AM
4	お互いの文化を尊重しつつ共通の目標であるSDGsの達成に近づくことができる。	11/21/2019 1:35 PM
5	色々な異なる文化の人たちに関心を抱き、理解することは、個々の世界観が広がり知識の幅も増え、色々な方向から物事を考える方によってSDGsについてより深く考えることができるという相乗効果があると思う。	11/21/2019 1:20 PM
6	まわりに目を向けられる、広い視野を持つための良い学び。	11/20/2019 11:42 PM
7	世界と共通でコミュニケーションの話題にできる	11/20/2019 1:33 PM
8	SDGs No. 17Partnership For the Goals	11/20/2019 11:25 AM
9	日本で報じられる問題だけが全てじゃないと思えるきっかけになると思う。日本よりも他国の方が深刻な問題を抱えていると思うので、それを目の当たりにして初めて心動かされる人もいると思う。	11/20/2019 11:11 AM
10	違う国の文化や言葉に触れることで、広い視野で物事を見ることができるようになり、SDGsを違う角度からも考えられるようになると思った	11/20/2019 10:12 AM

Q11 下記のSDGs17項目に対するあなたの関心の度合いについて、それぞれ最も適切な選択肢を選んでください。(各目標の外部リンク先には解説と動画があります)

Answered: 10 Skipped: 0

2019年度 青森大学 実践大学との共同ゼミとSDGsに関する学生アンケート

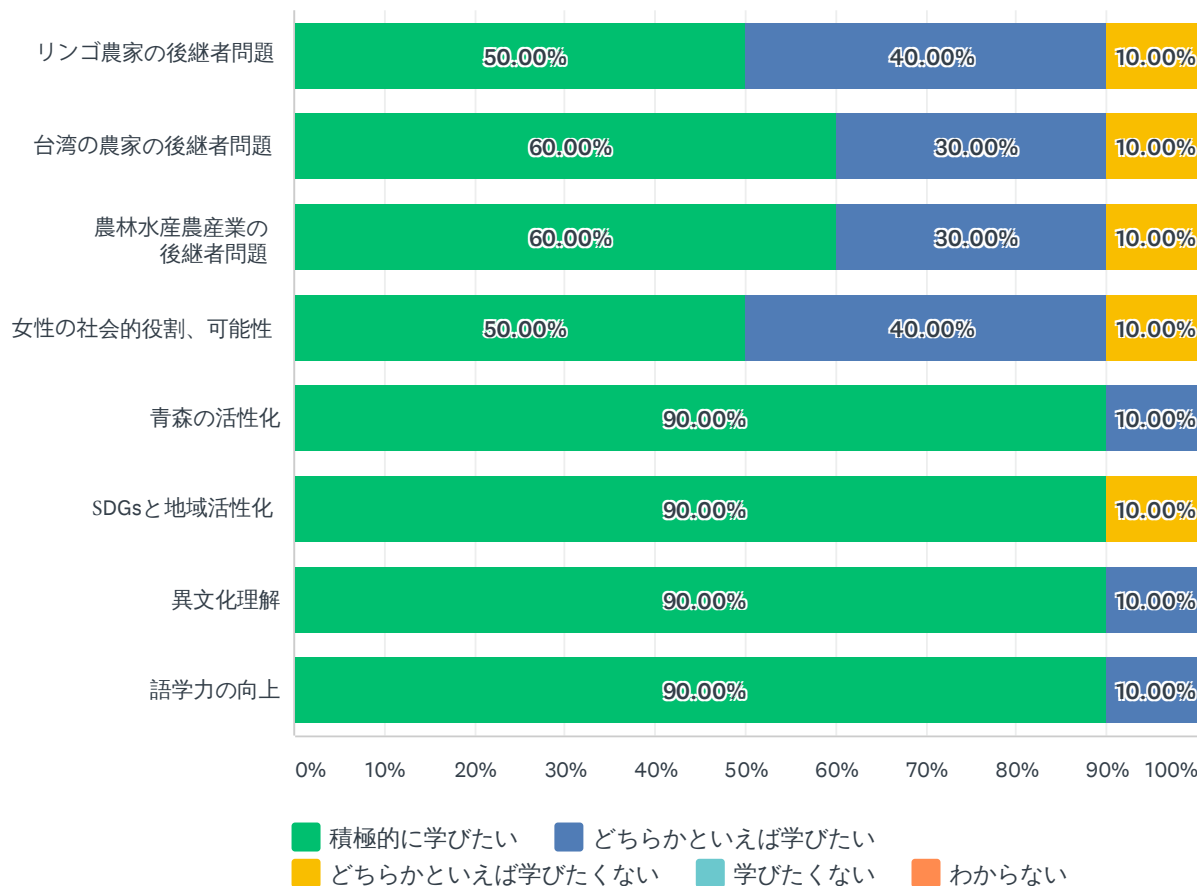


2019年度 青森大学 実践大学との共同ゼミとSDGsに関する学生アンケート

	関心がある	どちらかといえば関心がある	どちらかといえば関心がない	関心がない	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
目標1. 貧困 https://sdgs.tv/tg_mov/goal1	60.00% 6	30.00% 3	10.00% 1	0.00% 0	10	1.50
目標2. 飢餓、持続可能な農業 https://sdgs.tv/tg_mov/goal2	70.00% 7	20.00% 2	10.00% 1	0.00% 0	10	1.40
目標3. 保健、福祉 https://sdgs.tv/tg_mov/goal3	50.00% 5	50.00% 5	0.00% 0	0.00% 0	10	1.50
目標4. 教育の充実 https://sdgs.tv/tg_mov/goal4	70.00% 7	30.00% 3	0.00% 0	0.00% 0	10	1.30
目標5. ジェンダー、女性の権利 https://sdgs.tv/tg_mov/goal5	60.00% 6	40.00% 4	0.00% 0	0.00% 0	10	1.40
目標6. 水、衛生、水資源 https://sdgs.tv/tg_mov/goal6	70.00% 7	10.00% 1	20.00% 2	0.00% 0	10	1.50
目標7. グリーンエネルギー https://sdgs.tv/tg_mov/goal7	90.00% 9	0.00% 0	10.00% 1	0.00% 0	10	1.20
目標8. 経済成長と雇用 https://sdgs.tv/tg_mov/goal8	80.00% 8	10.00% 1	10.00% 1	0.00% 0	10	1.30
目標9. インフラ、産業化、イノベーション https://sdgs.tv/tg_mov/goal9	80.00% 8	0.00% 0	20.00% 2	0.00% 0	10	1.40
目標10. 国内外の不平等 https://sdgs.tv/tg_mov/goal10	70.00% 7	30.00% 3	0.00% 0	0.00% 0	10	1.30
目標11. 持続可能な都市 https://sdgs.tv/tg_mov/goal11	70.00% 7	20.00% 2	10.00% 1	0.00% 0	10	1.40
目標12. 持続可能な生産と消費 https://sdgs.tv/goal12	70.00% 7	20.00% 2	10.00% 1	0.00% 0	10	1.40
目標13. 気候変動 https://sdgs.tv/tg_mov/goal13	70.00% 7	20.00% 2	10.00% 1	0.00% 0	10	1.40
目標14. 海域の生物多様性保全 https://sdgs.tv/tg_mov/goal14	70.00% 7	20.00% 2	10.00% 1	0.00% 0	10	1.40
目標15. 陸域の生物多様性の保全 https://sdgs.tv/tg_mov/goal15	70.00% 7	20.00% 2	10.00% 1	0.00% 0	10	1.40
目標16. 平和、司法へのアクセス https://sdgs.tv/tg_mov/goal16	60.00% 6	20.00% 2	20.00% 2	0.00% 0	10	1.60
目標17. 協働、協調の推進 https://sdgs.tv/tg_mov/goal17	60.00% 6	20.00% 2	20.00% 2	0.00% 0	10	1.60

Q12 今回のプログラムで得た下記の知見やスキルについて、今後どのように向上させたいでしょうか？各項に最も当てはまるものを一つ選んでください。

Answered: 10 Skipped: 0



	積極的に学びたい	どちらかといえば学びたい	どちらかといえば学びたくない	学びたくない	わからない	TOTAL	WEIGHTED AVERAGE
リンゴ農家の後継者問題	50.00% 5	40.00% 4	10.00% 1	0.00% 0	0.00% 0	10	1.60
台湾の農家の後継者問題	60.00% 6	30.00% 3	10.00% 1	0.00% 0	0.00% 0	10	1.50
農林水産業の後継者問題	60.00% 6	30.00% 3	10.00% 1	0.00% 0	0.00% 0	10	1.50
女性の社会的役割、可能性	50.00% 5	40.00% 4	10.00% 1	0.00% 0	0.00% 0	10	1.60
青森の活性化	90.00% 9	10.00% 1	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	10	1.10
SDGsと地域活性化	90.00% 9	0.00% 0	10.00% 1	0.00% 0	0.00% 0	10	1.20
異文化理解	90.00% 9	10.00% 1	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	10	1.10
語学力の向上	90.00% 9	10.00% 1	0.00% 0	0.00% 0	0.00% 0	10	1.10

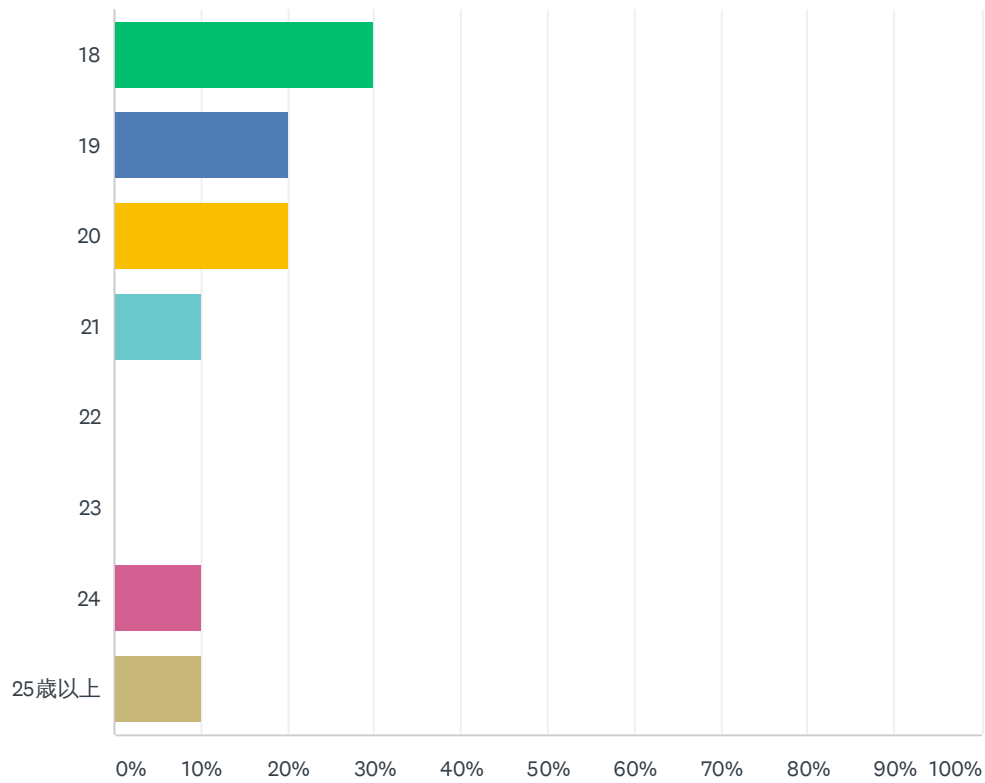
Q13 最後に、今回のグローバル英語の感想や、自己の変容や展望などについて、以下の欄に可能な範囲で記述してください。

Answered: 9 Skipped: 1

#	RESPONSES	DATE
1	今回のグローバル英語を受講する前は、そもそものプログラムの効用や全容をうまく把握できていなかったが、実際に体験してみて非常に高度な学習であることがわかった。台湾の学生と自分自身との間に存在する積み上げてきたものの差を痛感しながら、それでも関わっていこうというという主体性の萌芽を自己の変容として持ち帰ることができた。今後はこの経験を地域課題に関する論文やワークショップでアウトプットできるように大切にしていきたい。	11/22/2019 2:59 PM
2	おもっていたよりむずかしかった。ただただ自分の英語の能力の低さを感じた。	11/22/2019 9:14 AM
3	英語を使う機会が今まで無かったので、実際に話してみると更に理解が深まった。	11/21/2019 1:35 PM
4	今回のグローバル英語で自分の可能性を見出せた機会だと感じた。また、環境が変わるだけでこうも自分の考え方が変わるのかとつくづく感じた。そして、違う言語同士の人々が第二言語で話して、コミュニケーションを取るという魅力にも気づくことができた。しかし、今の自分の実力では自分の考えをそのまま言葉で表すことができない。言葉が通じないというのはこんなにも苦痛だということに初めて気がついた。せっかく大学に入ったのだからいろんなことに挑戦してみたいと強く思った体験でもあった。このグローバル英語を通して少しは英語力が向上したが、それはほんのすこしだと思う。これは初期段階に過ぎず、これからもっとレベルアップを図りたいと思った。	11/21/2019 1:20 PM
5	考えることが多い充実した5日間だった。言語の壁がありながらも、異文化理解の大切さを学ぶことが出来た。ゲストスピーカーの方々やSDGsが結び付いたことで、より『これから』を考えるきっかけを学んだ。	11/20/2019 11:42 PM
6	とてもたのしかったです！	11/20/2019 1:33 PM
7	異文化の理解、Active English Learning, SDGs Goals全てのものが一つのセミナーで学べる貴重な機会くださってありがとうございました。	11/20/2019 11:25 AM
8	今まで全く関することの無かった台湾人との交流をもてた訳だが、文化の違いや言葉が同じでも意味が違ったことなどに驚いた。言葉が通じれば楽しいし、外国語にも興味をもてる	11/20/2019 11:11 AM
9	あまり英語を話せなくても相手とのコミュニケーションは意外となんとかなると感じた。しかし、それだけではどうしても伝わらないこともあるので、英語を本当に理解して話せるようになりたい。	11/20/2019 10:12 AM

Q15 貴方の年齢

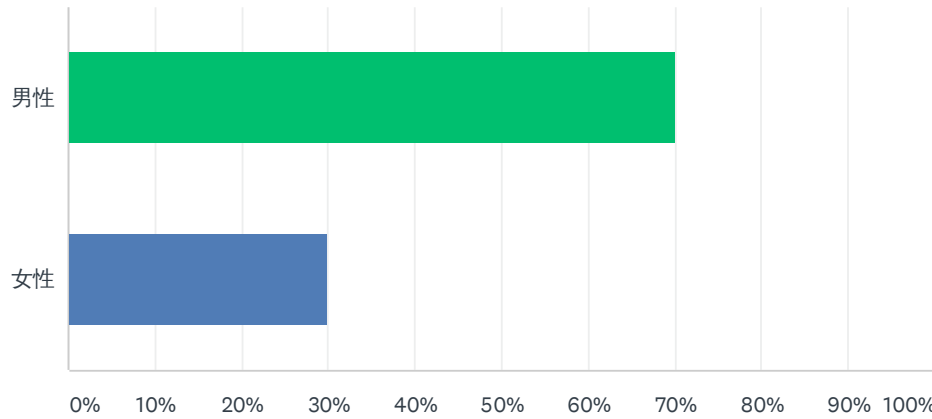
Answered: 10 Skipped: 0



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
18	30.00%	3
19	20.00%	2
20	20.00%	2
21	10.00%	1
22	0.00%	0
23	0.00%	0
24	10.00%	1
25歳以上	10.00%	1
TOTAL		10

Q16 性別

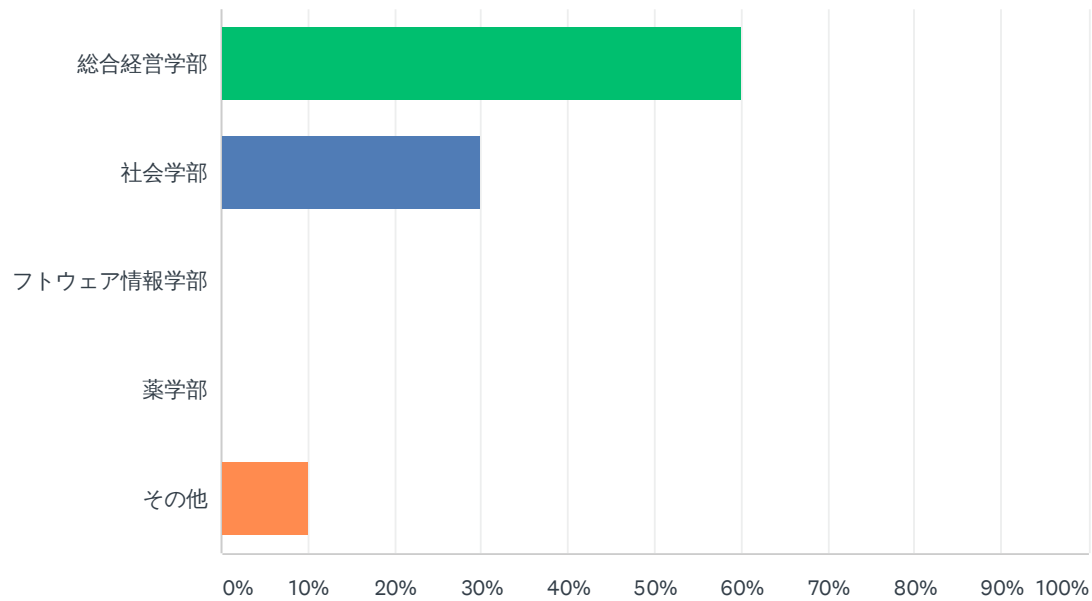
Answered: 10 Skipped: 0



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
男性	70.00%	7
女性	30.00%	3
TOTAL		10

Q17 貴方のご所属

Answered: 10 Skipped: 0



ANSWER CHOICES	RESPONSES	
総合経営学部	60.00%	6
社会学部	30.00%	3
ソフトウェア情報学部	0.00%	0
薬学部	0.00%	0
その他	10.00%	1
TOTAL		10

観点		能力	達成水準				
1 生涯をかけて学び続ける力	社会の発展や自身の成長に応じて、広い関心と知的好奇心を持って、新たな価値創造や学習経験等の必要性に気づき、専門分野に限定せずに広い視野で、他者と協働しながら自らの学修を主体的・継続的に進めることができる。	1A 自主的に学ぶ力	1A0	1A1	1A2	1A3	1A4
			具体的な指示がなければ、情報を収集し、文章や図表を読み取ることができない。	具体的な指示がなくとも、情報を収集し、文章や図表を読み取ることができる。	適切な方法で情報を収集し、目的に応じて整理し、又は蓄積することができる。	複数の情報を基に、課題解決に向けて、図表の作成、例示や提案を行うことができる。	複数の情報を俯瞰して、問題の本質を捉え、現実的な課題解決策を提案することができる。
		1B 学修を継続する力	1B0	1B1	1B2	1B3	1B4
			指示がなければ、学修行動を開始し、継続することができない。	指示されたことに自分の考えを加えて、学修行動を開始し継続することができる。	指示がなくとも、自発的に学修行動を開始し継続することができる。	目標を立てて、その達成に向けて、学修行動を開始し継続することができる。	目標に応じて、過去の学修行動を振り返り、自身に合った方法で学修行動を改善し継続することができる。
2 人とつながる力	将来の地域社会を担う主体となることの自覚を持って、自分の考えを効果的に表現するとともに、他者に共感し、敬意を払って対話でき、社会の人々と新たな信頼関係を築きながら、協働することができる。	2C 信頼を築く力	2C0	2C1	2C2	2C3	2C4
			自分の感情をうまく制御できず、相手の立場に立った行動をすることができない。	相手の立場や気持ちを理解しようとする心がけ、穏やかな態度で接することができる。	初対面の相手でも自ら話しかけるなど、信頼関係を築こうとすることができる。	緊張する場面でも、自らの心を落ち着かせて、相手を気遣うことができる。	目的に応じて、自分の考えや気持ちを率直に表現し、相手の信頼を得ることができる。
		2D 協働する力	2D0	2D1	2D2	2D3	2D4
			他の人と一緒に取り組んだり、議論したりすることがうまくできない。	チームの中で自分の役割を理解し、自分の考えを述べるができる。	チームの目標に向けて、他のメンバーと相談して行動することができる。	チームの状況を観察し、チームのメンバーに対し気配りや働きかけを行うことができる。	個々の多様性を活かして、チームのメンバーに対し働きかけ、目標が達成されるよう、貢献することができる。
		2E 表現する力	2E0	2E1	2E2	2E3	2E4
			伝えたいことをまとめ、表現することができない。	自分本位の方法で、伝えたいことをまとめ、表現することができる。	書く・話す・話し合いのマナーやルールに従って、伝えたいことを表現することができる。	相手の状況に合わせて、伝える内容や方法を調整して表現することができる。	相手の立場や関心に合わせて、敬語や比喩などを用いて、分かりやすく表現することができる。
観点		能力	達成水準				
3 自分自身を見据え、確かめる力	将来を展望しつつ、自らの学修活動を計画し、その実践を多面的に振り返り、社会において自ら果たすべき責任を自覚し、自身の能力・資質の成長を確認するとともに、新たな課題を発見し、改善策を見出す活動ができる。	3F 課題を発見する力	3F0	3F1	3F2	3F3	3F4
			主観にこだわり、情報を客観的に捉えることができない。	集めた情報を客観的に整理しようと努めることができる。	情報を集め、一つの仮説を立てることができる。	集めた情報を組み合わせ、複数の仮説を立てることができる。	複数の仮説の優先順位を考へて、現実の課題解決につなげることができる。
		3G 計画を策定する力	3G0	3G1	3G2	3G3	3G4
計画を立てて取り組むことができない。	目標と計画をおおまかに立て、取り組むことができる。		条件が示されれば、成果や発生する問題を予測することができる。	過去の経験に照らして、新たな計画を立てることができる。	困難な事態を予想するなど、現実的で妥当な計画を立てることができる。		
	3H 目標に向けて成し遂げる力	3H0	3H1	3H2	3H3	3H4	
		やるべきことがあっても、取り組むことができない。	自分なりに工夫しながら、前向きに取り組むことができる。	目標を意識して、初めてのことに楽しんで取り組むことができる。	予想外の事態でも、目標を見失わず、対策を考へて行動することができる。	目標達成のために進捗状況を確認し、失敗からも学んで、行動を修正することができる。	
4 専門的知識・技能を活用する力	各学位プログラムの基礎と応用に関する知識・技能を修得し、それらを活用して、課題解決等の実践的活動を計画し、倫理的規範を守って行動することができる。	4I 基礎的知識・技能の理解 (Idea)	4I0	4I1	4I2	4I3	4I4
			何が基礎的な知識・技能なのか、分からない。	基礎的な知識・技能が一通り分かる。	基礎的な知識・技能の重要な要素を理解し、特定することができる。	基礎的な知識・技能を正確に記述し又は正しく表現することができる。	基礎的な知識・技能について、原理から応用まで所定の手順でたどり、解を示すことができる。
		4J 知識・技能の修得 (Connections)	4J0	4J1	4J2	4J3	4J4
知識・技能の修得に必要な情報を見分けることができない。	知識・技能の修得に必要な情報を取捨選択することができる。		知識同士又は技能同士を正しく関係づけることができる。	図解や文章表現、実験などにより、具体例を提示し説明することができる。	学んだ知識や技能に関し、新たな問や仮説を立てることができる。		
	4K 知識・技能の活用 (Extensions)	4K0	4K1	4K2	4K3	4K4	
		手順書や他者の指示があっても、知識・技能を活用することができない。	手順書や他者の指示を守って知識・技能を活用することができる。	手順書や他者の指示に従うだけでなく、現実の状況を踏まえ、実行可能な代替案を考へることができる。	プロセス全体を俯瞰して、成果を予測しながら、目標達成に向けて行動することができる。	達成状況を振り返り、改善を加えながら目標達成に向けて行動することができる。	